

わたしの^{せいしよ}聖書が^{いちばん}一番！ ^{かん}7巻

^{かみさま}神様からの^{うれ}嬉しい^{おく}贈りもの～^{つみびと}罪人の^{とも}友、イエス

～ルカによる^{ふくいんしよ}福音書^{しやう}1章 - マルコによる^{ふくいんしよ}福音書^{しやう}2章～





もくじ

だい しょう	かみさま	うれ	おく	第1章 神様からの嬉しい贈りもの	1
だい しょう	とくべつ	ひみつ	てんし	第2章 特別な秘密をたずさえてきた天使	9
だい しょう	とも	かみさま		第3章 共におられる神様	17
だい しょう	ほし			第4章 星にみちびかれて	25
だい しょう	しょうねん			第5章 少年イエス	33
だい しょう		もはん		第6章 わたしたちの模範、イエス	41
だい しょう		ゆうわく		第7章 3つの誘惑	49
だい しょう	でし	め		第8章 弟子をお召しになるイエス	57
だい しょう		みやきよ		第9章 イエスの宮清め	65
だい しょう	し	いた		第10章 死に至るまで	73
だい しょう	こぼ	ぬし		第11章 拒まれたいやし主	81
だい しょう	おし			第12章 教えといやし	89
だい しょう	つみびと	とも		第13章 罪人の友、イエス	97

だい しょう 第1章

かみさま 神様からの嬉しい贈りもの

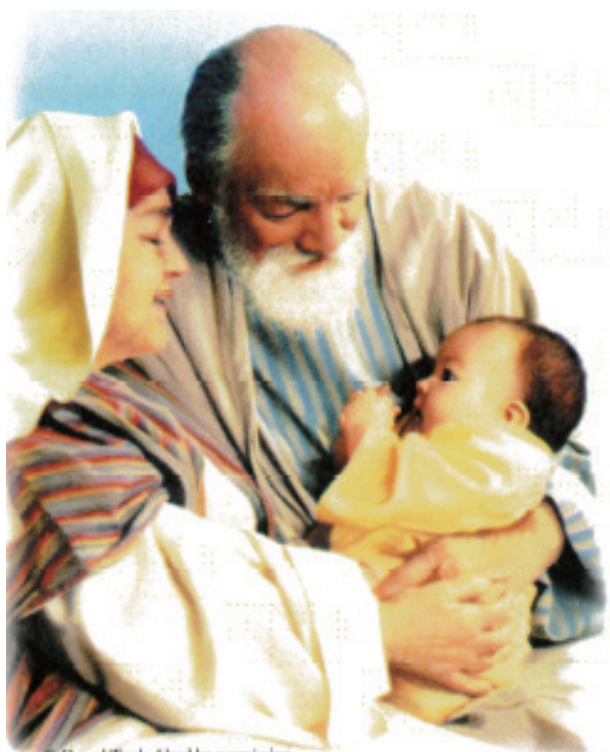


子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

しゅ みち そな みちすじ
「主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ。」

マタイ 3:3



© David Tanzi. Used by permission.

にちようび 日曜日

せいしょでいちばんものがたりおぼ
聖書に出てくる一番はじめの物語を覚
えていますか？それは、聖書のどの
書に書かれていましたか？たしか、一番はじめ
の書ですね。その書の名前は何でしょう
か？それは創世記です。

わたしたちは、それらの物語から、神の子
であられるイエス様が、この世界とその中に

あるすべての物をお造りになったことを学び
ました。また、サタンのことや、罪がどのよ
うにして始まったのかも勉強しました。そし
て、罪が必ず死をもたらすことを学んだはず
です。

アダムとエバが、わたしたちの愛の神様を
信じてたよることをせずに、サタンのひどい
嘘を信じることを選んだときに、彼らも罪を
犯してしまいました。その時から、すべての
人が罪を犯すようになったのです。わたした
ちは、生まれつきわがままで、自分勝手に
す。もし神様が人間を救うためのすばらしい
計画を立てて下さらなかったなら、わたした
ちは永遠に滅んでしまったことでしょう。けれ
ども、そのすばらしい計画のおかげで、たと
え間違ったことをしてしまったとしても、だれ
も永遠に死ななくてよいのです。

だれも神様の律法を守ることはできない、
とサタンは言いました。彼は、自分の言うこ
とを聞けば幸せになれるのだと言いました。
それは本当でしょうか？いいえ。それはひど
い嘘です。サタンの言うことを聞いて、最後
に幸せになれる人などひとりもいません。

わたしたちを救うための神様の愛のご計画

において、イエス様は人間
 となることを約束なさいま
 した。そして、神様の助け
 によって、人々がすばらし
 い十戒にしたがうことがで
 きることを、イエスさまは
 ひとりの人間として示すこ
 とにしました。わたしたち
 が永遠に死ななくてもいい
 ように、イエス様はわたし
 たちのために死ぬおつもり
 でした。ヨハネ 3:16。



げつようび 月曜日

神様はなぜ、ご自分
 の民に、礼拝の
 儀式において、罪のない
 小羊を犠牲としてささげる
 ように教えたのでしょうか？
 それは、いつかイエス様が
 ほんもの神の小羊として、彼
 らのために死ぬために来ら

れる約束をいつも彼らに覚えていてほしい
 と、神様が願っておられたからです。小羊
 をささげるたびに、彼らは、自分たちのた
 めに死んで下さるイエス様のことを深く
 考えることになっていました。

神様の民は、イエス様が来られるのを
 待っていました。彼らはイエス様のことを
 「メシヤ」と呼びました。それは「救い
 主」という言葉と同じ意味です。彼らはイ
 エス様がもうすぐ来られると信じていまし
 たが、そのことをどうやって知ったのでしょ
 う？

彼らがそのことを知っていたのは、
 何百年も前に、神様がイエス様について
 の特別なメッセージを預言者たちに授け
 ていたからでした。神様は、預言者のひ
 とりであるダニエルに、「メシヤ」はある
 定められた長い期間の後に現れること、
 またその定められた期間がいつ始まり、
 いつ終わるのかもお告げになりました。ダ
 ニエル 9:25。

さて、その400年以上もの定められた
 長い期間が、終わりに近づいていました。

さて、自分の罪を悲しんでイエス様を
 選ぶ人はだれでも、イエス様のように生き
 ることができるよう、彼に助けを求めること
 ができます。そのような人たちは、たと
 え死んだとしても、永遠に死ぬのではありません。
 いつの日か、イエス様がふたたび来られて、
 彼らをよみがえらせ、命をお
 与えになります。イエス様ご自身が、命に
 よみがえらされたように。

約束なされたとおりに、いよいよイエス様
 がこの地上で、人間としての生涯を始め
 られる時がせまっていました。すべての
 天使が待ちのぞんでいます。他世界のす
 べての人々が見ています。では、神様の
 民もその時を待ちのぞんで、見はって
 いましたか？そのことは、明日お勉強いたし
 ましょう。

考えてみよう: もしだれかに、わたしたち
 を救う神様のご計画についてたずねられたら、
 あなたは何と答えますか？

そしてもちろん、ダニエルの預言を理解していた人々は、いよいよ「メシヤ」の現れる時が来たのを知っていました。

考えてみよう: もしも、イエス様が来られるのがもうすぐだということをあなたが知っていたなら、そのことを心待ちにしたと思えますか? このダニエルの預言には、本当におどろかされます。あなたもいつか、この預言をもっと学んでみてくださいね。

かようび 火曜日

いよいよ、イエス様の来られる時が近づいていました。世界のほとんどの人々は、イエス様を礼拝していませんでした。そしてユダヤ人の中でも、ごくわずかな人たちだけが「メシヤ」について知っていましたが、ほとんどのユダヤ人は、そのことを正しく理解していませんでした。彼らはもういちど、ダビデやソロモンの時代のように、自分たちが強くて偉大な国民になることを望んでいました。しかし、その思いもむなしく、今や、強大なローマ帝国に支配されている始末です。当然ながら、彼らはそのことがくやしくてたまりませんでした。

預言者は、メシヤについてすでにたくさんのかたのことを語っていて、その預言は、なぜ彼が来られるのか、いつどこでお生まれになるのか、そしてどのような死に方をするのか、ということも示していました。ところがほとんどの人は、これらの重大な事件について考えようとしませんでした。

ある人たちは、神様がユダヤ人を愛す

るのは、彼らがアブラハムの子孫であるからだと考えました。また、自分たちは神様の十戒にしたがっているのに、神様から特別に気に入られていると考え、必要なのはただ、敵であるローマの支配から自分たちを救い出してくれる強い王だけだと、かたく信じていました。

しかし彼らは、世界中でもっともむごい敵であるサタンから解放されることが、彼らにとって一番必要なことだとは理解しませんでした。なぜイエス様が来られるのかを人々にわからせるために、神様はあの人物を必要としておられました。そして神様は、すでにその人物を選んでおられました。

ザカリヤは信仰深い祭司で、妻のエリサベツと、ユダの山間部にくらしていました。ふたりとも年老いており、子供はいませんでした。神様から与えられた数々の預言をよく知っていた彼らは、メシヤが来られる時が間近であることを知っていました。**ルカ 1:5-7。**

年老いたこのふたりを神様がどのように用いられるのかについては、明日お勉強いたしましょう。

考えてみよう: わたしたちは、ただ教会に行き、自分たちがクリスチャンであるだけで、サタンから安全に守られますか? 理由もいっしょに、答えを考えてください。

すいようび 水曜日

祭司のザカリヤは、
神殿の礼拝の手伝い
をする当番で、エルサレムに
きていました。その彼に、驚
くべきことが起こったのです。



ルカ 1:8-11。

ザカリヤは、こわくなりました。天使が
良い知らせを持ってくるときには、祭壇の
右側に立つということを忘れていたからで
す。天使は、ザカリヤと妻とのあいだに男
の子が生まれることと、彼にヨハネという
名前をつけるようにと伝えました。12-14
節。

それから天使は、ヨハネの育て方につ
いて話しました。人々がイエス様を迎える
準備をする手助けをするために、ヨハネ
は聖霊に満たされるであろう、と天使は言
いました。多くの人が自分の罪を悲しみ、
変えられることを選ぶのでした。15-17
節。

ザカリヤは天使が話すのを聞きました
が、本当にそんなことが起こるのか、す
ぐには信じられませんでした。彼もエリサ
ベツも、子供を生むにはもう年をとりすぎ
ています。そんなことが起こるなどと、ど
うして信じられるでしょう？天使ガブリエル
は、このことについて、ザカリヤに何かし
るしを与えましたか？18-20節。

庭にいる人たちは、だんだん不安になっ
てきました。どうしてザカリヤは、なか
か聖所から出てこないのだろう？あまりに

もおそい!とっていました。
ようやくザカリヤが出てくる
と、何かいつもとは違うこと
が起きたのがわかりました。
話そうとしても、かれの口か
らは言葉がでてこないの
です。21,22節。

神殿での務めを終えらるとす

ぐに、ザカリヤは家へと急ぎました。まだ
話すことができなかつたので、自分の話し
たい事をすべて書かなくてはなりません
でした。

エリサベツが、どれほど喜びに胸をふ
るわせたか、想像できますか？彼らの間
に子供が生まれて、その子は神の民の
ために、特別な働きをするというのです。
お友だちも、いっしょに喜んでくれたこと
でしょう。57,58節。

考えてみよう：年をとってから子供が与
えられた人物を、他に知っていますか？そ
れはだれでしたか？

もくようび 木曜日

よいよ子供が生まれ、その子に
名前をつける日になりました。集
まった人たちは皆、父親の名をとってザカ
リヤとすべきだ、と考えました。ところが、
エリサベツは彼らに何と言いましたか？ル
カ 1:60。

ヨハネですって？どうしてそんな名前
にするのだろう？そのような名前の人は、
親戚にはひとりもいません。ザカリヤにた
ずねると、何が起きましたか？61-64節。

あつ ひと
集まった人たちは、このヨハネが
かみさま とくべつ えら
神様から特別に選
ばれた子であることを
し
知りました。そし
て、かれ せいちよう
彼が成長して
いくようすを見て、
やはり、かみさま
神様がと
ても重要な働きを
けいかく
計画しておられる
ことがわかりました。

65,66 節。

ヨハネは大きくなるにつれて、ひとびと
シヤを迎える準備をさせるために、自分
が選ばれたことを悟りました。神様ご自身
が、そうおっしゃったのです。76,79 節。

ヨハネは、ふつうの学校へは行かずに、
家庭で学びました。そして大人になると、
ごつごつしたいわやまや、谷、ほら穴のある
荒野に住むことを選びました。彼は、この
ような生活が楽でないことをよく知って
いましたが、悪いことを毎日見たり聞いたり
するようなところに住んではいけないこと
もわかっていました。イザヤ 40:3,4 を読

んで、ヨハ
ネがこれか
ら何をする
のかについ
て、神様が
おっしゃっ
たことを見
てみましょ
う。

ヨハネ



は、偉い人たちが旅をする前
に、道路の悪いところを工事し
てなおす人のような役割が与え
られていました。イエス様が働
きを始められる前に、ヨハネは
道路工事をする人たちのように
先に出て行って、人々がするべ
きことを教えるのです。そうすれ
ば、のちにイエス様がお語りにな
るみ言葉は、人々の心に入っ
ていくことができるのです。

いよいよ、ヨハネがこの大切な働きを
始めようという時、彼は何と言いましたか？
また、どんな服装をしていましたか？**マ
イ 3:1-4**。

神様は、ご自分の民が、助けを必要
としているのをご存知でした。人々は、
神様についても、ほかの多くの重要なこと
についても、まちがった考えをいだいて
いました。教師たちが、正しくないことを教
えつづけていたからです。ですからヨハネ
は、彼らに罪が何かを理解させ、罪を悲
しみ、彼らの日々の選り手助け
をするのです。人々は、ヨハネの言うこと
に耳をかたむけましたか？**5,6 節**。

考えてみよう：ヨハネは勇敢な預言者
でした。ほかに、だれをも恐れなかった
預言者を知っていますか？エリヤはどうで
しょう？

きんようび
金曜日

ヨハネの話（はなし）を聞こうと、あちらこ
ちらから、いろいろな人（ひと）たちが

なんびやくにん お よ
何 百 人 も 押 し 寄 せ て き ま
した。 王 子、 律 法 学 者、
兵 士、 取 税 人、 ま た 一 般 の
人 たち も、 か れ の 話 を 聞 く
た め に や っ て き ま し た。 ヨ ハ
ネ は 語 る と き、 ど の よ う な
人 に 対 し て も、 恐 れ を い だ
く こ と は あ り ま せ ん で し た。
悪 い こ と を し て い た 王 様 に さ
え、 そ れ は よ く な い と は っ き



ほんとう かみさま こ
本 当 の 神 様 の 子 ども は、
サ タ ン の よ う に で は な く、 イ
エ ス 様 の よ う に 行 動 す る で
し ょ う。 ヨ ハ ネ の 言 葉 は、
よ い 実 を み の ら せ な い 木 を
切 り 倒 す、 す る ど い 斧 の よ
う で し た。 人 々 は、 神 様 を
選 び、 神 様 に 従 わ な く て は
な ら な い の で す。 で な い と、
サ タ ン に 従 う こ と に な っ て し

り 言 い ま し た。 そ れ で あ る 人 々 は、 神 様
が 実 際 に、 ご 自 分 の 預 言 者 を 墓 か ら よ み
が え ら せ た の で は な い か と 思 っ た ほ ど で し
た。

説 教 を 聞 き に き た 指 導 者 たち の 何 人 か
は、 自 分 たち の 犯 し た 罪 を 心 か ら 悲 し ん
で い な い こ と に、 ヨ ハ ネ は 気 づ い て い ま し
た。 指 導 者 たち は た だ、 人 々 や、 と く に こ
れ か ら 現 れ る は ず の メ シ ヤ に、 自 分 たち の
こ と を よ く 思 わ せ た か っ た の で す。 本 当 は、
彼 ら は 自 己 中 心 的 で、 い ば っ て い て、 い
じ わ る で し た。 ヨ ハ ネ は 彼 ら の こ と を、「マ
ム シ の 子」と 呼 び、「な ぜ こ こ に い る の か？」
と た ず ね ま し た。 **マタイ 3:7-9。**

ヨ ハ ネ は 人 々 に、 ア ブ ラ ハ ム の 子 孫 と
い う だ け で は、 神 様 の 子 ども に は な れ な
い こ と を 知 っ て ほ し い と 思 っ て い ま し た。
人 々 は 皆、 ア ブ ラ ハ ム が し た よ う に、 神 様
に 信 頼 し て し た が う 必 要 が あ り ま し た。 彼
ら が 本 当 に 神 様 の 子 ども で あ る な ら、 そ の
こ と が 彼 ら の 行 い に よ っ て あ ら わ さ れ る の
で す。 ち ょ う ど、 リ ン ゴ の 木 が 成 長 し て、 す っ
ぱ い レ モ ン で は な く、 リ ン ゴ の 実 を み の ら
せ る よ う に。

まう の で す か ら。

かんが 考 えて み よ う： **いま** ま さ に イ エ ス 様 の
再 臨 が 近 づ い て い る こ の 時 代 に、 わ た し
た ち は 人 々 に、 ど の よ う な 準 備 を す る よ
う に と 伝 え て い る で し ょ う か？ イ エ ス 様 が
最 初 に 地 上 に お い で に な っ た と き、 ヨ ハ
ネ が し て い た の は、 ま さ に こ の 働 き な の で
す。 そ し て、 わ た し た ち も ヨ ハ ネ が し た よ
う に、 人 々 が サ タ ン か ら 自 由 に な る た め に
ど の よ う な 選 び を す る べ き か、 ま た イ エ ス
様 が も う い ち ど 来 ら れ る と き に は、 い っ し ょ
に 天 国 へ 行 く 準 備 が で き る よ う に、 彼 ら に
伝 え る こ と が で き る は ず な の で す。

ま な
も っ と 学 ぶ ！

★ルカ 1:1-25; 3:2-18

★各時代の希望 10章



なが まぼろし いちばん長い幻—その1

エイミー・シェラード編

わたしたちは2期にわたって、イエス様が再臨なさる直前の時代を生きる、神様の民のための特別なメッセンジャーとして神様に召された、エレン・ホワイトのことを学んできました。エレン・ホワイトや初めのころの開拓者たちについて、皆さんにさらに楽しく学びつづけてほしいと思います。これらの開拓者たちは、イエス様の再臨が間近であるという知らせを人々に伝えました。そして皆さんも、彼らと同じ働きをするために学んでいるのです。

エレン・ハーモンが、約4時間もわたるもっとも長い幻を見たのは、まだ10代のころでした。ほとんどの再臨信徒は、神様が聖書の真理を悟らせるために、彼らを助けて下さっていることを喜んでいました。ところがある人たちは、イエス様がご自分の重要な助け手として、エレンのような若者をお選びになったことを信じたくありませんでした。それで彼らは、イエス様が幻や夢をとおして彼女にお語りになったことを信じませんでした。

サージェント氏とロビンス氏は、エレンの幻など信じない、という人たちの仲間でした。彼らはあたかも、自分たちが聖なる者であるかのようにふるまい、これまでいちども罪を犯したことはない、と断言していました。彼らは人々に、エレンの幻や夢はサタンから出て来たものである、と言いました。また、自分たちがもしエレンといっしょの部屋にいるなら、彼女は幻を見ることができないだろう、とも断言していました。

ボストンの町からあまり遠くない、ある一軒のすてきな家に、ニコルスという兄と妹が住んでいて、ふたりとも再臨信徒でした。近くに住む他の再臨信徒たちは、時々ニコルス家にやってきて、いっしょに礼拝をしていました。信者たちに話をしてもらうために、ニコルスさんたちがエレンを招待すると、彼女は喜んでひき受けました。



ある日のことです。エレンがニコルス家にいたとき、サージェント氏とロビンス氏が馬車でやってきたので、兄のニコルス

さんが出迎えました。

ふたりは、「あなたがたをたずねて来たのですよ」とニコルスさんに言いました。「あと、今晚とめていただきたいのです。」

ニコルスさんは喜んで、「いやあ、来て下さって本当にうれしいです」と言いました。「おふたりとも、エレン・ハーモンさんに会いたがっておられましたよね。実は、彼女もここにいますよ。」

ふたりは顔を見合わせ、ひとりがあわててこういきました。「ああ、そういえば、別の町での用事を思い出しましてね、今すぐそこに行かなくてはならないのですよ。」

「でも、おふたりともエレンさんに会いたくて、わざわざ来られたのではありませんか？」

「ニコルスさん、もし来週の安息日にボストンで集会を計画して下さるなら、わたしたちは必ず出席しますから。そうすれば、彼女にも会えるでしょう。」彼らは、そう約束しました。そこでニコルスさんは、次の安息日にボストンで集会を開くことにしました。そして、ふたりの男は手をふって別れ、馬車から降りることさえせずに去って行ったのでした。それからニコルスさんは、ボストンでの集会を手配しました。

金曜日の夜になって、イエス様はエレンに、ひとつのメッセージをお与えになりました。「あなたが明日行くのは、ボストンではありません。ランドルフに行きなさい。」イエス様は、そうおっしゃいました。ランドルフは、ボストンとは正反対の方向です。エレンは、どうしてイエス様が彼女

に計画を変更させようとするのか、理解できません。それでも彼女は、イエス様に信頼することをすでに学んでいました。

さて、安息日の朝になって、エレンはニコルスさんに、予定を変更して、ボストンではなくランドルフに行かなくてはならないことを告げました。彼は、ひじょうに困ったようすで「そんな、安息日にボストンで集会をすると約束したのに、変更できるわけがないでしょう」と言いました。「信者たちも、あのたずねてきたふたりも、わたしたちが来るものだと期待しているのですよ。」彼は、エレンを説得しようと思いました。エレンは、うまく答えることはできませんでしたが、イエス様から言われたとおりにしなくてはならないことだけはわかっていました。

(つづく)



とくべつ ひみつ てんし 特別な秘密をたずさえてきた天使

あんしょうせいく 暗唱聖句

「その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのも
ろもろの罪から救う者となるからである。」 マタイ 1:21

にちようび 日曜日

かみ こ さまほんとう
神の子であられるイエス様が、本当
にんげん
にひとりの人間になられるので
しょうか？ 天にいるすべての天使が、そ
して他世界のすべての人々が見守ってい
ます。罪にあふれたこの世界で、イエス
さまほんとう ちい なに あか
様は本当に、小さくて何もできない赤ん
ぼう うえ のぞ
坊として生まれることを望んでおられたの
でしょうか？そして、残酷で邪悪なサタン
から、わたしたちが受けるよりもさらに激
しい誘惑を受けようとなさったのでしょ
うか？ いったいどうして、神様はそれほどま
でに、わたしたちを愛することができるの
でしょうか？

たとえばイエス様が、一番はじめに創造
されたアダムのような人間や、強くてたく
ましい、偉大な王様のような人間になるこ
とを選ばれたとしても、天でのイエス様と
は、どうてい比べ物になりません。天では
すべての天使が、すべての創造主であら
れるイエス様を愛していました。天使たち
は、イエス様を尊敬し、礼拝していました。

イエス様が天使たち一人ひとりをおつくり
になったからです。

たとえ人間になってこの世界に來られた
としても、イエス様が以前と同じように神
であることに変わりはありません。ただし、
ご自身を助けるために、神としての力を
つか つか
使うことはないのです。たとえ小さなこと
であっても、人間であるわたしたちよりも、
にんげん
人間として楽に生きるためにその力を使
うことはないのです。人間になられても、
ちち かみさま しんらい
父なる神様にまったく信頼するのです。そ



のように、私たちからも父親として信頼されることを神様が望んでおられるということを、イエス様は教えようとしておられたのでした。

わたしたちが神様に信頼しつづける間、神様はサタンから守って下さいます。イエス様も、サタンから守られるためには、神様に信頼しつづけなければなりません。神様は、そのことをわたしたちに知ってほしいと願っておられます。

考えてみよう：イエス様が地上におられた間に、弟子たちが、神様と直接お話しする方法を知りたいと言ったことがありました。マタイ6:9で、イエス様が弟子たちに教えたお祈りに出てくる、はじめの言葉は何ですか？さあ、これでわかりましたね。わたしたちがイエス様に信頼するならば、神様はわたしたちのお父さんになって下さいます。そして、わたしたちは神様の子供となれるのです。

げつようび 月曜日

イエス様が人間になることは、天使たちには理解できませんでした。けれども、イエス様にとって人間でいるのはたやすいことであると、サタンが言いきれないことを、彼らは知っていました。人間でいることをたやすくするために、神としての力を使うことは決してないからです。ですからサタンは、わたしたちを誘惑するのと同じように、イエス様を誘惑することができたのです。

じつのところ、サタン自身も、神様のご

計画をよく理解していたわけではありませんでした。もしイエス様が本当に人間になったのであれば、かならず罪を犯させることができるはずだ、とサタンは思っていました。もしそうなってしまったら、たとえわたしたち人間が神様を選んだとしても、神様はわたしたちを罪から解放することはおできになりません。サタンは、これまでに生まれてきたすべての人を誘惑し、罪を犯させてきました。そして当然、イエス様も罪を犯すにちがいないと考えたのでした。サタンと悪天使たちは、イエス様に罪を犯させるために、あらゆる手をつくすつもりでした。そうすれば、きっと誘惑に負けるはずだと考えたのです。罪を犯してしまったら、イエス様はもはや、完全な罪のない「小羊」ではなくなります。そして、人間を救うことができなくなります。

ですからサタンは、どんなに細かいことでも、決して見逃しませんでした。人間を救うために神様がおつかわしになるおかたについて預言者が語ったことを、パリサイ人や律法学者たちよりもよく知っていたのは、サタンでした。彼は、神様がつねに約束をはたされることも知っていました。

天使たちは考えました。はたして神様の民は、そのおかたが来られるのを待ち望んでいるだろうか？本当に、イエス様を迎える準備ができているだろうか？世界でもっとも立派で美しい宮殿でさえ、わたしたちの創造主であられる神の子には、ふさわしいとは決して言えないでしょう。人々はイエス様をどのようにむかえるのでしょうか？

かんが **考えてみよう:** この世界の人は、イエス様を迎える準備をして待っていましたか? いいえ。おそらくほとんどの人が、イエス様のことすら知らなかったでしょう。自分たちは神様の特別な民であるとの自信にあふれていたユダヤ人たちはどうでしたか? いつの日かメシヤが来られることを知っていた彼らは、準備ができていましたか?

かようび 火曜日

なん 千年も前に神様が約束なさった、救い主が生まれになる日が近づいていました。預言者たちによれば、その救い主はベツレヘムで生まれることになっていました。おとめ〔結婚していない女の人〕が彼の母親で、ダビデ王の家系から生まれるというのです。

ある日神様は、ガブリエルという天使を、マリヤという名の若い女の人のところへつかわしました。彼女は、ナザレというガラヤの小さな町に住んでいました。マリヤは、同じナザレに住む、ヨセフという大工と婚約〔結婚の約束〕していました。ルカ 1:26,27。

マリヤとエリサベツは親戚でした。ザカリヤやエリサベツと同じように、マリヤは



心から神様を愛し、メシヤが間もなくおいでになることを願っていました。36節。

天使のガブリエルがたずねてきて、最初に語られた言葉をきいて、マリヤはおどろきおそれました。それは、どんな言葉でしたか? 28,29節。



ガブリエルは、彼がマリヤのところにやってきた理由を彼女が知らないのを知っていました。神様からのお告げをマリヤに話すと、彼女は大変おどろきました。これは一体どういうことなのでしょう? 天使の言ったことが、どうやって実現するのでしょうか? 30-33節。

アダムとエバが罪を犯したあと、神様が彼らと契約を結ばれたときから、多くの母親たちは、自分の子供こそが、この世界を救うためにつかわされた約束の子であってほしいと願って来ました。

今まさに、天使ガブリエルは、マリヤがそのメシヤの母親となることを告げたのです。そのようなことがどのようにして起こるのか、マリヤには理解できませんでした。彼女は、自分がまだ結婚していない身であることを天使に話しました。ルカ 1:34。

かんが **考えてみよう:** マリヤは、身分の高いお金持ちの女性でしたか? 神様はなぜ、偉大なる創造主であられるイエス様、また神様の子供であられるイエス様の母親として、マリヤのような人物をお選びになった

のでしょう?またなぜ、^{まず だいく ちちおや}貧しい大工が父親
^{えら}に選ばれたのでしょうか?

すいようび 水曜日

マリヤは、どうしてよいか分かりま
せんでした。このような^{じぶん}自分が、
どうして偉大なメシヤの^{ははおや}母親になれるのだ
ろう?天使のガブリエルは、彼女に何と
答^{こた}えましたか?ルカ 1:35-37。

いろいろな^{おも}思いが、マリヤの^{あたま なか}頭の中を
かけめぐったことでしょう。神様はエリサ
ベツのために、すでに^{きせき}奇跡を起こしてくだ
さっていました。彼女は^{かのじよ としお}年老いていたにも
かかわらず、おなかに^{あか ぼう やど}赤ん坊を宿したの
です。マリヤは、自分自身のことを考えて
みました。自分は、やさしい大工のヨセフ
と結婚の約束をしているけれど、結婚前
に^{あか ぼう}赤ん坊ができたことを話したら、彼はど
う思うだろう?それでも彼は、自分と結婚
してくれるだろうか?そんなことを考えてい
たマリヤは、「神にはなんでもできないこ
とはありません」という天使の^{てんし}言葉を思い
出したのでした。そうだ、かならず神様
が助けてくださるはずだ!マリヤは^{ゆうき}勇気を
出して、天使になんと言いましたか? 38
せつ
節。

エリサベツはナザレからとても遠いところ
に住んでいましたが、マリヤは、すぐに
でも彼女と話したくなりました。それから
長い旅ののち、ようやくエリサベツの住ん
でいる町にたどりつきました。39,40 節。

マリヤと会えて、エリサベツはどれほど
喜んだことでしょう!すぐに、神様がエリサ

ベツの心に語りかけました。するとたちま
ち、マリヤから生まれる^{あか ぼう}赤ん坊が、人々
を救う約束のメシヤになることを悟ったの
でした。42,43 節。

互いに会って、お互いの特別な^{あか ぼう}赤ん坊
について話した^{はな}ひと時は、どれほどすばら
しい時間だったことでしょう!マリヤとエリ
サベツは、それぞれの^{あか ぼう}赤ん坊についてのお
告^つげをすべて理解したわけではありま
せんでした。しかしふたりは、自分たちが
神様に^{かみさま}信頼し、神様のご^{けいかく}計画にしたがっ
ていることを^し知っていました。

聖書に書かれているわけではありませ
んが、マリヤは、ヨハネが生まれる時まで
そこにいて、お祝いの^{いわ てつだ}手伝いをしたかもし
れません。そのあとナザレにもどって、喜
びと同時に^{どうじ おそ}恐れを感じたことでしょう。い
よいよヨセフに、天使のお告^つげと^{あか ぼう}赤ん坊
のことを^{はな}話さなくてはなりません。56 節。

かんが
考えてみよう:マリヤはどんな^{きも}気持ち
だったと思いますか?うれしかったでしょ
うか?わくわくしていたでしょうか?それとも、
不安^{ふあん}だったと思いますか?

もくようび 木曜日

ヨセフは、困^{こま}ってしまいました。マ
リヤの話は^{はなし ほんとう}本当なの
でしょうか?
彼女の言っていることは、まるであり得な
いことのように思われました。でも、マリ
ヤを愛^{あい}していましたから、彼女をはずかし
めたくはありませんでした。しかし、こうなっ
てしまった以上、マリヤと結婚できるでしょ
うか?人々は、どう思うでしょう?



とうとうヨセフは、^{こんやく} 婚約〔^{けっこん} 結婚の^{やくそく} 約束〕をひそかにとりやめることにしました。^{かのじょ} 彼女はどこかほかのところへ行って、^{あか} 赤ん坊を産むことができるでしょう。そうすれば、だれにも知られることはありません。ところが、^{かみさま} 神様はみんなに知らせたいと^{かんが} 考えておられました。ひとりの^{てんし} 天使がヨセフにあらわれて、^{なん} 何と^つ 告げましたか？**マタイ 1:18-21。**

^{むかし} ずっと昔、^{かみさま} 神様は^{よげんしゃ} 預言者イザヤに、イエスさまが^{きせき} 奇跡の^{あか} 赤ん坊になることを^つ 告げておられました。彼が、^{かれ} おとめ〔^{けっこん} 結婚していない^{おんな} 女の人〕から生まれるからです。

イザヤ 7:14。

^{かみさま} 神様はすべてを^{かんぜん} 完全に^{けいかく} 計画なさり、またその^{けいかく} 計画の^{ぶぶん} こまかい部分にいたるまで、^{ひと} 一つひとつが^{じゅうよう} 重要であることを^{ぞんじ} 告知でした。^{かみさま} 神様は、^{おそ} 恐れずに^{しんらい} 信頼するようにと、^{はげ} ヨセフを^{はげ} 励まされました。**マタイ 1:22,23。**

^{ゆめ} 夢にあらわれた^{てんし} 天使からの^し 知らせを^き 聞き、^{あんしん} ヨセフは^{あんしん} どれほど安心したことでしょ

^{かれ} う。彼も^{おな} マリヤと同じように、^{かみさま} 神様を^{あい} 愛し、^{しんらい} 信頼していました。そうとはいえ、^{かみさま} 神様から^{あた} 与えられた^{せきにん} 責任は、^{たいへん} 大変なものでした！^{かれ} 彼は、^{さいぜん} できるだけ^う 最善をつくして、^う 生まれてくる^{こども} 子供の^{せわ} 世話をするつもりでした。また、^{あい} マリヤがその^こ 愛する子を^こ しつけるときには、^{てだす} できるかぎりの^{てだす} 手助けをするつもりでした。

かんが 考えてみよう：^{なまえ} インマヌエル！この^{なまえ} 名前
は「^{かみ} 神^{とも} われらと^い 共に^い います」という^い 意味で
す。では、^{ことば} それぞれの^い 言葉の^{かんが} 意味を^{かんが} 考え
て^{かみさま} みましょう。^{かみさま} 神様、^{かみさま} つまりわたしたちの
^い 偉大なる^{そぞうしゅ} 創造主^{じしん} ご自身^い が、^い わたしたちと
^{とも} 共に^{くだ} いて^{かみさま} 下さるとい^{かみさま} ことです。^{かみさま} 神様が、
^い わたしたちと、^{いっしょ} いっしょに、^{くだ} いて^{くだ} 下さいま
す。^{とお} 遠い^{てんごく} 天国ではなく、^い すぐそばに、^い ずっ
と、^い わたしたちと^{いっしょ} いっしょに^い おられるので
す。^{かみさま} 神様が、^{かみさま} わたしたちと、^{いっしょ} いっしょにお
られます。^{おな} わたしたちと同じになることを
^{のぞ} 望んで、^い わたしたちのため^い により^い こんで^い 死
んで^い くださるのです。^い ああ、^い なんと^い すばら
しい^い こと^い でしょう！^い そう^い 考えると、^い イエス様
の^い ことが^い 今まで^い よりも^い もっと^い 好き^い になりませ
んか？^い その^い ことを、^い イエス様^い に^い 伝えて^い みて
は^い どう^い でしょう？

きんようび
金曜日

ベ ツレヘムは、^す ルツとボアズが^す 住ん
でいた^{まち} 町で、^う ダビデの^{こきょう} 生まれ故郷
でも^い あります。そこは、^{よげんしゃ} 預言者の^{ひとりが} ひとり^い が、
^い イエス様が^い 生まれる^{まち} 町であると^{よげん} 預言した
^{ばしょ} 場所でも^い ありました。その^{よげん} 預言の^{ことば} 言葉を
^よ 読んで^い みましょう。**ミカ 5:2。**

マリヤとヨセフの家族は、ベツレヘムの出身でした。しかし今は、ベツレヘムから遠くはなれたナザレに住んでいます。彼らは、そこがイエスさまの生まれる場所として預言されていたことを覚えていましたか？おそらく彼らは、そのことを忘れていたでしょう。しかし、神様は覚えておられました。神様は、未来のこともすべてご存知でしたので、イエス様がお生まれになる時には、ヨセフとマリヤがもうベツレヘムにいることも、すでに知っておられました。でも、いったいどうしてそうなったのでしょうか？

ローマの皇帝アウグストは、人々に、自分の故郷へ帰って登録をするように命令を下しました。そのため、赤ん坊がもうすぐ生まれるにもかかわらず、ヨセフとマリヤは、何百キロもはなれた遠いベツレヘムに行かなくてはなりませんでした。ルカ 2:1-5。

それは長い旅でした。マリヤはロバに乗っていましたが、ベツレヘムに着くまで



には、もう疲れきっていました。この小さな町は、人口登録をしにきた人々でごった返していました。ですから当然、旅人たちが泊まる宿屋も、すでに満員でした。

ヨセフは、何とかしてマリヤが休める場所をさがさなくてはなりません。ふたりは、ベツレヘムをめぐる通りにそって、一軒ずつ宿屋をたずね歩きました。泊まる場所をさがすためです。ところが、どこをたずねても「残念ですが、もうあいている部屋はありません」という答えが返ってきます。

どうすればよいのでしょうか？ふたりは、不安でしかたがなかったことでしょう。もういつ赤ん坊が生まれてもおかしくないことが、マリヤにはわかりました。なんとしても、どこか泊まる場所を見つけなくては いけません。

かんがえてみよう：ヨセフとマリヤを断った宿屋の人たちは、世界をお造りになったおかたが、いよいよお生まれになることを知っていましたか？あなたがその中のひとりだったとしたら、どうしていたと思いますか？

まな
もっと学ぼう！

★マタイ 1章；ルカ 1:26-56

★各時代の希望 1-3章



なが まぼろし いちばん長い幻—その2

エイミー・シェラード編

— コルスさんは、こんどの安息日に、
— エレンをボストンにつれて行くこと
やくそく 約束していました。ところがイエス様は、
そこではなくランドルフに行くようにと、エ
レンにお告げになったというのです。

安息日の朝、ラ
ンドルフに向かう
馬車に乗りこんだ
ニコルスさんは、
不機嫌なようすで
した。エレンのこ
とは好きでしたが、
イエス様から与え
られたという彼女の夢や幻については、
まだ信じられませんでした。今となっては、
これらの夢や幻が本当にイエス様から来
たものなのか、ますますわからなくなりました。

ランドルフに着くと、再臨信徒たちが
礼拝のために集まっている家へ行きました。
そこにだれがいたと思いますか?なんと、
サージェント氏とロビンス氏です!この
ふたりはエレンに会いたくなかったのです
が、イエス様が彼らを会わせたのでした。
さあ、これでみんなは、なぜイエス様が
エレンに、ボストンではなくランドルフに
行きなさいと言ったのかがわかりました。

このふたりのうちのひとりが、集まった
人たちに向かって話をしていましたが、エ

レンを見るなり、急に不安な顔つきになり
ました。彼はすぐに話すのをやめ、家に
帰って午後の集会にもどってくるようにと
言いました。



Little Folk Visuals

午後の集会にも
どってきた人たち
は、賛美歌を歌
い、それから何人
かが祈りました。
エレンが祈ってい
ると、とつぜん祈
りの言葉が止まり
ました。それから、
大きなはっきりとした声で「神様に栄光
があるように!」と言ったのです。人々は、
彼女が幻を見ていることがわかりました。
当然、あのふたりはともうろたえました。
自分たちが同じ部屋にいたら、エレンは
幻を見ることのできないだろうと言いつ
らしていたからです。

幻の中で、エレンはこのふたりの悪事
について語りました。彼らは、エレンが
話すことをだれにも聞いてほしくなかつた
ので、けんめいに歌いつづけていました。
また、聖書をありったけの大声で朗読しま
した。しかし、しまいに彼らの声はかれて
しまい、手がひどくふるえたので、もうや
めるしかありませんでした。

ある人が聞いたところによれば、幻を

み ひと うえ せいしょ まぼろし
見ている人の上に聖書をおくと、もし幻が
サタンから来たものであれば、幻が中断
されるといいます。彼らが家庭用の大き
な聖書をエレンの上におくと、彼女はそ
れを手にとって、長い間、それを片手で
ずじょう たか
頭上に高くかかっています。そしてもう
かたほう て
片方の手でページをめくり、聖句を指しな
がら、そのぶんしょう よ
文章を読みあげました。しか
もエレンは、せいしょ み
聖書を見ずに、てん み あ
天を見上げ
ながらそのようにしたのです。

ある人たちが、いすにのぼってエレン
のよ ぶんしょう み
読みあげる文章を見てみると、せいかく
書かれたとおりにぶんしょう よ
文章を読みあげている
ことがわかりました。そこにいる人たち
ぜんいん さま
全員が、イエス様がエレンに特別な力を
あた くだ
与えて下さっていることがわかりました。
ちからじまん おとこ ひと かのじよ なが
力自慢の男の人でも、彼女のように長い
じかん かによう おお せいしょ も あ
時間、家庭用の大きな聖書を持ち上げつ
づけることは、できないはずだからです。
サージェント氏とロビンス氏は、すっかり
おびえて、すごすごとそのぼ た さ
場を立ち去りました。

このまぼろし
幻は、およそ4時間もつづき、エ
レンはそのあいだじゅう いき
間中、息をしませんでし
た。まぼろし お かのじよ ふか いき
幻が終わると、彼女は深く息をして、
すぐにいつもどおりのこきゅう
呼吸になりました。
イエスさま きせき おこな
様が奇跡を行ってくださったので
す。そこにいた人たちには、それがわか
りました。そしてかれ せいじん
彼らは、聖人のふりをし
ていたあのふたりが、ほんとう わる にんげん
本当は悪い人間だっ
たことも知りました。みんなは、エレンが
し
であることを悟りました。エレンがイエス
さま き かのこ
様から聞いたことを書き残してくれたこと
は、ほんとう よろこ
本当に喜ぶべきことではないでしょう

か!それらのしよまつ
書物は、イエスさま
様がふたたび
こ とき そな
来られる時への備えができるように、わた
したちをたす
助けてくれるのです。

だい しょう 第3章

とも 共に おられる 神様



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の
上では、み心にかなう人々に平和があるように。」

ルカ 2:14

にちようび 日曜日

ヨセフとマリヤは、どうすればよい
のでしょうか？ベツレヘム中の宿屋
のどこにも、あいている部屋がありません。
赤ん坊が今すぐにでも生まれそうなのが、
マリヤにはわかります。

とうとう、きのどくに思った人たちが、
自分たちの家畜を飼っ
ている小屋に、ふたり
を泊めてくれました。
人間の赤ちゃんが、し
かもメシヤが生まれると
いうのに、そのような
場所しかなかったなん
て！どうして神様は、そ
のようなことをゆるされ
たのでしょうか？

ヨセフは、ランプか



何か明かりになるものをかりて、マリヤが
休める場所をつくってあげたことでしょう。
そこにわらをしいてから、毛布をかけたの
かもしれません。おそらくマリヤは、当時
の人々が生まれたばかりの赤ん坊をくる
むのに使っていた、細長い布をもってき
ていたはずですよ。

では赤ちゃんが生まれたら、どこに寝か
せればよいのでしょうか？ヨセフはあたりを
見まわして、何かよいものがないかが
しました。そこには、動物たちのえさを入
れるかいばおけがいくつかあって、ヨセフ

は、そのひとつを赤
ちゃんのために使うこと
にしました。それをきれいにし、新しいわら
をしいて、その上に小さな毛布をかぶせたの
かもしれません。そしてそれが、赤ん坊とし
て生まれたイエス様の、最初のベッドとなっ
たのでした。ルカ 2:7。

ゆらゆらとゆれる明かりの中で、マリヤとヨセフは、この奇跡の赤ん坊を見つめました。牛たちがやさしく「モ～」と鳴き、羊たちが「メ～」と鳴く声が聞こえたことでしょう。時々、たる木にとまっているハトたちの「クッカー」という鳴き声が聞こえたかもしれません。そして守護天使は、それらのすべてを見守っていたはずです。

イエス様がぶじに生まれると、その知らせはたちまちのうちに天使たち全員に伝えられました。どれほどの賛美と喜びの聲が、天にあふれたことでしょう!これで、わたしたちの世界は、サタンから救われることになるのです。

かんが **考えてみよう:** ほかに、イエス様の誕生を知っている人たちがいましたか?

げつようび 月曜日

神の子であるメシヤが、ベツレヘムで生まれました。このすばらしい奇跡をお祝いしようという人は、いませんでしたか? だれも、そのことを気にかけませんでしたか? イエス様が生まれる前に、救い主を待ち望んで準備している人がいるかどうかを調べるために、この世界に訪わされてきた天使たちがいました。来てみると、ほとんどの人は、救い主のことを聞いたことすらありませんでした。多くのひとびとが、偶像を拝んでいたからです。

では、神様の民はどうしていたでしょう? たしかに、彼らは熱心に救い主を待っていました。多くの人が、エルサレムの神殿で、ザカリヤの身に起こったことを

知っていました。また、ひとりの天使がザカリヤに、息子のヨハネが成長して、とくべつな働きをするだろうと告げたことも知っていました。ルカ 1:16,17。

それでもなお、祭司たちは、いつもどおりにすべてのことを行っていました。まるで、毎日ささげる犠牲の小羊が、彼らのために命をささげるために来られるお方を思い出させるはずのものだということ、忘れてしまっているかのようでした。

しかし、メシヤが間もなくおいでになることを心から信じている人たちも、わずかながらいました。

そして今、その時が来たのです。何百万もの天使たちが、天国でお祝いしています。ところがこの世界には、ヨセフとマリヤをのぞいてはだれひとりとして、起こったばかりのすばらしい出来事を知る人はいなかったのです。眠っている赤ん坊を見つめながら、ヨセフとマリヤでさえも、この子が本当にメシヤなのだろうかと思っていたことでしょう。多くの絵画に描かれているような光り輝く輪は、赤ちゃんイエスの小さな頭にはありませんでした。かれは、他のかわいい赤ちゃんたちと同じように見えました。

かんが **考えてみよう:** もしあなたがそこにいて、イエス様のことを知っていたなら、何をしていたと思いますか?

かようび 火曜日

イエス様のお生まれになったその夜、ベツレヘムの近くの空で、

天使の聖歌隊が待っていたことなど、だれも知りませんでした。そしてその近くでは、羊飼いたちが羊の番をしていました。**ルカ**

2:8。

静かな暗い野原で、羊飼いたちは火を囲んですわり、間もなくおいでになるはずのメシヤについて語り合っていました。もちろん彼らは、まさにその夜、近くのベツレヘムで何が起こっていたかを知りません。とつぜん、光り輝く天使がすぐそばにあらわれました。羊飼いたちの驚いたようすを、想像できますか？ **9-11 節。**

メシヤがおいでになったのです！羊飼いたちの頭には、すぐさま、堂々とした力強い王さまの姿がうかんだのではないでしょう。いよいよメシヤがあらわれたら、憎らしいローマ人どもはいなくなり、それからもう、貧しさに苦しむことはないはずだ！



ついに自分たちは自由を得て、ふたたび偉大な国民になれるのだ、との希望がわきおこってきたかもしれません。

ここで羊飼いたちに、メシヤは彼らの想像していたようなようすで来られたのではないことを、知らせなくてはなりませんでした。**12 節。**

天使に告げられたことに驚く間もなく、たちまち野原は光で照らされ、聞いたこともないような美しい音楽が、あたりにひびきわたりました。天使たちは、何を歌っていましたか？ **14 節。**

それから、天使たちはとつぜん姿を消しました。羊飼いたちは、ゆるる火の明かりの中で、互いに顔を見合わせました。今のはすべて、夢だったのでしょうか？ いえ、みんなが同じ夢を見るなんて、あり得ません。

考えてみよう：神様はなぜ、貧しくて身分の低い羊飼いたちを選んで、このすばらしい知らせを伝えたのでしょうか？なぜ王様や祭司、国の役人たちにお告げにならなかったのですか？

すいようび 水曜日

羊飼いたちは顔を見合わせました。たった今起こったことは、夢ではなく、現実です。本当にメシヤが来られたのです！天使がそう告げたではありませんか。そしてメシヤは、かいばおけの中に寝かされているというのです。彼らは急いで、ベツレヘムへと向かいました。**ルカ 2:15。**

まだ夜明け前で、小さな町の人々は、

マリヤとヨセフと羊飼いたちをのぞいては、まだぐっすり眠っているようです。羊飼いたちが通りを歩いていると、うっすらと明かりのついた小さな家畜小屋が目にとまります。中をのぞくと、女の人と男の人が見えます。さらによく見ると、たしかに、赤ん坊がかいばおけに寝かされているではありませんか。16節。

マリヤとヨセフは、羊飼いたちを見ておどろいたことでしょう。自分たちがここにいることを、どうやって知ったのだろうか？

きっと羊飼いたちは、この赤ん坊のことを教えてくれた、あの光輝く天使について、マリヤとヨセフに話したことでしょう。この赤ん坊こそ、主なるキリストであると天使は告げました。また彼らは、美しい天使たちと、そのすばらしい歌についても話したはずです。

羊飼いたちは、うやうやしくひざまずき、赤ん坊をおがみしました。この無力な赤ん坊が偉大なメシヤであることを、彼らは知っていました。そして、一刻も早く、人々にそのことを知らせたくてたまりませんでした。17節。

羊飼いたちが帰ったあと、マリヤとヨセフは、互いに顔を見合わせたことでしょう。かいばおけですやすや眠っているこのかわいい赤ちゃんは、たしかに天使が告げたとおり、約束のメシヤにちがひありません。

考えてみよう: 天使たちは、マリヤとヨセフ、また羊飼

たちの近くにいました。天使たちは、わたしたちの近くにもいると思いますか？

もくようび 木曜日

た くさんの人々が、国中のあちこちからベツレヘムに来ていました。羊飼いたちが天使や赤ん坊について話すのを多くの人が聞きましたが、なかなか信じられません。中には、赤ん坊を見にいった人もいたことでしょう。でも、ほかのかわいい赤ちゃんと同じようにしか見えません。ルカ 2:17,18。

それぞれの町にもどった人たちは、羊飼いたちから聞いた赤ん坊の話を、町の人々に話しました。

エルサレムから8キロしかはなれていなかったのに、国の役人たちや祭司たちが羊飼いたちの話を耳にするまでに、その時間はかかりませんでした。彼らはきっと、ザカリヤのことを思い出したはずです。息子のヨハネが人々にメシヤをむかえる準備をさせるであろうとザカリヤが話したのは、ほんの1年ほど前のことだったからです。ルカ 1:76。

祭司たちや役人たちは、かんたんにその赤ん坊をさがしに行くことができたはずですが、そうはしませんでした。そして、羊飼いたちの話については、知らんぷりを決めこんだのでした。

さてベツレヘムでは、マリヤがこれまでに起こったで



きごとをふりかえり、ずっと考えていました。羊飼いたちは、羊の世話をするためにもどっていきました。しかし、あの晩見た天使や天使たちの歌声、また家畜小屋で生まれた赤ん坊のことを、決して忘れることはありませんでした。ルカ 2:19,20。



考えてみよう: 祭司や役人たちは、神様が、偉くて地位のある自分たちではなく、あえて無学で貧しい羊飼いたちに天使をつかわしてメシヤのことをお告げになったことを、こころよく受け入れたのでしょうか？メシヤが、無力な赤ん坊として貧しい両親のもとにお生まれになったことを、彼らは受け入れましたか？

きんようび 金曜日

ヨセフとマリヤは、神様が男の赤ん坊のために定めておられたきまりに、注意ぶかくしたがいきました。生まれて6週間ほどたったころ、赤ん坊のイエス様を神様におささげするために、両親はエルサレムの神殿にやってきました。

そのきまりというのは、生まれたばかりの赤ん坊の両親が、小羊、または山バトか家バトを犠牲のささげものとして持つてくる、というものです。貧しい人たちは、2羽の山バトか、2羽の家バトで大丈夫でした。マリヤとヨセフは、貧しい人のた

めに定められたささげものをもって行きました。レビ 12:8。

この犠牲のささげものは、メシヤが来られて、わたしたちを救うために身代わりとなって死なれることを、神の民に覚えさせるためのものでした。ところが、ほとんどの人は、この犠牲のささげものの意味を忘れてしまっていて、理由もわからずに、きまりにしたがっていただけでした。ヨセフとマリヤでさえ、犠牲のささげものについて、十分には理解していませんでした。なぜメシヤが死なねばならないのか、理由もわかりませんでした。

たくさんの赤ん坊が、神様にささげられるために、神殿へつれてこられました。イエス様がささげられたとき、祭司は、ほかの赤ちゃんと同じように、彼をうでに抱きました。祭司は、自分の抱いているこの赤ん坊が、神様の子であり、わたしたちのための大いなる犠牲のささげものとなるおかたであることを、知るよしもありませんでした。そして彼は、赤ちゃんの名前を「イエス」と記録簿に記しました。

その日、シメオンという名の老人が、神殿に来ていました。ヨセフとマリヤと赤ん坊が目にとまったとき、聖霊が語りかけたので、彼はふたりのところへ行き、イエス様をうでに抱きました。祭司とヨセフとマリヤの3人は、シメオンの言葉を聞いてびっくりしました。ルカ 2:25-30。

シメオンがなおも話していると、もうひとりの老女が入ってきました。アンナという名の女預言者でした。シメオンの語る

のをきくなり、彼女の顔は
みるみる輝き、彼の賛美
につづいて彼女も賛美を
ささげました。38節。

ふたたびベツレヘムに
もどったマリヤは、いろい
ろなことを思いめぐらして
いました。とくに、シメオ
ンの言葉が、心にひっか
かっていた。34,35
節。



かんが
考えてみよう：マリヤ

は、自分の愛する息子が、いつか残酷な
十字架の刑によって死ななくてはならない
ことを知りませんでした。それは、剣で胸
をさしつらぬかれるような経験になるでしょ
う。多くのおおひとがイエス様を信じて救われる
でしょう。しかし、信じようとしなない人も多
いでしょう。イエス様があなたのために死
なれたことを、あなたはうれしくおもいます
か？

まな
もっと学ぼう！

★ルカ 2:1-38

★各時代の希望 4, 5章



あらし 嵐—その1

エイミー・シェラード編

エレン・ハーモンがジェームス・ホワイイトと結婚する前は、姉のサラがエレンといっしょに旅をしていました。ふたりは、エレンがイエス様から受けたメッセージを聞きたいという再臨信徒たちから招待されると、その場所へ出かけていました。フェアヘイブンのある家庭を



Little Folk Visuals

たずねたときのことです。エレンは、さびしいところに住み、とても落ちこんでいる家族のことを聞きました。

エレンは、「彼らをたずねなくては」と言いました。「でも、わたしたちをそこへつれて行ってくれる人がいるかしら？」この家族は、ある小さな島に住んでいたのです。

ガーネイさんという親切な男の人が言いました。「ヨットを持っている友だちをひとり知っていますよ。彼ならきっと貸してくれるはずですよ。それで、いつ出発したいのですか？」

エレンは、「今日です」と答えました。そこでガーネイさんは、午後にはエレンとサラを迎えにもどってくると言いました。

ところが、彼がもどってくると、エレン

はひどく気分が悪くなっていました。ガーネイさんはエレンに、それでも島に行くつもりかとたずねました。

エレンは、「ええ、行きますとも」と答えました。ところが、立ち上がろうとしても、力が入りません。ガーネイさんは、すぐにベッドのそばにひざまずき、島に住む家族をたずねるために、どうかエレン

をいやして下さいとお祈りしました。祈り終えてから、エレンはもういちど立ち上がってみました。すると、すっかり良くなっていたのです。彼らは、ふたたび感謝の祈りをささげました。それからガーネイさんは、エレンとサラをヨットのある港につれていきました。

港から島までは、それほど時間はかからないはずでした。島にはたった2軒の家があるだけで、そのうちのひとつが、問題の家族の家でした。

とつぜん強い風が吹き始め、稲妻が光り、雷が鳴りました。どしゃぶりの雨がふり、彼らはずぶぬれになってしまいました。小さなヨットは荒波にもまれ、大波がヨットにおそいかかります。もう暗くなっていたので、自分たちがどこにいるのか、ガー

ネイさんには見当もつきません。全員がおぼれ死ぬのは、確実なように思われました。

荒波にもまれ、波がおおいかぶさるヨットのなかで、エレンはひざまずき、「どうかわたしたちを助けて下さい」と、イエス様に祈り始めました。するとイエス様は、彼女にひとつの幻をお与えになりました。すべてが静かで美しく見えました。そしてエレンは、自分たちがおぼれないように、イエス様が守って下さっていることがわかりました。エレンの働きは、これからまだ何十年もつづくことになっていました。

幻が終わると、エレンはあたりを見回しました。嵐はまだ荒れ狂っていましたが、もうこわくありません。幻のことをサラとガーネイさんに話すと、彼らも、それ以上こわがることはありませんでした。

ガーネイさんは、ヨットの錨をおろすことにしました。それが何かに引っかかってくれることを願って。そしてついに、引っかかってくれました。ガーネイさんは、「ここはあまり深くないようですね」とふたりに言いました。「もう陸はすぐそこですよ。」それから何度もなんども、ありったけの声で、「助けて!だれか助けて!」と叫びました。この声は、だれかの耳に届くでしょうか?

(つづく)

(Adapted from The Spirit of Prophecy Emphasis Stories, Vol.1, pp.114-116)

だい しょう 第 4 章

ほし 星にみちびかれて



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「あなたがたはわたしを^{たず}も^とと尋ね求めて、わたしに^あ会う。もしあなたが^{いっしん}一心にわたしを^{たず}も^とと尋ね求めるならば、わたしはあなたが^あたに会う。」エレミヤ 29:13、14

にちようび 日曜日

バラムと、^{ことば}言葉をしゃべった^{はなし}ロバの^{おぼ}話を覚えていますか？バラムは、

イスラエルから^{とお}遠く離れているところに^{はな}住み、^{そこ}祖国では^{けんじや}賢者のひとりでした。彼^{かれ}は^{よげんしや}預言者のひとりでしたが、^{よくば}欲張りで^{じぶんかって}自分勝手になってしまいました。

バラクという^{おうさま}王様は、^{かみさま}神様の^{たみ}民をのろえば、^{おおがねも}大金持ちにしてあげると、バラムに^{やくそく}約束しました。ところが、バラムが^{かれ}彼らをのろおうとするたびに、^{かみさま}神様からとめられてしまいました。それどころか、イスラエルを^{しゆくふく}祝福する〔^{こうふく}幸福を祈る〕ことになってしまったのでした。

バラムの^{よげん}預言の中に、いつかイスラエ

ルからひとつの^{ほし}星が出るという^{ことば}言葉があります。昔は、イスラエルに^{かみさま}神様の^{たみ}民が集まっていた。また彼は、イスラエルからひとつの^{しやく}笏〔^{しやく}しやく〕が出るだろう、とも^い言いました。笏^{しやく}というのは、^{おうさま}王様がもっている、^{おう}王の^{けんりよく}権力の^{しやうちよう}象徴〔^{しんぷう}シンボル〕で

すから、イスラエルからひとりの^{おうさま}王様があらわれるという^い意味^みなのです。^{みんすうき}民数記 24:17。

^{とお}遠く^{くに}国に、バラムや他の^{よげんしや}預言者たちの^か書き物にくわしい^{けんじや}賢者たちがいました。彼らは、^{かれ}ダニエルの

^{よげん}預言も^し知っていたかもしれません。なぜなら、昔は^{むかし}ダニエルも、^{とくべつ}特別な^{けんじや}賢者だったからです。

^{なんびやくねん}何百年もの^{ひとびと}あいだ、人々はこれらの^か書き物^{もの}を^{けんきゆう}研究しつづけてきました。またその^{なか}中には、^{とくべつ}特別な^{おうさま}王様が^{おいで}おいでになる^{とき}時が^{ほんとう}本当に^{ちか}近いとの^{かくしん}確信を^{つよ}強めている^{ひと}人たち



がいました。

ある晩、東の国の賢者たちが星をながめていると、遠くの西の空に、見たことのない、明るく輝くひとつの光を見つけました。この光がすがたを変え、美しい星になって、空にとどまったのでした。あの星は何だろう？なぜ、とつぜんあらわれたのだろう？何かとくべつな意味があるのだろうか？賢者たちは、その謎をつきとめることにしました。

かんが **考えてみよう：** 空を明るくしていたのは何だったか、またこの星が何だったのか、わかりますか？そのことは、明日お勉強しましょう。



う
告げになりました。

わたしたちが見る絵では、賢者たちはたいてい3人ですね？しかし聖書には、賢者が何人だったのかは書かれていません。実際は、おそらくもっと大きなキャラバン隊〔隊を組んで進む一団〕のようなグループだったはずで、彼らはお金持ちでした。そし

て、イスラエルまでの長旅には、何頭ものラクダと多くの召使いたちが必要でした。彼らは、新しい王のために、とても高価な贈り物をたずさえていき、また自分たちの研究している預言書も持って行きました。

賢者たちが旅をするのは、みちびく星の見える夜の間だけでした。旅は何日もかかりましたが、彼らは休むたびに、預言の研究をつづけました。そして進んでいるあいだは、学んだことや、新しい王様のことについて語り合っていたので、長旅もつらくはありませんでした。

そしてついに、イスラエルの地にやってきました。エルサレムの反対側にある丘を下ると、彼らを見ちびいてきた光り輝く星は、美しい神殿の上で止まりました。それからゆっくりと光が弱まり、見えなくなりました。

かんが **考えてみよう：** 賢者たちは、イエス様が来られることについて、神様の民よりもよく知っていましたか？イエス様は、ふたたびもどって来られます。そのことについて、

げつようび 月曜日

西の空にあらわれた美しい星が重要な意味をもつことを、賢者たちは知っていました。ほかの賢者たちにも星の話をし、さらに預言の研究をつづけました。もしかするとあれが、バラムの言っていた星なのかもしれません。

夜空に見つけたあの明るい光が、羊飼いたちにあらわれて歌った天使の聖歌隊だったことを、賢者たちは知りませんでした。それからふしぎな光は星になり、賢者たちをイエス様のもとへと導こうとしていました。

神様は夢をとおして、天からつかわされた生まれたばかりの王をさがすようにとお

わたし
私たちは、できるかぎり学ぶべきではない
でしょうか？

かようび 火曜日

ほし
星が見えなくなる前に光を照らして
いた場所が、新しい王様のいる
ところにちがいないと、賢者たちは考えま
した。おそらく彼らは、1
番きれいな着物にきがえ、
王様にさしあげる贈り物の
準備をととのえたことでは
う。町の門をくぐったときの
彼らは、どんな気持ちだっ
たのでしょうか？エルサレム
の人々は、キャラバン隊が
神殿へと向かうのを、立ち
止まって見ていたことでは
う。あのお金持ちの人たち
はいったい何者だろう、と思ったかもしれ
ません。賢者たちは、偉い人の身なりを
していましたから。

うわさ通りの美しいりっぱな神殿で
したが、別にいつもとちがうことは起こって
ないようでした。祭司たちは、すべてのこ
とをいつものように行っているだけのよう
でした。だれひとりとして、特別に喜んで
いるようすはありません。「新しい王様は
どこにおられるのですか？」と賢者たちが
たずねても、知っている人はいないよう
です。何かがちがっていたのでしょうか？
王様についてたずねられると、祭司たち
はむしろ驚き、少しこわがっているように
さえ見えました。マタイ 2:1,2。



さいし
祭司たちがあれこれと回りくどい説明を
している間、賢者たちは、礼儀正しく話
に耳をかたむけていました。賢者たちのこ
とを、真の神様を知らない異教徒だとみ
なして、祭司たちが自分たちを軽く見て
いることが、賢者たちにもわかりました。

賢者たちがたずねればたずねるほど、
ますますおかしくなっています。彼らが
熱心にさがし求めてきたことが、ここでは
求められていないので、大いに
がっかりしました。3節。

かんが
考えてみよう：神様はどのよう
にお考えだったと思いますか？
これらの賢者たちは、本当に
異教徒でしたか？それとも彼らの
ほうが、神様について、またイ
エス様が来られることについて、
祭司や役人たちよりもよく知って
いましたか？自分と考えるのがう
人たちを、低く見てしまっていることはな
いですか？

すいようび 水曜日

じん おう
ユダヤ人の王である特別な赤ん坊
をさがすために、星にみちびかれ
てやってきた賢者たちのことは、すぐに悪
いヘロデ王の耳に入りました。ヘロデは
おそらく、あるユダヤ人たちがメシヤを待
ち望んでいることを知っていたのでしょ
う。そのメシヤが、本当に来たのだろうか？ヘ
ロデは気になってしかたがありません。ほ
かのだれかに、自分の地位をうばわれたく
ないからです。ヘロデは早速、何をしまし

たか? **マタイ 2:4,5**。

祭司や律法学者たちは、ヘロデ王のことを好きではありませんでした。ヘロデからあれこれ質問に答えるように求められると、本当は頭にきました。そして、いいかげんに答えたりしました。メシヤがベツレヘムで生まれるという預言のことを聞かされても、彼らの態度を見て、ヘロデは、自分を追い出すために何かたくらんでいるにちがいないと考えたほどでした。祭司や役人たちが、自分の代わりに新しい王を立てようとしているのではないかと、ヘロデはうたがいました。

そうだとしたら、早く手をうたなければ、とヘロデは思いました。その赤ん坊のことをつきとめて、殺さなくては! どうやらベツレヘムで生まれたようだが、いったいいつのことだろう? そうだ、あの賢者たちに調べてもらおう! そう考えたヘロデは、彼らを呼びよせました。 **7 節**。

ヘロデは怒りと恐れ of 気持ちでいっぱいでしたが、賢者たちと話すときには、とても興味があるふりをしました。彼はまず、目印にしていた星を最初に見つけたのは、いつごろのことだったかたずねました。そ



れからヘロデは、彼らになんと言いましたか? **8 節**。

ヘロデが何をたくらんでいるのかなど、賢者たちには分かるわけがありません。もしかすると、やっと新しい王様に興味を示してくれる人があらわれたと、喜んだかもしれませんね。

考えてみよう: 神様は、ヘロデの考えていることをご存知でしたか? 神様は、わたしたちの考えていることもご存知ですか?

もくようび 木曜日

賢者たちがエルサレムを去ったころには、あたりは暗くなり始めていました。ベツレヘムにはどうやって行けばいいのかと考えていると、ひとりが空を指さして言いました。「ほら、あの星だ!」

まちがいありません。あの星がふたたび空にあらわれ、明るくキラキラと輝いているではありませんか。いろいろなことがあった一日でしたが、彼らは星を見つけて安心し、うれしくなりました。星は、目的の場所まで彼らをみちびいてくれるでしょう。彼らはふたたび元気いっぱいになって、星について行きました。もうそんなに遠くはありません。 **マタイ 2:9,10**。

ヘロデ王からは、赤ん坊を見つけるまでさがしつづけるように言われていたましたが、その必要はありませんでした。ベツレヘムに到着すると、星がヨセフとマリヤと赤ん坊のいるところの真上で止まったから

です。そこは家畜たちのために建てられた、みすばらしい小屋でした。そして赤ちゃんイエスは、飼い葉おけの中にいたのです。

賢者たちはその場で、すべてが大きなまちが이었다と考えることもできたはずでしたが、彼らは神様と神様が送られた星に信頼していました。神様が自分たちをみちびいておられるという、確信がありました。さがし求めていた王様が、みすばらしい小屋で飼い葉おけに寝かされているのを見ても、彼らの心はまったく変わりませんでした。赤ん坊を見てすぐに、イエスが神様のお約束なされた王であるとわかったのです。

賢者たちは、贈り物を取り出しました。黄金、乳香、没薬です。そして、うやうやしくひざまずき、赤ちゃんイエスの足もとにひれふしました。11節。

おそらく彼らは、しばらくの間、このかわいらしい赤ん坊を見つめていたことでしょう。赤ん坊は彼らを見て、にっこりとほほ笑んだかもしれません。この赤ん坊を見つけ出して礼拝するために、彼らは遠いところからはるばるやってきたのです。それから、別れを告げて去って行きました。

ヘロデ王からは、彼のところにもどって、見つけた赤ん坊のことを報告するようと言われていたので、そうするつもりでした。ところが、あることがおこって、その計画を変えることになりました。

考えてみよう：次にあげる人たちは、その夜、どんなことを考えていたと思います

か？祭司たち、役人たち、ヘロデ王、マリヤ、ヨセフ、賢者たち、天使たち、そして父なる神様は、どんなことを考えておられたのでしょうか？

きんようび 金曜日

ヘロデ王のところへ行くこうとしていた賢者たちの計画を変える、何が起こりました。それは何でしたか？**マタイ 2:12。**

賢者たちは、ヘロデがイエス様を殺そうとしていることを知りませんでした。その夢のあと、彼らは、まっすぐ自分の国へ帰って行きました。

それから神様はヨセフに、マリヤと赤ん坊をつれてエジプトに逃げるようお告げになりました。ヘロデ王がイエスさまを殺そうとしていたからです。どれくらい時間がたってから、ヨセフはこのお告げにしましたか？**13,14節。**

エルサレムでは、ヘロデ王が賢者たちのもどるのを、首を長くして待っていました。彼らをもどって来ないことを知ると、ヘロデははげしく怒りました。祭司たちや律法学者たちが自分をわなにかけたにちがいない、と思ったかもしれません。または、自分



ほんとうの本当のたくらみが賢者たちにばれてしまった、とおもったかもしれません。ヘロデにはまだ、彼の命令にしたがう兵隊がいます。そのあと彼が命じた、ぞっとするような恐ろしいこととは何でしたか？ 16節。

でもイエス様は、エジプトに逃れていました。ヨセフとマリヤは貧しかったのですが、賢者たちからの贈り物のおかげで、ユダヤの国が安全になるまで、エジプトにとどまっていることができました。

ヘロデ王がベツレヘムにいる赤ちゃんたちを殺させてからほどなくして、彼も死にました。彼の死を悲しむ人は、ひとりもいませんでした。

かんがえてみよう：イエス様は赤ん坊のころからすでに、サタンから命をねらわれていました。けれども、イエス様のおいでが人々に知れわたらないようにふせぐことは、サタンにはできませんでした。羊飼いたちはメシヤのことを伝えていましたし、その知らせは、人から人へとどんどん広まってきました。賢者たちもそのことを信じていたので、自分たちの国に帰ってから、メシヤのことを人々に語りつづけました。エルサレムにいたすべての人も、そのことを聞いていました。祭司や役人たちでさえ、聞いていたのです。ところが彼らは、その知らせを気にしないことにしたのです。それは、イエス様が最初に来られたことについての知らせでした。今日、イエス様がふたたびおいでになる時がせまっています。わたしたちは、その知らせを人々に伝えているでしょうか？

まな もっと学ぼう！

★マタイ 2:1-18

★かくじだいのきぼうしょう
★各時代の希望6章



あらし
嵐ーその2

エイミー・シェラード編

ガーネイさんがエレンと彼女のお姉さんかのじよ ねえをヨットにの乗せて、小さな島ちいしまに住む信者の家族す しんじや かぞくのところへつれて行く途中、ひどい嵐あらしにみまわれました。しかしやっと、陸りくに近づいたことちかがわかりました。

「助けて! だれか助けて下さい!」と、ガーネイさんはさけびつづけました。彼はまだ、島にある一軒いっけんの家の近くまで来ていることに、気づいていませんでした。

家の人たちは、みんな眠っていましたが、ひとりの女の子おんな こだけは別でした。彼女は風のうなる音や、雷かみなりや雨あめの音を聞いていました。するととつぜん、遠くでかすかに声が聞こえたような気がしました。「助けて! だれか助けて!」声はそう言っているようです。女の子は耳をすませました。すると「助けて!」と、ふたたび声が聞こえました。

女の子は、父親ちちおやを起こしに走って行きました。「お父さん! お父さん! だれかが助

けてって言うてるわ!」父親ちちおやも耳みみをすますと、同じ声おな こえが聞こえました。「何かあったみたいだ。」彼はベッドから飛び起きながら言いました。すばやく着替きがえると、自分のボートのところへ走りながら、こう叫びました。「今いまいくから待まちってる! でもどこにいるんだ? 全然ぜんぜん見えないぞ!」



Little Folk Visuals

「ここです! ここです!」ガーネイさんも大声おおごえで返かえしました。まもなくこの

親切しんせつな男性だんせいはヨットにたどりつき、一本のロープをガーネイさんに投げなげてくれました。「ロープをヨットに結びなさい。そうすれば、わたしのボートで引っ張ひるから。みんな私のボートにうつりなさい。」

荒波あらなみにもまれているヨットから、同じように大きく揺ゆれているボートにうつるのは、本当に恐おそろしくて大変たいへんでした。それでもどうにか、三人さんにんともボートに乗りこむことができました。それから二人ふたりの男おとこは、岸きしまでオールを力ちからいっぱいこぎました。ところが、ロープがとつぜん切きれてしまったのです。ヨットは風かぜに強つよくあおられながら、彼らからはなれていきます。こんな嵐あらしの

くらやみ なか ひ
暗闇の中では、ヨットを引きもどせるわけ
がありません。ヨットは、あきらめるしか
ありませんでした。

ぶ じ りく つ しんせつ
無事に陸へたどり着くと、その親切な
だんせい
男性はエレンたちを家に招き入れ、暖炉
からだ
で体をあたためさせ、かわいた服をもって
きて
来てくれました。その家の女の子は、助
いえ おんな こ たす
けを求める声を聞くことができ、とても
おも
うれしく思ったことでしょう。エレンは彼女
つよ だ い い
を強く抱きしめて、お礼を言いました。

つぎ ひ あらし
次の日には、嵐はもうやんでいました。
たいよう
太陽はさんさんと輝き、三人は、島のもう
いっけん いえ す さいりんしんと かぞく
一軒の家に住む再臨信徒の家族をたずね
て、すばらしいひとときを過ごしました。
エレンたちに励まされたこの家族は、彼ら
かえ
が帰るころにはもうすっかりげんきになっ
て
いました。イエス様が、自分たちのことを
わす
忘れてはおられないことがわかったからで
す。かれらは、エレンと他の二人が無事に
まも
守られたことを、イエス様に感謝しました。

いよいよフェアヘイブンにかえ とき
に帰る時になりました。再臨信徒の家族の父親は、自分
さいりんしんと かぞく ちちおや じぶん
のヨットで彼らをつれて行くと言いました。
かれ
ガーネイさんが借りたボートは、なが
なが
流されて
しまったからです。

しゅっぱつ みなと くれ しま かぞく
出発した港にもどった彼らは、島の家族
ほうもん よろこ
を訪問したことを喜んでいましたが、同時
かな
に悲しくもありました。ヨットを貸してくれ
ゆうじん
た友人に、ヨットがなが
なが
流されてしまったこと
つ
を告げるのは、ガーネイさんにとってとて
もつらいことです。ガーネイさんは、なく
つくな
したヨットをどうやって償えるでしょうか？
もんだい
とてもむずかしい問題です。その答えは、
こた
まだだれにもわかりません。

(つづく)

(Adapted from The Spirit of Prophecy
Emphasis Stories, Vol.1, pp.116-118)

だいしょう 第5章

しょうねん 少年イエス



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」ルカ 2:52

にちようび 日曜日

わるいへロデ王は死にました。その悪ころ、ヨセフとマリヤとイエスは、まだエジプトにいました。しかし、自分たちの国が安全かどうかは、まだわかりません。それは、神様をご存知です。いよいよその時が来ると、神様がヨセフにお告げになりました。マタイ 2:19,20。

ユダヤにもどったら、またベツレヘムに住むことになるだろうと、ヨセフは考えていました。預言者が告げたとおり、イエスが生まれたのはベツレヘムだったからです。ダビデ王もそこで生まれましたし、イエスはダビデの家系だからです。しかし、新しく王となったへロデの息子が父親のようであることを聞いたヨセフは、不安になりました。そこで、



ヨセフはどうすることにしましたか? 22 節。

結局ヨセフとマリヤは、もともと住んでいたナザレにもどりました。23 節。

ナザレですって? ナザレの町のことは、だれもが知っています。そこに住む人たちは、ひじょうに悪いことで有名でした。けれどもその町に、イエスは 30 歳くらいまで生活したのです。サタンは喜んだことでしょう。神様の律法にそむかせるためにイエスを誘惑するには、かっこうの場所だと思っただからです。

しかし、イエスの本当の父親は神様でしたから、サタンの誘惑をしりぞけるのは、イエスにとってたやすいことではありませんでしたか? いいえ。もし神様が実の父親であることで、誘惑にか勝つことをより簡単にできたのなら、サタンはこう言ったでしょう。「それは公平ではありませんね。イエス様は本物の人間ではなく、神様としての力を

使って、人間として生きるのを楽にしているのではありませんか。ふつうの人間でも罪から離れるのは可能である、という証明にはなりませんね。それなら、人々が罪のない小羊を犠牲としてささげたように、彼が人々の代わりになって死ぬことはできませんよ。」

それが事実であれば、すべての天使たちや他世界の人々

も、サタンが正しいと認めざるをえなかったでしょう。しかし、サタンや天使たちや他世界の人々みんなが、イエス様は完全に神様であると同時に、完全に人間でもあることを知っていました。たとえ、それが可能であることをわたしたちが理解できなかったとしても、それは真実なのです。

考えてみよう: イエス様は人間ではなかったのだから、人間がイエス様に似ることはできないと、サタンは私たちに思わせようとしているのでしょうか？自分のうちにイエス様に住んでいただくことで、わたしたちもイエス様のようになることができますか？ヨハネ 17:23。



Darrel Tank

も教えられていたのだから、マリヤは家でかれを教えました。イエスのものおぼえがひじょうに早いことに、マリヤもヨセフも驚かされました。神様の言葉と十戒を読んで教えるときには、聖霊が助けを与えました。イエスは、神様が創造なさった多くのことについて学びました。かれは朝早く起きて、太陽

がのぼるのをながめ、父なる神様と静かなひと時を過ごすのが好きでした。また、鳥たちといっしょに、神様を賛美するのが好きでした。

イエスの学んだ聖書の物語は、わたしたちが知っている物語と同じでした。つまり神様がこの世界をお作りになったところから、旧約聖書の最後の書までの物語です。彼は、罪がこの世界に入ってきたことを学びました。そして、多くの人がサタンに耳をかたむけ、彼の嘘を信じる選りをしたことを悲しみました。

また、小羊を犠牲としてささげること

は、いつか神様がつかわすと約束なさったメシヤが、わたしたちの身代わりとなって死ぬことをさし示していることも学びまし



げつようび 月曜日

幼いころのイエスは、いつも明るく親切で、元気のいい、よくお手伝いをする子供でした。マリヤは、彼の背がのびていき、どんどん知恵がついていくのを見ながら、幸せをかみしめていました。学校では聖書に書かれていないこと

た。さらに、わたしたちの罪がゆるされるために、神殿の中で祭司たちが小羊の血で何をするかについても学びました。少年イエスは、神様のすばらしい計画についてのお話、注意深く耳をかたむけました。そして、神様を信じて信頼する選びをする人は皆、救われることを学んだのです。



とは、決してありませんでした。イエスは、ほかの聖句や十戒の言葉（彼自身がお語りになった言葉でしたが）を、わたしたちと同じように学びました。ほかの子供たちと同じように、走ったり、遊んだりするのが大好きでしたが、ごまかしたり、うそをついたりすることは決してありませんでした。

考えてみよう：人類を救うために犠牲となるメシヤが自分自身であることを、イエスは知っていましたか？まだ分かってはいなかったでしょうが、神様の声に日々耳をかたむけることによって、そのことも、少しずつ理解していったはずですよ。

傷ついている動物を見ると、とてもかわいそうに思いました。また、悲しんだり、傷ついたりしている人を見ても、気の毒に思いました。おなかをすかせている人には、自分の食べ物をわけてあげたことが何度もありました。

かようび 火曜日

この世界に罪が入ってきてからというものの、わたしたち人間は、神の子であるイエス・キリストをとおしてのみ、神様と交わることができるようになっていきます。イエスがこの地球におられる間に、父なる神様が彼についてお語りになったことがありました。けれども、これらのかぎられた場合をのぞいては、イエスが神様の言葉を語ったのです。神殿にあるすべての美しいものは、イエスのことを教えています。

今や神様の子は、人間でも神でもありました。しかし、神としての力を人間として生きることを楽にするために用いるこ

イエスはいつも明るく親切で、決してわがままをせず、不平を言いませんでした。両親の言いつけには、すぐに喜んでしたがいました。イライラしたり、怒ったりすることもありませんでした。またいばることも、ほかの人をばかにすることも、決してありませんでした。

イエスには生まれた時から、母親のちがうお兄さんとお姉さんたちがいました。ヨセフの最初の妻が死んだので、マリヤは、ヨセフの子供たちの新しい母親になったわけです。

イエスのお兄さんたちは、よく彼をからかったり、ばかにしたりしました。彼らが悪いことをするとき、イエスが仲間に入らないことが気にいらなかったからです。時々お兄さんたちがいじわるをしても、イ



だれも理解できないに決まっているからです。

もくようび 木曜日

神殿の中には、学生たちが律法について学ぶ場所がありました。神様によって与えられた律法もありましたが、教師たちが勝手に作りあげた律法も多くありました。そして教師たちは、自分たちが作りあげた律法を、あたかも神様から与えられたもののように教え、これらの律法にしたがうよう人々に求めていました。

ヨセフとマリヤも、またほかの家族の人たちも、教師たちが作り上げた律法を重んじてしたが、イエスもそれに従うべきだと考えていました。けれどもイエスは、神様によってつくられた本当に大切な律法と、人々がしたがっていた重要でない律法とのちがいを知っていました。かれは、神様の律法には注意深くしたがいましたが、教師たちがつけ加えた律法にはしたがいませんでした。イエスの両親は、彼がエルサレムにいる間、教師たちの話をよく聞き、彼らの教えるたくさんのきまりを重んじるようになることを願っていました。

過越しの祭りでエルサレムにきている間、聖霊がイエスに教えていました。彼はすでに、わたしたちを救う神様の大きなご計画や数々の預言について、教師たちよりも多く理解していました。

イエスは神殿で行われているいくつかの授業に参加し、うやうやしく話に聞いていました。もっと学びたかったからです。教師たちは、イエスの投げかける質問から、彼が聖書について、特に預言とメシヤについてくわしく知っていることがすぐにわかりました。彼らがイエスに質問すると、彼の答えにびっくりしました。そして、イエスがさまざまな預言について質問すると、かえって教師たちが、預言にもっと深い意味があることを学んでいたのです。

考えてみよう： 神様の律法のいくつかを^と取りのぞいて、かわりに人間の規則をつけ加えた人たちがいましたか？どの律法が^か変えられてしまいましたか？

きんようび 金曜日

過越しの祭りが終わり、イエスの両親は、エルサレムからナザレに向かっていた。ところが、イエスはまだエルサレムにいます。

ヨセフとマリヤは、イエスが、自分たちといっしょに旅をしている人たちの中にあるものとばかり思っていました。友人や親戚との交わりがあまりに楽しくて、夜になつていよいよ寝るときまで、息子が見えなくても気にしませんでした。そしてとつ



ぜん、イエスがいないことに気づいたのです。いったいどこにいるのだろう?いつもなら、親を手伝うため

にすぐ来てくれるはずなのに。でも今日は、さっぱりあらわれない。両親はイエスをさがしましたが、どこにもいませんでした。
ルカ 2:44。

ヨセフとマリヤは、自分たちが息子を気にかけていなかったことに、ほとんどあきれてしまいました。一体どこにいるのだろう?彼の身に何かあったのでは?ヨセフとマリヤには、神様の子をあずかり育てている責任があります。なんとしても、イエスをさがさなくては。彼らは、ヘロデがイエスを殺そうとしていたことを思い出しました。ああ、イエスの身に何か恐ろしいことが起こっていたらどうしよう。

すでに、エルサレムからだいぶ離れたところまで来てしまっています。彼らは、できるかぎり急いで、エルサレムへもどりました。45節。

ようやく、神殿にやってきました。礼拝する人々をかきわけ、死に物狂いであちらこちらをさがしました。一つひとつの部屋の中まで、くまなくさがしました。しかし、イエスはどこにも見あたりません。するととつぜん、イエスの声が聞こえてきました。なんと、学校のほうにいました。

ああ、よかった!中をのぞくと、何が見えましたか? 46,47節。

イエスの両親も、おどろいてしまいました。マリヤがやさしく叱ると、イエスは何と答えましたか? 48,49節。

本当の父親がヨセフではないことをイエスが話したのは、これが初めてでした。しかしヨセフとマリヤは、イエスの言葉の意味がわかりませんでした。50節。

かんがえてみよう: イエスの言葉の意味は、何だったと思いますか? 「父の家にいる〔父の仕事にたずさわっている〕」とは、どういうことでしたか? イエスはなぜ、この世界に来られたのですか?

まな
もっと学ぼう!

★ルカ 2:39-52

★各時代の希望 7-8章



あらし 嵐ーその3

エイミー・シェラード編

エレンとサラとガーネイさんは、彼らがたずねた島の再臨信徒のヨットで、無事フェアヘイブンへと向かっています。しかしその間ずっと、嵐で流されてしまったヨットのことを考えていました。あのヨットは、ガーネイさんが友人から借りたものだったのです。



Little Folk Visuals

帰りのヨットの上では、みんなが静かに祈っていました。ガーネイさんにヨットを貸してくれた男の人に、それがなくなったことをどのように伝えればよいのでしょうか？

「イエス様、昨晚のはげしい嵐の中で、わたしたちがあなたに助けを求めたとき、あなたはわたしたちを助けて下さいました。波はしずまりましたが、もうひとつ問題があるのです。あなたは、あの借りたヨットがどこにあるのかをご存知です。それが遠い海のかなたにあるのか、またはどこかの岸に壊れて打ち上げられているのか、海の底に沈んでいるのかを知っておられます。そしてイエス様、わたしたちは貸してくれた方に、お金で弁償するこ

とができません。どうか、もういちど、わたしたちをお助け下さい。」

ヨットの持ち主が、ふだんそのヨットをつないである場所が近づいてきても、彼らは祈りつづけています。そしてついに、持ち主の家が見えました。彼らは近づくにつれて、興奮してきました。今見えているのは、現実だろうか？まさか、どうしてそんなことが・・・

「あれだ！あれだ！」
彼らは叫んでいます。「いつもの波止場につながれているあのヨットは、流されたヨットじゃないか！」

こんどは、さっきとちがうお祈りをささげています。「イエス様、どうしてヨットがここにあるのかはわかりませんが、本当にありがとうございます！ああ、感謝いたします！」

彼らはヨットの持ち主の家へと急ぎました。「あなたの貸してくれたヨットがもうもどってきているのを見たのですが・・・」
ガーネイさんはつづけます。「いったいどうして、あのヨットがここにあるのですか？」

ガーネイさんの友人は、おどろきました。「え？あなたが今朝、ヨットを返してつな

いでくれたのではありませんか?」

「それが、わたしではないんです。」ガー
ネイさんはそう^い言って、にっこりと^{わら}笑いま
した。それから友人に、はげしい嵐の中
でヨットが^{なが}流されていったこと、また自分
たちがそのことを^{かれ}彼に^{はな}話さなければならな
いことを^{かんが}考えると、とてもつらかったという
ことを^{はな}話して^き聞かせました。その^も持ち主は、
自分のヨットを^み見ながら^{くび}首を^{よこ}横にふりまし
た。そんなことがあったなんて、まるで信
じられません。

「この嵐の中、ヨットをここまで^ぶ無事に
^も持って^き来て、あなたがいつも^お置いてある
ちょうどあの場所につないでくれたのは、
いったいどなたでしょうね?」ガーネイさ
んは友人に^{ゆうじん}たずねました。

持ち主は言いました。「まちがいなく
天使ですよ。こんなことは^{てんし}天使にしかでき
ないはずですよ。」そして^{ぜんいん}全員でひざまずき、
嵐の中で^{かれ}彼らを^{たす}助けて^{くだ}下さったことと、ヨッ
トのことを^{かみさま}神様に^{かんじや}感謝しました。

あなたや、あなたの^し知っている^{ひと}人を
天使が^{とくべつ}特別に^{たす}助けてくれた^{はなし}話があれば、
聞かせてくれませんか?

(おわり)

(Adapted from The Spirit of Prophecy
Emphasis Stories, Vol.1, pp.116-118)

だいしょう 第6章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

わたしたちの模範、イエス

あんしょうせいく 暗唱聖句

「信じてバプテスマを受ける者は救われる。」

マルコ 16:16

にちようび 日曜日

世の中には、都会のスラム街と呼ば
れるところで育つ子供も少なくあ
りません。あなただったら、どうしようも
ない悪い人しかいない町でくらしたいと思
いますか？

もしもあなたが、本当の
お父さんのいない子供で、
だれかがそのことをみんな
に言いふらしていたら、
あなたはどう思いますか？
みんなが、あなたのお母
さんの悪口を言っていたら
どうでしょう？

もしも父親か母親のちが
う兄弟がいて、あなたの
ことを嫌っていたらどうで
すか？彼らが、あなたは



年下だから、彼らの言うことをなんでも聞
くように求められたとしたら、どうでしょう
か？または、いつもいじめられてばかりい
たら、どんな気持ちになりますか？

時にはあなたの両親までも、兄弟たち
の味方をして、あなたにつらくあたったと
したらどうでしょう？

あるいは、あなたが心から神様を愛し
て十戒にきちんとしたがっているのに、

教会の先生があなたの
両親に、あなたは神様の
規則にしたがおうとしない
から、無理やりしたがわ
せなければいけない、と
言ったらどうでしょう？

あなたが仕返しをしな
かったために、ほかの
子供たちから「臆病者」
呼ばわりされたとしたら？
両親が貧しくて、おなか
をすかせている他の人に
自分の食べ物に分けてあ

げるのはどうかしていると、兄弟たちから責められたとしたら？

これらは、イエスが子供のころにいつも経験していたことの、わずかな例にすぎません。サタンは、イエスの生活をできるかぎりつらいものにするために、少しの機会も見逃しませんでした。ほんのいちどだけでも、イエスに神様を忘れさせて、みことばにしたがわないようにさせるために、サタンはどれだけ力を注いだことでしょう。

かんが
考えてみよう: サタンがわたしたちを誘惑する方法の中で、イエス様に理解できないものはひとつもありません。実はイエス様だけが、あなたの気持ちを正しく理解できるおかたなのです。どんな時にも、あなたがイエス様とお話できて、イエス様が助けて下さるのを知って、うれしく思いませんか？

げつようび 月曜日

イエス様の近くにいることが大好きな人たちは、どんな人たちだったかわかりますか？それは、幼い子供とお年寄りです。悲しんでいる人たちや、くじけそうな人たち、また小さな動物たちでさえそうでした。彼らは、イエス様から愛されているのを知っていました。イエス様は、自分にやさしくない人たちもふくめて、すべての人を愛しておられました。

もしあなたがナザレに住んでいたなら、イエスが、ヨセフの作業場から出てくるのを見かけたことでしょう。ふたりの親子は、

安息日以外は毎日そこで働いていました。イエスがまだ若いうちから、ヨセフは彼に木の扱い方を教えたので、イエスは腕のいい大工になりました。彼は、それぞれの板をぴったりと合わせる方法を知っていました。道具の使いかたも、よく知っていましたし、ていねいに道具の手入れもしました。また一日の終わりには、いつも作業台をきれいにしてから、家に帰りました。そして家では、できるかぎり両親のお手伝いをしました。

イエスは、貧しい人たちと同じような身なりをしていました。けん命に働いたあとは、ほかの人と同じように疲れしました。坂をのぼったりおりたりするのも、ほかの人より楽に感じることはありませんでした。からだは丈夫でしたが、それは健康の法則にしたがったからでした。

くる年も来る年も、神様から特別な働きに呼ばれるのを待ちながら、イエスは一生けん命働きました。大工の作業場で忠実に働くことも、伝道の働きと同じく、



かみさま けいかく
神様の計画にしたがっていることになるのでした。彼は、子供にとっても大人にとっても、完全な模範でありました。

かんが 考えてみよう: イエスは、30歳くらいになっていました。伝道の働きを始めるべき時がくれば、神様が知らせてくださることを、彼は知っていました。成長していくイエスについて、聖書は何と言っていますか? **ルカ2:52**。



じょうに悪いナザレの人たちでさえ、ヨハネのことを話しています。イエスは、いよいよ大工の作業場を去って、ヨハネのところへ行く時が来たのだと悟りました。

ヨセフはすでに亡くなっていたので、イエスは母親に別れを告げ、まもなくヨハネが人々にバプテスマを授けていたヨルダン川へやってきました。そして、いちども罪を犯したことがなかったにもかかわらず、自分にもバプテスマを授けてくれるよう、ヨハネにお願いしたのでした。 **マタイ3:13**。

イエスを一目見ただけで、バプテスマを受ける必要のない人であることが、ヨハネには分かりました。ヨハネはイエスに言いました。「いいえ、わたしこそあなたからバプテスマを受けるべきです」と。 **14節**。

イエスはおだやかに、しかしきっぱりと言いはりました。わたしたちの完全な模範となるために、彼が私たちに求めることは、すべて行わなくてははいけませんでした。 **15節**。

かんが 考えてみよう: バプテスマは、わたしたちがイエス様にしたがう選びをし、イエス様に罪を取りのぞいていた、たく決心を他の人々に伝える大切な儀式であることを、その時のイエスは知っていましたか? もしあなたがまだバプ



かようび 火曜日

バプテスマのヨハネとイエスは親戚同士で、年もほとんど同じでした。ヨハネは6か月だけ、イエスよりも早く生まれていました。ふたりとも、同じ時代に同じ国で生まれ育ったわけです。

お互い会ったことはありませんでしたが、ヨハネはイエスについて聞いていました。メシヤの働きに人々を備えさせるのが自分の使命であることを、ヨハネは知っていました。かれは、メシヤについて書かれた預言の書を学びました。そして学べば学ぶほど、イエスがきたるべきメシヤだろうと考えるようになりました。

ヨハネの説教を聞こうと、あちらこちらの国々から人々がやってきました。あのひ

テスマを受けていないなら、受けるべき
時がくれば、あなたもきっと、自分の選
びを他の人々に知ってほしいと思うこと
でしょう。

すいようび 水曜日

イエスは、バプテスマを受けて水
から川岸にあがると、すぐにその
場で祈りました。メシヤはメシヤでも、だ
れにも理解できないメシヤになることを、
彼自身はわかっていました。ほぼすべての
人が、メシヤについてまちがった考えをい
だいていたからです。ルカ 3:21。

サタンが愛の神様についての大きな嘘
を人々に信じこませるために働いているこ
とを、イエスは知っていました。そのため
人々は、神様はいつも自分たちを見はり、
少しでもまちがいを犯すのを待ちかま
えて、罰を与えようとしておられるのだ、と
思いこんでいたのです。

教師たちは、このすばらしい十戒の
意味を理解していませんでした。そして
彼らが、あまりにもたくさんの規則を作り
上げたので、



これらの規則の全部
を学ぶことすら不可能な
ほどでした。それなのに、
これらの多すぎる規則
にしたがっ

ていないと罪を犯したことになると言われ
ていたのです。

イエスはまた、多くのユダヤ人が
支配者であるローマ人を嫌っていることも
知っていました。メシヤが彼らの王となっ
て、ローマ人を追い出してくれことを、人々
は願っていました。そうすれば自分たちは
自由の身となり、ふたたび強大な国民と
なることができ、貧しい人々がいなくなれ
ば、みんながしあわせになれると考えた
のです。

おそらくほとんどの人たちは、本当の敵
がサタンであって、もっとも必要なのは、
そのサタンから彼らを解放して下さるメシ
ヤなのだということを知りませんでした。

神様が本当はどのようなお方なのかを
示すことができるのは、イエスだけです。
それを人々が信じるのは、どんなにむず
かしいことであるかを、イエスは知ってい
ました。彼らが信じなくてはならないのは、
イエスが神の子であることと、彼が私たち
をすべての罪から救うために来られたこと
です。

考えてみよう: イエスはこれらすべての
ことを知っていました。彼はなぜ、人々が
期待していたような方法ではなく、かえっ
てみんなの期待を裏切るようなかたちで来
られたと思いますか？

もくようび 木曜日

ヨハネはヨルダン川で、イエスに
バプテスマを授けました。川岸で
祈っていたイエスは、これから自分がにな

う大きな使命のことを考えていました。サタンが人々に、サタンの王国すなわちこの世のものを選ばせようとしていることを、イエスは彼らに警告しなくてはなりません。だれでも、イエスの王国を選ぶことによってのみ、安全で幸福でいられます。イエスの王国は、この世のものではありません。ヨハネ 18:36。

イエスは、サタンが手強いことを知っていました。また、サタンが人々に神様の王国を選ばせないために、これからもあらゆる手を使ってイエスと戦いつづけることも知っていました。サタンは、その戦いをイエスにとってできるかぎりつらいものにするつもりでした。そしていつだって、ほぼすべての人が、なおもサタンを信じ、彼にしたがっているようでした。

この時もまだ、イエスは神でした。と同時に、人間でもありました。それが何であれ、神としての力を使って人間にできないことをしてはならないことを、彼は知っていました。わたしたちと同じように、



父なる神様の助けにたよらなくてはなりません。サタンがたえずイエスに罪を犯させようとするので、父なる神様の助けがたえず必要でした。

イエスは天を見上げて祈りながら、父なる神様はこの愛の服従を喜んでおられるのか、またこれからもたえず共にいてくださるのかを知りたいと、熱心に望みました。

天使たちは、その祈りを聞いていました。彼らは、このような祈りをこれまでに聞いたことがありませんでした。「天の父なる神様は、どんな時もあなたと共におられますよ」と伝えることができたなら、と心から願いました。しかしなんと、天使たちではなく、神様ご自身が、イエスの祈りにお答えになったのです。

考えてみよう: わたしたちが祈るとき、そばについている天使は、その祈りを聞いていますか？ イエス様ご自身は、わたしたちの祈りを聞いておられますか？ はい。イエス様は、わたしたちをサタンから守りたいと願っておられるでしょうか？ イエス様が助けて下さらなければ、わたしたちは安全ではいられないことを、あなたはいつも覚えていますか？

きんようび 金曜日

イエスは川岸で祈りながら、天を見上げていました。祈り終わると、おどろくべきことが起こりました。それは何でしたか？ **マタイ 3:16**。

それから、天から声が聞こえてきました。

天使の声ではありません。では、だれの声だったのでしょうか？声は何と言いましたか？ 17 節。

イエスの本当の父が、祈りに答えて下さいました。天の父は、とても喜んでおられます！それでイエスは、すべてが計画どおりに進んでいることを知ったのでした。

イエスが祈っている間、みんなはしずかに見守っていました。彼らは、イエスのまわりに光があるのを見ました。そこにいたみんなが神様の声を聞き、聖霊がハトのように下るのを見たわけではなかったでしょうが、おそらくヨハネにだけは聞こえ、見えたのでした。神様は前もって、そのようなしるしを彼に示してくださると約束しておられたのでした。ヨハネ 1:32-34。

ヨハネが初めてイエスを見たとき、清くて聖なるお方だということはすぐにわかりました。ヨハネはヨルダン川で説教をし、バプテスマを授けながら、いろいろな人を見てきました。でも、イエスのような人を見たことがありませんでした。そして、バプテスマのあとに起こったことを自分の耳で聞き、自分の目で見て、彼がメシヤにちがいないと確信したのでした。イエスは神の小羊でもありましたが、そのことについては、ヨハネでさえもまだきちんと理解してはいませんでした。

千年以上も前から、人々は聖所で小羊をささげてきました。聖所のさまざまな儀式は、メシヤが本当の神の小羊であることを思い出させるためにありました。神殿で死んだ小羊のように、メシヤが来てすべての人のために死んで下さるので

す。預言者イザヤはこのことを何百年も前に書いていたのですが、これは、人々が期待していたような、または求めていたメシヤではありませんでした。イザヤ 53:7。

異教の民は、自分たちの偶像を怒らせないために犠牲をささげていました。そして神の民の中にも、異教徒のような精神で犠牲の小羊をささげる人が多くいました。彼らは、犠牲の小羊をささげることが神様を喜ばせ、神様も自分たちを大いに祝福して下さるものだと考えていました。けれども、その犠牲の小羊は、わたしたちの身代わりとなって死んでくださる本物の小羊について、思い起こさせるためであつたのです。

考えてみよう：天の父が自分のことについて語られるのを聞いたとき、イエスはどのように感じたと思いますか？わたしたちがイエス様を愛し、彼に信頼することを選び、彼のようになれるよう助けを求めるなら、神様は喜んでわたしたちにも同じ言葉をかけて下さるでしょう。神様がイエス様を愛したのと同じように、わたしたちのことも愛して下さるなんて、すばらしいと思いませんか？

まな もっと学ぼう！

★マタイ 3章

★各時代の希望 9, 11章



ゆめ
2つの夢
エイミー・シェラード編

期待していたようにイエス様が来られなかったで、再臨信徒たちが大いに失望して

いたころ、アニー・スミスは16歳でした。アニーの母親も、がっかりしていた信者のひとりでしたが、彼女はその後聖書の勉強をつづけていました。

そして第7日目が安息日であることを知ると、彼女はそれを守り始めました。

スミス夫人(アニーの母親)には、アニーとユライアというふたりの子供がいました。そしてもちろん、スミス夫人は、子供たちにも安息日を守る選びをしてほしいと願っていました。ジョセフ・ベイツがアニーの住む町へやってくると聞いたとき、スミス夫人はアニーに手紙を書きました。「安息日に、ジョセフ・ベイツさんがあなたの住んでいる町に来るそうです。」彼女はこうつづけました。「どうか、その集会に出て、彼の話を聞いて下さいね。」アニーは母親を喜ばせたかったので、集会に行くことにしました。



Little Folk Visuals

さて、その集会の前日の金曜日、アニーはジョセフ・ベイツの話を聞くために集会へ行く夢を見ました。夢の中で彼女は、一人でいっぱいになった部屋に入りましたが、ドアの近くにひとつ、あいている席が

あり、そこにすわって話を注意深く聞きました。ベイツ船長は、ある興味深い表を指差して言いました。「2300日が過ぎると、聖所は清められるでしょう」と。

アニーは聞いていて、ベイツ船長が真理を語っていることがわかりました。そして夢から覚め、夢のことは忘れてしまいました。

その同じ夜、ジョセフ・ベイツも夢を見ました。この夢では、一人でいっぱいになった部屋で彼が話し始めたちょうどそのとき、ひとりの若い女性が入ってきました。彼女はドアの近くの席にすわりました。話しているあいだ、彼女はとても興味ぶかく話を聞き、彼の言うことになっとくしているようすでした。ベイツ船長は夢から覚め、彼もまた、夢のことはすっかり忘れてしまいました。

次の朝、集会が始まる前に着こうと、アニーは早めに家を出ました。ところが道

に迷ってしまい、集会場所に着いたころには、会衆が賛美歌をうたっていました。部屋はもういっぱいでしたが、ひとつだけ、ドアの近くに席が残っていました。すわってあたりを見回すと、すべてが夢で見たとおりでした。また説教者と話の内容も、まるで夢と同じだったのです。

ベイツ船長はアニーが部屋に入ってくるのを見て、すぐにあの夢のことを思い出しました。まさに夢で見たと同じ女性です。夢で見たとおりの席に彼女はすわり、彼の話に聞き入っています。

集会の後、ふたりは会って、お互いの夢のことを話しました。ふたりとも、イエス様が夢を見せてくださったのだと確信しました。

聖書を熱心に勉強するようになったアニーは、天の聖所について、また第7日目が神様の聖なる安息日であることを学びました。その後、彼女はイエス様の忠実な働き人となりました。わたしたちセブンスデー・アドベンチストの賛美歌には、彼女の書いた賛美歌が3曲のっています。

アニーは弟のユライアにも、聖書を勉強するようにすすめました。そして彼も、イエス様のとても重要な、忠実な働き人となりました。

イエス様は、じつにいろいろな方法で、人々を真理の学びへと導かれます。私たちも、お友だちを安息日学校に招いて、イエス様のお手伝いをしたいとは思いませんか？

だい しょう 第7章 ゆうわく 3つの誘惑



あんしょうせいく 暗唱聖句

「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る
一つ一つの言で生きるものである。」

マタイ 4:4

にちようび 日曜日

イエスはもう30歳になっていました。そしてサタンはまだ、彼にひとつの罪も犯させることはできていませんでした。サタンは、イエスがバプテスマを受けるときに起こったことをすべて見ていましたし、神様がイエスをご自分の子と宣言したのも聞きました。ご自分の子を人間とならせて、わたしたちの身代わりとして死なせるほど、神様が人間を愛する理由が、彼には理解できませんでした。天から追い出される前は神様といっしょにいたので、神様とみ子が互いに愛し合っていることはよく知っていました。

アダムとエバが罪を犯してから、み子イエスが、



神の民をみちびき、助ける役目をはたしていました。だれひとりとして、神としての輝きをまとったイエスを見た者はいませんでした。彼はいつでも、人間か天使の姿で人々の前にあらわれていたからです。しかし今、イエスは本物の人間でした。彼は、神様が私たちと共におられることの確かな証拠でした。そして彼だけが、わたしたちを救うことができたのでした。

創造されたとき、アダムは完全な人間でしたが、罪を犯してしまいました。人となったイエスを見て、彼にも罪を犯させることができるとサタンは考えました。しかし、そうならなければ、「人間はだれも神様の律法にしたがうことはできない」という主張〔言い張っていること〕は、嘘だということになります。

自分たちを助けて下さる神様にたよっているかぎり、人は十戒にしたがうことができることを、イエスは証明しようとしていました。

そして最後には、サタンと彼の天使たちは永遠に滅ぼされることとなります。ですから、まちがいなくサタンは、神様がわたしたちを救おうとするすばらしい計画をだめにしようと、あらゆる手をつくしていたのです！

バプテスマを受けた後、考えて祈る時間を必要としていたイエスに、聖霊は行くべきところを示しました。それは美しく、静かな場所でしたか？**マタイ 4:1。**

かんが **考えてみよう：** 辞典で「荒野」という言葉を調べてみて下さい。それは、あなたが6週間、ひとりぼっちで過ごしたいと思えるような場所ですか？

げつようび 月曜日

せい 聖霊がイエスをみちびいた荒野は、決して美しい場所ではありませんでした。あたりはみな、ごつごつした岩ばかりで、からからにかわいていて、はげた丘がならんでいます。そこには、毒ヘビや猛獣たちもいます。でも、そんなことは全く気になりませんでした。イエスの心の中では、あのバプテスマの時に聞こえてきた父なる神様のすばらしい言葉が、今でも鳴りひびいていました。それは、どんな言葉でしたか？**マタイ 3:17。**

わたしたちを救うための計画を実行するにあたって、これからが、ひじょうに大変

なものになることをイエスは知っていました。彼は、わたしたちと同じように、父なる神様に日々たよらなくてはなりません。そうすれば、神様は日に日に助けを与えてくださることでしょう。イエスに対しても、わたしたちに対しても、その助けは約束されています。しかしイエスは、だれよりも熱心に、神様からの助けを祈り求めたのでした。

荒野にやってきたイエスは、食べ物のことなど考えてもいませんでした。食べることもせずに、ただひたすら祈りつづけていたのです。そして次第に弱り、やせていきました。

何百年も前に、モーセはシナイ山で、何も食べずに神様と40日間過ごしましたが、彼は弱りもせず、やせもしませんでした。神様が、彼を支えてくださっていたからです。**出エジプト 34:28。**

ところが神様は、イエスに対してそうはなさいませんでしたし、イエスも、自分自身を支えるために、神の力を使い

ませんでした。イエスは人間であると同時に、神の子でもありました。けれども、自分を助けるために、神としての力を使っではいけないのです。私たちと同じように誘惑を受け、わたしたちが受けられる以上の助けを受けずに、誘惑に勝利しなくてははいけませんでした。

かんが **考えてみよう：** イエスの



ように神様に信頼するのは、どんな時でもかたんですか?とてもお腹がすいているのに、食べ物を手に入れることができなかつた経験がありますか?この世界では毎日、食べ物が無いために、多くの人が死んでいきます。彼らは、食べ物を作り出す奇跡を行うことができるでしょうか?いいえ、できません。しかしイエスは、それをしようと思えばできたはずでした。彼はそうしましたか?いいえ。彼は、わたしたちと同じ人間であることを選んだのでした。

かようび 火曜日

イエスはひとりになるために、さびしい荒野へ行きました。彼は人間を愛し、いつも彼らと一しょにいて、助けてあげたいと思っていました。しかし今は、ほかの人と一しょにいることを望みませんでした。何ものにも邪魔されずに祈ることができるように、ひとりになる必要がありました。

荒野での日々が過ぎ、何週間かたちました。食べることをやめてから、とうとう6週間がすぎようとしていました。イエスは、日に日にやせ細っていました。それでもまだ、天の神様に信頼し、祈りつづけていました。

サタンは、じっくりと機会をうかがっていました。かつて彼は、神様が禁じられた果物を食べさせようと、アダムとエバを誘惑しました。彼らはお腹がすいていたわけでもないのに、誘惑に負けて、それを食べてしまいました。一方、6週間ち

かく何も食べていなかったイエスは、とてもお腹がすいていました。そしていよいよ、サタンが誘惑をしかける時がやってきました。マタイ4:2。

イエスが食べ物のことを考えていると、とつぜん、ひとりの美しい光り輝く天使があらわれました。いったいだれなのでしょう?なぜ、ここにいるのでしょうか?イエスを助けるために、やって来たのでしょうか?天使の声はやわらかく、音楽のようでした。自分が神様からつかわされてきたこと、神様がイエスを試しておられたことと、またその試みの期間が終了したことを告げるために来たと、彼は言いました。もう食べてもよいのです。うれしい知らせではありませんか!すると天使は、パンに似た形をした石をいくつか指さしました。それから、何と言いましたか?3節。

すぐにイエスは、この天使が神様からつかわされていないことに気づきました。イエスには、それがサタンであることがわかりました。彼はすぐさま、ずっと前に学んでいた聖書の言葉によって、サタンに答えました。4節。

イエスはどうして、この天使の正体がわかったのでしょうか?サタンは、「もしあなたが神の子ならば」と言いました。イエスは自分が神の子かどうか、考える必要はありません。バプテスマの時に神様ご自身がそうおっしゃいましたから。それにイエスも、自分が何者であることを証明したり、自分自身を助けたりするために、神の子としての力を使うことは決してありません。イエスはサタンに、食べることによ

てではなく、神様に信頼したがうことによつて永遠の命が与えられるのだと言いました。

考えてみよう: いろいろな絵の中で、しばしばサタンの外見は醜く、角やしっぽが生えたように描かれます。ところが彼は今でも、力のある天使です。見た目の醜い生き物ではありません。イエスがサタンに向かつて言った言葉を思い出せますか？それはどんな意味ですか？

すいようび 水曜日

サタンはひどく怒り、がっかりしていましたが、そんなそぶりは見せませんでした。次にサタンは、別のやり方でイエスに罪を犯させることにしました。そしてまだ、天からやってきた天使のふりをしていました。

サタンは、ただイエスが本当に神様に信頼しているかどうかを見るために、イエスを試しているのだと言いました。こんどは、神様が自分を支えてくださるといふ信仰をもっているかをふたたび証明するために、別の試み〔テスト〕を用意して行きましたか？マタイ 4:5,6。

こんどは、聖書に書かれている言葉を使つて、イエスを自分にしたがわせようとして、ここでもまた、最初の試み〔テスト〕の時と同じ「もし」といふ言葉が使われていたのです。サタンはイエスに、自分が本当に神の子であるかどうかを疑わせようとしていました。しかしイエスは、

自分が神の子であることを知っていました。

イエスはすぐに見ぬきました。もしサタンの言うとおりにしたならば、神としての力を使うことになるか、あるいは、父なる神様がイエスを救うために奇跡を起こさなくてははいけません。

サタンに対しては何も証明する必要がないことを、イエスは知っていました。この時もまた、イエスは聖書によつて答えました。こんどは何と言いましたか？7節。

サタンはもう、追いつめられた気分でした。これまでイエスをだますことができなかったのも、もういい天使のふりをするのはやめました。でも、あきらめるつもりはありません。イエスは6週間近くも、植物のはえない、決してきれいとはいえない荒野にいました。すっかり弱つて、おなかもすいて、青白い顔をし、やせこけています。とつぜん、イエスの目の前にあらわれたものは何でしたか？8,9節。

考えてみよう: これまで勉強した物語の中に、サタンにしたがうよりは、むしろ死を選んだ人たちがいましたか？

もくようび 木曜日

ながいこと食はずに過ごしたためイエスが弱っているのにもかかわらず、サタンはもういちど彼を誘惑しました。もしイエスがひれ伏してサタンを拝むなら、世界中のすべての国を与えるといつて誘つたのです。しかし、わたしたちの世界をお造りになつたのはイエスですから、それは

すでに彼のものです。この世界をサタンに与えたことは、いちどもありませんでした。サタンは、すべての人が罪を犯したので、自分がこの世界を支配していると信じたかったのです。しかしイエスは、サタンがこの世界の本当の支配者でないことを知っていました。ダニ



エル 4:17 を読みましょう。

イエスは、サタンと彼の王国であるこの罪の世界から、わたしたちを救うために来られました。そしてイエスが、わたしたちのためにこのことをして下さったので、わたしたちは神様の王国に入る者となり、罪を滅ぼしたあとにイエスが造る完全な新しい世界で、生きることができるのです。

この時もまた、イエスは聖書の言葉でサタンに答えました。それはイエスご自身が、ずっと昔、モーセをとおしてご自分の民にお与えになった言葉でした。マタイ 4:10。

サタンは打ち負かされ、大いに怒りましたが、その場を去らなくてはなりません。11 節。

天使たちは、すべてを見守っていました。そしてついに、出動するゆるしが出たのです。イエスは地面にたおれ、まるで死んでしまうかのように見えます。やさしく、愛情をこめて、天使たちはイエスのお世話をしました。食べ物を与えると、彼は少しずつ元気をとりもどして行きました。彼はわたしたちのために、大いなる

勝利を勝ちとって下さったのです。

天使たちはどれだけ喜んだことでしょうか！彼らにとって、見ていながら助けられないのは、とてもつらいことでした。天使でさえそうなら、すべてをごらんになっていた神様は、どれほどつらかったことでしょうか！しか

し、もう終わりました。邪悪で残酷なサタンは敗北し、イエスが勝利したのです。

かんがえてみよう：わたしたちがサタンにしたがうことを拒むと、サタンはわたしたちから離れなくてはなりませんか？ヤコブ 4:7。私たちがイエスにしたがうことを選ぶときはいつでも、サタンは私たちから離れなくてはなりません。わたしたちもイエスのように、聖書の言葉で答えられるように学ぶことができますか？あなたは、そうしていますか？

きんようび 金曜日

サタンの3つの誘惑は何でしたか？ その一つひとつを思い出せなければ、マタイ 4:3-10 を読んでみましょう。

サタンが私たちににもたらすどの誘惑も、イエスを試みた3つの誘惑の、どちらかのグループにはいります。第1ヨハネ 2:16。アダムが罪を犯したときから、わたしたちは皆、自分中心の人間になってしまいました。自然と、自分を喜ばせたいと思ってしまうのです。そして、それぞれの誘惑は、

すべて「自分」を喜ばせることにかかわっています。このことについて考えてみましょう。

第1の誘惑は、食べることについてです。自分が食べたいものを食べる、または、いつでも食べたい時に食べることで、サタンはアダムとエバに対し、自分の食べたいように食べるという思いを起こさせ、神様が食べてはいけないとおっしゃった果物を食べさせました。それ以来、人々が体に良くない物を食べたり飲んだりするように、またタバコのような害になるものをとり入れるように誘惑してきました。

時には、いいものを求めることもありますが、たとえそういうものであっても、両親が「だめ」とか「待ちなさい」と言うならば、それにしたがうべきです。両親が私たちにとって最善のものを知っていると感じて、彼らに任せることは、たとえお腹がすいているときでも、父なる神様に信頼したイエスの模範にならっていることになります。

第2の誘惑は、するべきではないと知っ

ていながら、それをする時には、神様はわたしたちを守って下さらないことを教えています。たとえ自分勝手の道を選んでも、自分は神様にしがっているとおも

くだ下さっています。しかし、わたしたちが言いつけにそむいて、おろかでまちがった、または危険なことをしても、神様も両親も気にとめないでしょうか？神様が気にとめてくださることに、わたしたちは感謝すべきです。それだから神様は、聖書をとおして、わたしたちにとって最善のことを教えておられるのです。

第3の誘惑は、誇ってはならないことをおし

教えています。神様と十戒にしたがうよりも、何かほかのものを求めるように誘惑されるとき、わたしたちは自分中心になるように誘惑されているのです。そして自分中心の人とは、誇る〔いばる〕人です。誇り〔プライド〕は、自分が他の人よりもすぐれている、と思わせます。「誇り」は、自分のすべてが正しい、と思わせ、だれからの助けも指示も必要ないと考えようになります。しかし「誇り」は、決してわたしたちを幸せにするものではありません。本当に幸せになる方法を示して下さったイエス様に、感謝すべきではないで

まな もっと学ぼう！

★ルカ 4:1-13

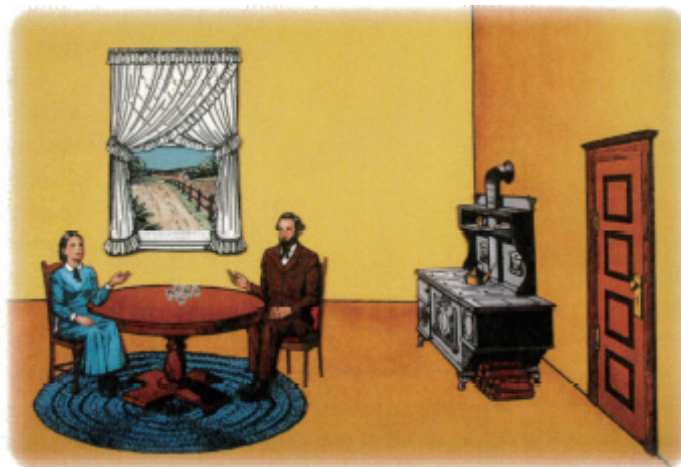
★各時代の希望 12, 13 章



ながくつした ドアのうしろの長靴下

エイミー・シェラード編

ジェームスとエレンの家は、ニューヨークのロチェスターにありました。家の台所のそばにあるドアの向こうがわは、真っ暗でした。そこには、古い長靴下がさげられています。そして、そのことはエレンしか知りません。それは彼女だけの秘密です。この長靴下には、1セント、



Little Folk Visuals

5セント、10セントなど、いろいろな種類の硬貨〔コイン〕が入っているので重くなっています。そして25セントや50セントもいくらかはありましたが、ドルはほんのわずかだけでした。

ジェームスとエレンは貧しいはずなのに、どうして長靴下にお金が入っているのでしょうか？それは、出版の手伝いのためそこに泊まっている人たちがいて、エレンは、何か急な必要が生じた時のために、彼らが支払ってくれる食費の一部を節約していました。それがたったの2、3セントだったとしても、秘密の靴下の中に入れてました。それで、少しずつ、長靴下の中身は増えていきました。夫のジェームスですら、

そのことを知りませんでした。

そんなある日、ジェームスが言いました。「紙を買わなくちゃいけないんだが、お金がないんだよ。はて、どうしたらいいか、

さっぱりわからないよ。」エレンは、彼が心配しているのがわかりました。「『レビュー & ヘラルド』の印刷の準備ができているんだ。もう紙も注文してあるのに、そのお

金がはらえないんだよ…」

これぞ緊急事態だと、エレンは思いました。「いくら必要なのですか？」と、彼女はたずねました。

ジェームスが答えました。「64ドルだけど、そんな大金、手に入るわけがない。」

するとエレンは、何も言わずに長靴下の下がっているところへ行き、それを持ち出してきました。ジェームスは目を丸くして、彼女がゆっくりとテーブルに何百枚もの硬貨をこぼすのを見えています。「とにかく数えてみましょうよ、ジェームス。」夫に向かってほほ笑みながら、彼女は言いました。

そこでふたりはテーブルのそばにすわっ

て、^{かぞ}数え^{はじ}始めました。^{くつした}靴下^{なか}の中^{はい}に入っ
いた^{かね}お金は、^{ぜんぶ}全部でなんと64ドルだっ
たのです!ジェームスは、いとしいエレン
を^{つよ}強く^だ抱きしめ、^{きゆう}キスをしました。急な
^{ひつよう}必要^{とき}の時のために、^{まいしゆう}毎週^{すう}、数セントずつ
でも^{ちよきん}貯金^{かれ}していたなんて!彼は、かしこい
^{つま}妻^{ほこ}のことを^{おも}どんなに誇りに思ったことでは
う!そしてエレンも、^{せつやく}コツコツと節約した
^{けっか}結果^{やく}、役に立つことができ、^たどんなにう
れしかったことでしょう!

ジェームスは^{かね}その^{ゆうびんきよく}お金を、郵便局にもつ
ていきました。^{ゆうびんきよくいん}郵便局員は、^{ひと}なぜこの人が、
^{おほ}これだけの^{きんがく}大きい金額を^{こぜに}小銭で^{はら}払おうと
しているのか、^{おも}ふしぎに思ったかもしれま
せんね。でも^{こぜに}小銭^{けいざん}を計算すると、^{かみ}ぴったり
^{だいきんぶん}紙の代金分^{ぶん}ありました。

エレンは、^{かね}わずかな^たお金でも、貯める
と^{おほ}大きな^{がく}額になることを^{まな}学びました。よそ
の^{こども}子供^{かし}たちが^{お菓}お菓子や^{アイス}アイスクリームにお
^{かね}金^{つか}を使っているのを見ると、^{かのじよ}彼女は^{こころ}心を
^{いた}痛めました。そういうものが、わたしたち
の^{からだ}体に^よ良くないものだと^し知っていたからで
す。しかも、それは^{かね}お金の^{むだ}無駄づかいです。
あなたもエレンのように、^{ちよきん}貯金の^{しゅうかん}習慣を
^み身につけていますか?

(Adapted from The Spirit of Prophecy
Emphasis Stories, Vol.1, pp.121-124)

だいしょう 第8章

でし 弟子をお召しになるイエス



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「このかたが、あなたがたに言いつけることは、
なんでもして下さい。」ヨハネ 2:5

にちようび 日曜日

バプテスマのヨハネは、イエスのこと
をかんがえていました。かれはどこに
いるのだろう？どこへ行ってしまったのか？
なぜ、自分が何者であるかを人々に話す
ために、もどってこないのだろう？

イエスにバプテスマをさずけたその日か
ら、ヨハネは、それまでよりもさらによげん
のことをべんきようして、おそらくかれは、
「小羊として」のメシヤについてかんが
えていたのでしょう。イザヤ 53:7。これはどう
いう意味なのでしょう？彼
にはまったくわかりません。
それでもヨハネはせつきようをつ
づけ、ぐんしゅうかれはなしき
のために、日々やってきました。

ある日、さいし
ある日、祭司たちがエル
サレムからやってきて、ヨ
ハネにたずねました。ヨハ



ネはエリヤなのか、モーセか、それともメ
シヤなのか、知りたかったのです。すると
かれは、じぶんをだれだと言いましたか？ヨハ
ネ 1:23。

それから、さいしたちはべつ
の事をたずね
ました。25 節。

さいしたちがこたえをま
待っていると、かれ
はヨハネがぐんしゅうの
ところに目をやるの
を見ました。そこに、
ヨハネはあるじんぶつ
を見つけたのです。
イエスです！イエスが
もどってきたのです！
喜びながらかれは手
をのばし、ゆびをさ
して、なにと言いま
したか？26,27 節。

さいしたちはあたりを
みまわ見回しました。
しかし自分たちのかんが
えるような、じんぶつ
らしいひとみあた
りません。だれも、
イエスがメシヤだ
とは言いませんで
した。事実、イエ
スは、まるで何
もなかったかのよ
うに、さしづかに
ヨハネのでし
と話をはな
しておられました。

おなじことが、つぎ
の日にもお

こりました。こんどは、イエスを指さしたとき、ヨハネの顔がかがやいて見えました。ヨハネは何と言いましたか？ 29-34 節。

人々はイエスをじっと見つめました。背は高いほうでしたが、普通の人たちとそれほどちがうようには見えませんでした。本当にこの人物が、長いあいだ待ち望んでいたお方なののでしょうか？

考えてみよう：もしあなたがそこにいて、王様や、または一目で偉い人物だとわかるような人を見るために待っていたとしたら、どのように感じたと思いますか？

げつようび 月曜日

イエスがバプテスマを受けたとき、ヨハネの話を聞いていた人たちも何人かそこにいました。あの光を見、神様の声を聞いた人たちもいました。ところが、今のイエスは、まるで別人のようでした。

荒野で 40 日間何も食べずに過ごしたので、かれの姿はすっかり変わっていたのです。ヨハネだけが、イエスだとわかりました。

イエスは、そのへんの貧しい人と同じような格好をしていました。しかし、彼のやさしい、おだやかな顔には、だれもが目を引かれました。しかも、彼には何かしら力強さもありました。そのようなイエスを見て、考えこむ人も、あやしむ人も、がっかりする人もいました。

つぎの日、ふたりの弟子といっしょに



立っていたヨハネは、イエスが歩いているのを見かけました。ヨハネ 1:35,36。

ふたりの弟子は、アンデレとヨハネでした。彼らはまたも、バプテスマのヨハネが、「神の小羊」と言うのを聞きました。この言葉には、どんな意味があるのでしょうか？バプテスマのヨハネですら、その意味をはっきりとは知りませんでした。彼らはその場で、何を決心しましたか？ 37-39 節。

彼らは、イエスが泊まっているところをたずねました。アンデレは、兄弟のシモンにイエスのことを伝えたくてたまりません。40,41 節。

メシヤだ！もう待ちきれません！シモンとアンデレは、ただちにイエスのところへ行きました。イエスが彼を見たとき、聖霊がシモンのことすべてを教えました。イエスはその時、シモンが多くのことを学ばなくてはならないことを知りましたが、同時に、彼がいつか神様のための力強い働き人となることもわかりました。そして、イエスは彼を愛されました。イエスがシモンに与えた新しい名前は何か？ 42 節。

マタイ 16:17,18。

考えてみよう：イエス様は、わたしたち一人ひとりのすべてをご存知ですか？彼はペテロを愛したように、わたしたちのことも愛して下さいますか？

かようび 火曜日

でし 子になりたいという人が、すでに
にん 3人イエスのところに集まってい
ました。ヨハネとアンデレ、そしてペテロ
です。アンデレとペテロは、彼らと同じベツ
サイダ出身の友人ピリポについて、イエス
はな に話したはずでし。そしてじきに、弟子は
にん 4人になりました。ヨハネ 1:43,44。

それからピリポは、ある知り合いのことを
を思いうかべました。彼はどうしましたか？

45 節。

バプテスマのヨハネがイエスを「神の
こひつじ 小羊」と呼んだとき、ナタナエルはそこに
いました。ところがイエスを見たとき、
かれ 彼はがっかりしてしまいました。イエスは、
ナタナエルが期待していた人物とは、ま
るでちがっていました。あの人、メシヤ
であるわけではないだろう!?しかし、聖霊
はナタナエルの心に語りつづけ、彼はイ
エスがメシヤなのかひたすら考えてつづ
けていました。ナタナエルは、メシヤにつ
いての預言を研究しました。ピリポがナタ
ナエルを見つけたとき、かれ 彼はイチジクの
木のきした いの下で祈っていました。ピリポはかれ
に、自分たちがメシヤを見つけたことを告げま
した。しかし、イエスがナザレの出身で
あると聞いたナタナエルは、ナザレの悪
い評判のことが気になってしまいました。
ナザレが悪い町であることは、みんなが
し 知っています。46 節。



ピリポは、言い争うことはしませんでした。
かれ 彼はただ、イエスに会ってみて自分
はんだん 自分で判断するようにと言いました。

ナタナエルを見たイエスには、かれ
しょうじき 正直で神様を愛し、心から真理を求めて
いる人であることがすぐにわかりました。
ナタナエルは、イエスの言葉にびっくりし
ました。47-49 節。

これで、イエスの弟子は5人になりました。
にん 5人とも、イエスが神様からつかわ
されたおかたであるとことを信じました。
はじめのうち、このことを信じる決心をし
たのは、ごくわずかな人たちでした。しか
し、この5人が、キリストを信じる者たち
の集まりである「キリスト教会」の始まり
となったのでした。最初はひじょうにすく
ない数でしたが、のちに大きく成長すること
になります。

かんが 考えてみよう： 今では、なんびやくなんぜんまんにん
何百何千万人も

ひとが、イエス様のことを耳にします。彼らは、どのような方法でイエス様のことを聞いていますか？いくつか例をあげてください。

すいようび 水曜日

ああなたは、結婚式が好きですか？イエスも結婚式が好きでした。彼と弟子たちは、ナザレからそれほど遠くないカナというところでの結婚式に招待されていました。花嫁も花婿もイエスの家族の親せきだったので、母親のマリヤは、式のお手伝いをするようになっていました。

マリヤは、とても楽しみでした。もう2か月ほど、イエスと会っていませんでしたが、彼のバプテスマの時の光や声のことは、耳にしていました。イエスがひとりで荒野にいることを聞いたときには、心配でたまりませんでした。

ヨセフは、帰らぬ人となっていました。マリヤには、心のかよい合える人がいませんでした。彼女は何度もなんども、イエスが生まれる前に天使が話したことを思い出しました。また、くりかえしなんども、彼が本当のメシヤであることを示す、いろいろなできごとについて考えました。でも、時々ふしぎに思うのです。なぜイエスは、自分がだれであるかをすべての人に証明しないのだろうか？

結婚式の会場にあらわれたイエスは、あいかわらず愛情にみちた、たよりになる息子でした。しかし、どこかちがっているようにも見えました。イエスは、これまで

以上にやせていました。それでも、人々から尊敬のまなざしで見られるような、何かがありました。イエスの弟子たちが、彼を「先生」と呼ぶのも聞きました。人々はひそひそと、イエスについて聞いたことを語り合っています。マリヤはつい、息子のことが誇らしくなりました。あとはイエスが、自分がメシヤであることを証明するために、何かしてくれさえすれば、と思っていました。

結婚式のお祝いもいよいよ終わりに近づいたころ、ある問題が起こりました。ブドウジュースが、もうなくなりそうだったのです。飲み物をきらしてしまうというのは、とても恥ずかしいことでした。けれどもマリヤは、待ちに待ったチャンスがやってきたと思いました。彼女は何をしましたか？

ヨハネ 2:3,4。

かんがえてみよう：イエスが母親に言ったことは、失礼ではないのですか？いいえ。当時は、それがかえって礼儀正しい言いかたでした。今の時代なら、おそらくこんな風に言うでしょう：「お母さん、どうして僕に助けを求めるのですか？まだ、僕が王になる時ではありませんよ」。しかしマリヤは、イエスに信頼しても大丈夫であるとわかっていました。彼女は、召使たちに何と言いましたか？5節。わたしたちは、いつでもイエス様に信頼してよいのですか？もちろんですね。

もくようび 木曜日

マリアは、イエスが奇跡を起こしてくれることを願っていましたが、彼女には、イエスなら必ずやってくれると信じる信仰がありました。イエスは、母親の信仰にこたえましたか？あたりを見回すと、大きな水がめが6本ありました。イエスは、召使いたちに何を願いましたか？ヨハネ 2:6,7。



花婿も、ブドウジュースがなくなりかけていたことを知りませんでした。この奇跡のジュースを飲んでみるまでは、料理がしらが何を言っているのか、さっぱりわかりませんでした。ジュースは、いったいどこから来たのでしょうか？花婿は、今すぐ知りたくてしかたがありません。

召使いたちは、イエスから水がめを水でいっぱいにするように頼まれたとき、ふしぎに思ったことでしょうか。ところが、次にイエスが言ったことに、ますます驚いてしまいました。8節。

水がめからコップに注いだ召使いたちは、まったく信じられませんでした。

料理がしらは、ブドウジュースが足りなくなったことを知りませんでした。召使いがもってきたジュースを味見すると、料理がしらはおどろきました。「いったいこれをどこからもってきたんだ？」とたずねました。今までに、これほどおいしいブドウジュースは飲んだことがありません。彼は急いで、花婿を呼びに行かせました。9節。

料理がしらは、「どうして1番よいジュースを、最後までとっておいたのですか？」とたずねました。「1番いいものは、最初に出すことになっているのをご存知らなかったのですか？」

10節。



かんが **考えてみよう:**これが、イエスが1番初めに行った奇跡でした。召使いたちは、みんなにこの話をしたくなったことでしょうか。わたしたちも、イエス様について、すばらしいことをいくつも知っていますが、どうやって彼のことを、他の人たちに伝えたらよいのでしょうか？

きんようび 金曜日

け **結** 婚式の祝いに来ていたみんなが、あの奇跡のブドウジュースを飲んで、そのすばらしさについて話していました。そしてすぐに、このジュースがどうやってできたかを、召使たちから聞いたのでし

た。しばらくの間は、話をするのに夢中で、この奇跡を行った人のことをすっかり忘れていました。ようやく奇跡をおこなった人のことを思い出した後、人々はけん命にイエスを探しました。ところが、イエスはしずかにその場を

去^さって、弟^{でし}子^したち^ちでさえ、そのこと^{こと}に
気^きがつか^{つか}ま^ませ^せん^んで^でした。

人^{ひと}々^とは弟^{でし}子^したち^ちの^ところ^こへ^へお^おし^しよ^よせ、彼^{かれ}
ら^らを^を取^とり^り囲^{かこ}み^こま^かした。弟^{でし}子^したち^ちに^にと^とつ^つて、
イエ^いス^すの^のこ^こと^とを^を話^{はな}す^す機^き会^{かい}は、こ^これ^れが^が初^{はじ}め^め
て^てで^でした。イエ^いス^すこ^こそ^そが、ご^ご自^じ分^{ぶん}の^の民^{たみ}を^を
救^{すく}う^うた^ため^めに^に神^{かみ}様^{さま}か^から^らつ^つか^かわ^わさ^され^れた^たお^おか^かた^た
で^であ^ある^ると、な^なぜ^ぜ自^じ分^{ぶん}た^たち^ちが^が信^{しん}じ^じて^てい^いる^るか^か
を^を話^{はな}す、チ^ちャ^あン^んス^すな^なの^ので^です。弟^{でし}子^したち^ちの^の
話^{はなし}を^を聞^きい^いて^てい^いた^た人^{ひと}た^たち^ちの^の多^{おほ}く^くが、そ^その^の話^{はなし}
は^{しん}じ^{じつ}で^であ^ある^ると^と感^{かん}じ^じ、心^{こころ}の^の中^{なか}に^に希^き望^{ぼう}が^がわ^わ
き^き始^{はじ}め^めて^てい^いま^ました。

も^もち^ちろ^ろん、こ^この^の奇^き跡^{せき}の^の知^しら^らせ^せは^はあ^あっ^っとい^い
う^う間^{あいだ}に^に広^{ひろ}ま^まり^りま^ました。そ^その^の知^しら^らせ^せは^はエル^{エル}
サ^サレ^レム^ムに^にま^まで^でと^とど^どき、中^{なか}に^には^はメ^メシ^シヤ^ヤに^につ^つい^い
て^ての^の預^{よげん}言^{ごん}を^をさ^さら^らに^にく^くわ^わし^しく^く勉^{べん}強^{きやう}す^する^るよ^よう^うに^に
な^なった^た人^{ひと}た^たち^ちも^もい^いま^ました。

かんが **考**えて^えみ^みよう^{よう}：^{この}最^{さい}初^{しよ}の^の奇^き跡^{せき}は、多^{おほ}く^く
の^の大^{たい}切^{せつ}な^なこ^こと^とを^を教^{おし}え^えて^てい^いま^ます。教^{きやう}訓^{くん}の^のい^い
く^くつ^つか^かを^をあ^あげ^げて^てみ^みま^ます。人^{ひと}助^{すけ}け^けを^を好^{この}ん^んだ^だ
イエ^いス^すは、楽^{たの}しい^い集^{あつ}まり^りな^など^どに^にも、喜^{よろこ}ん^んで^で
参^{さん}加^かし^しま^ました。言^{こと}葉^ばだ^だけ^けで^で奇^き跡^{せき}を^をお^おこ^こな^なう^う
こ^こと^とも^もで^でき^きま^まし^した^たが、あ^あえ^えて^て他^{ほか}の^の人^{ひと}た^たち^ちに^に
も^も手^て伝^{つだ}わ^わせ^せま^ました。召^{めし}使^{つか}いた^たち^ちは^は水^{みづ}が^がめ^め
を^を満^みた^たし^して、ジ^そー^そス^すを^を注^{そそ}ぎ^ぎ、イエ^いス^すの^のな^な
さ^さった^たこ^こと^とを^を人^{ひと}々^とに^に伝^{つた}え^えま^ました。イエ^いス^すの^の
つ^つく^くら^られた^たジ^じュ^{ゆん}ー^{すい}ス^{すい}は、純^{しん}粋^{せん}で^で新^{しん}鮮^{せん}で、ア^アル^ル
コ^コー^{ール}は^は入^{はい}っ^って^てい^いま^ませ^せん^んで^でした。ア^アル^ル
コ^コー^{ール}が^が体^{からだ}に^に悪^{わる}い^いの^のを^を知^しっ^って^てお^おら^られた^たか^か
ら^らで^です。こ^この^の奇^き跡^{せき}は、マ^マリ^リヤ^ヤと^と弟^{でし}子^したち^ちが^がイ^い
エ^いス^すを^を信^{しん}頼^{らい}す^する^るた^ため^めの^の助^{たす}け^けと^とな^なり^りま^ました。
そ^そし^して、わ^わた^たし^した^たち^ちが^がイ^いエ^いス^すを^を信^{しん}頼^{らい}し^しつ^つづ^づ
け^ける^る助^{たす}け^けに^にも^もな^なる^るの^ので^です。

まな もっと学ぼう！

★ヨハネ 1:35-51; 2:1-12

★各時代の希望 14-15章



ひかり はこ き 光を運ぶ木のいかだーその1

エイミー・シェラード編

それは6月のある美しい日のこと、
ジェームスとエレン・ホワイト、15
歳の息子のウィリーは、キャンプミーティングへと向かう途中でした。他に7名の人
もいっしょです。ウィリーと
他の子供たちは、うれしく
てわくわくしていました。きつ
と、すばらしい旅になるだ
ろう、と思っていました。彼らは、いつ
船乗り場に着くだろうかと、待ちきれない
気持ちでした。船に乗ったら、丸一日か
けてミシシッピー川を旅して、キャンプミ
ティングの会場へと向かうのです。

船乗り場に着くと、船はもうすぐ出航す
るところでした。みんな急いでタラップを
のぼりました。9時ちょうどに、船長が
汽笛をならしました。エンジンがかかり、
船の両側にある車輪が、「シュツ、シュツ、
ピシャツ、ピシャツ」と音をたてて回り始
めました。百人の乗客を乗せた船は、ゆっ
くりと波止場をはなれ、目的地へと向か
いました。ほとんどの乗客は甲板に残り、
船が川に沿ってスーッと流れて行くのをな
がめています。6月の気候と、川からの
ながめは最高でした。船の旅が好きなホ



ワイト夫人も、甲板に残っていました。で
も彼女は、イエス様から示されたことを書
かなくてははいけませんでした。景色を楽
しむのはここまでにして、しずかな場所を
乗組員に案内してもらい、そこで書く仕事
に残りの時間をついやすこ
とにしました。

ジェームス・ホワイトと
子供たちは、船のいちばん
前のほうに行きました。川
を探検する、開拓者たちの
まねをしていたのかもしれ
ません。すると、だれかが前の方を指さ
しました。「何かがこっちに向かって流れ
てくるぞ！」みんながそこをいっせいに見
ます。何かが水に浮いていますが、船で
はありません。近づいていくと、製材所で
切られたあとに、鎖でたがいにつながら
れた、大きな材木のいかだが見えました。
ちょうど男たちが、川の下流にある町々で
材木を売ろうと、それらを浮かべていると
ころでした。

乗客たちは互いに、「材木を町まで運
ぶには、もってこいの安上がりの方法だ
ね！」と感心しながら言いました。「ほら！
いかだの上には、食事を作って食べるた
めの小屋もあるよ！」

いかだが船に近づくと、いかだの上の
男たちが大声で何か叫びました。「なんで

もいから、字の書いてある紙をくれな
いか？」彼らはもう何日もいかだの上です
ごしていたので、何か読み物が欲し
たのです。

船の乗客たちは、急いでいくつかの
新聞をねじって、いかだの男たちめがけ
て力いっぱい投げました。いかだの男の
ひとりが川へ飛びこみ、水の上に落ちた
新聞を泳いでとりにいきました。「ありが
う！」と言ってから、新聞をかわかすた
めに、いかだの上に広げました。

それを見ていたジェームス・ホワイトに、
ある考えが浮かびました。「ウィリー！」彼
は息子を呼びます。「こっちへ来てくれ！」

(つづく)

だい しょう 第9章 みやきよ イエスの宮清め



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「あなたがたはわたしの安息日を守り、またわたしの聖所
を敬わなければならない。わたしは主である。」

レビ記 26:2

にちようび 日曜日

すてきな湖のそばで、休暇をすごしたことはありますか？イエスの弟子のふたり、アンデレとペテロはベツサイダの出身でしたが、今彼らが住んでいるのはカペナウムです。どちらの町も、ガラヤ湖と呼ばれる大きな湖のそばにありました。

カナでの結婚式のあと、イエスはしばらくの間、カペナウムに行きました。イエスといっしょにそこへ行ったのはだれでしたか？ヨハネ 2:12。

何週間も荒野ですごした後でしたので、イエスはカペナウムで家族や友人たちとのひと時を



楽しんだことでしょう。しかしすぐに、エルサレムへ行かなくてはなりませんでした。なぜですか？13節。

エルサレムまでは、150キロ以上も距離があったはずですが、そこへ行くには何日もかかりました。イエスは、過越しの祭りに向かう大勢の人たちの集団〔グループ〕に加わりました。彼は、ご自身についてまだ多くの人たちに話していなかったため、イエスがだれと歩いていようか、気にとめる人はひとりもいませんでした。人々は、バプテスマのヨハネや、ヨハネが語っていたメシヤについて話していたのかもしれませんが。

人々の話を聞いていたイエスは、彼ら

ががっかりすることになるのを知っていました。メシヤは、彼らが期待していたのとは、まるでちがうようすで来られるのです。

エルサレムに着いたイエスは、まず神殿に向かいました。

しかしそこで見たのは、信じられないような光景でした。神殿という場所は、やってくる人々がうやうやしく礼拝し、過越しの祭りのような特別な行事を祝うことのできる場所であるべきです。それなのに、目に入ってくる光景も、耳に入ってくる音も、まるで大勢の人で混みあった市場のようではありませんか。



そのような商売人たちを、祭司たちは神殿の庭に入れていたのです。

神殿の中庭がどんな様子だったか、想像できますか？犠牲のそなえものの値段があまりにも高すぎるので、売る人と買う人との間では、値段をめぐる言い争いがたえませんでし

かんが 考えてみよう：まさかあなたの教会は、さわがしい市場のようではないですね。神様を礼拝する場所で、わたしたちはどのようにふるまうべきですか？なぜ神様の家が、このようになってしまったのでしょうか？

た。また両替人たちがごまかしをしていることも、だれもが知っていました。鳥や動物たちはひっきりなしに鳴いていますし、お金がジャラジャラと大きな音をたてています。これらの物音は、騒がしいなどというものではありませんでした。ヨハネ 2:14。

げつようび 月曜日

毎年ユダヤ人たちは、神殿の管理を手助けするために、特別な献金をささげていました。まずふつうのお金を神殿に持って来て、そこで両替人たちに神殿用の特別なお金にかえてもらっていました。

過越しの祭りにやってきた人たちは、ほかに動物や鳥のささげものを持ってこなくてはなりません。しかしほとんどの人は、家が遠すぎて犠牲の動物を持ってくることができなかつたので、エルサレムに着いてから犠牲のささげものを買いました。両替人や犠牲にする生き物売る人たちは、とても高い代金を求めました。

イエスは、あたりを見回しました。そこにはお金持ちやふつうの人々もいれば、犠牲の供え物どころか、食べ物すら買うお金のない多くの貧しい人々もいます。しかも彼らは、犠牲をささげなければ神様は罪をゆるしてくださらない、と教えられていました。そこには、病気の大人や子供がいます。また目の見えない人たちや耳の聞こえない人たち、足の悪い人たちもいるのです。本当に、あわれな光景でした！ところが祭司たちは、彼らにあわれみを向けることはありません。何とかしなくては、とイエスは思いました。

かんが 考えてみよう：イエスは何をしようとしておられましたか？この大混乱の中で、いったいひとり人間が何かを変えることができるのでしょうか？

かようび 火曜日

天の父の家におられたイエスは、何を変えなくてはいけないかを知っておられました。彼は床にあったロープをいくつかひろいあげて、ムチを作りました。神殿の階段に立ったイエスは、けわしい顔をしていました。その目は、怒りに燃えています。だれかが指をさしたのでしょうか、ほかの人たちもイエスに目を向けました。彼らの目は、イエスの顔に釘づけになりました。だんだんと騒ぎがおさまっていきます。いつのまにか人々は、静けさのなかでイエスをじっと見つめていました。彼らは恐ろしくなりました。それからイエスは、ゆっくりと階段を下りてきます。彼がムチをふりあげ、言葉を発したとき、その声はまるで軍隊の指揮官のように大きくひびきわたりました。ヨハネ 2:16。

商売人たちに向かって行ったイエスは、だれかをたたいたわけではありませんでしたが、彼らはいっせいに逃げ出しました。欲張りな商売人たちは、すっかり恐くなってしまったのです。15節。

しかし、そこにいた全員が逃げたわけではありません。逃げ出したのは、神殿で悪いことをしていた人だけでした。貧しい人たちが傷ついた人たち、また本当に神様のことを愛している人たちは恐れませんでした。ふりかえってその人たちを見たイエスは、おだやかでやさしい顔をしていました。そして、彼らの一人ひとりを助け、いやしたのです。いやされた人た

ちが喜びにみたされて、神様をたたえる光景を、あなたは想像できますか？

神殿の外では、逃げ出してきた人たちが、やっと走るのをやめたところでした。祭司たちや役人たちは、互いに顔を見合わせました。どうして自分たちは、死にもぐるいで走っているんだ？いったいあの男は、何様のつもりで自分たちを神殿から追い出したのか？また何の権利があって、あんなことをしたのか？われにかえった彼らは、神殿にもどってみました。彼らが見たものは、先ほどとはまったくちがっていました。神殿に残った病人たちは全員いやされ、神様を賛美しているではありませんか。

この欲深い祭司たちや役人たちは、自分たちのしたことを恥じて、反省すべきでした。また、イエスが行われたおどろくべき奇跡を感謝し、いっしょに神様をほめたたえるべきでした。ところが、彼らはそうしませんでした。それどころか、憎しみとねたみにみたされて、「あなたの力と権威がどこからくるのか、証明しなさい」とイエスにつめよったのです。18節。

考えてみよう：イエスの弟子たちは、この一部始終を見て、あることを思い出しました。17節。この日イエスは、神殿のあるべき姿とそうでない姿とを、どのようにお示しになりましたか？あなたの教会が、すべての人にとって、もっと敬けんで祝福された場所となるために、あなたはどんなお手伝いができますか？

すいようび 水曜日

さいし たちとやくにん たち
祭は、しょうばいにん たち
しんでん お だ けんい
神殿から追い出す権威をもつ
ていことをしょうめい
していることを証明するよう
にイエスにせまりましたが、
かれ べらはイエスのこたえをりかい
理解しましたか？ヨハネ 2:18-21。



でし たちも、イエスのこたえ
のいみが、よくわかりませんでした。まさ
かメシヤが死ぬなどは、だれもかんが
えませんでした。ただイエスだけが、りかい
理解していました。

その日のひできごとをみていた人の中に、
ニコデモという名のな パリサイびとがいました。
かれは、サンヒドリンのぎいん 議員の中でもひ
じょうにたか 高いちい 地位の人でした。サンヒドリ
ンは、きまりをつく 作り、かれらのきまりにした
がっていない人に対し、どのようない 罰を
あた 与えるかをけつてい 決定するユダヤのぎかい 議会でした。
かれらはまた、きまりにさか 逆らうようにひとびと
をしむ 仕向けた者たちに、どのようない 罰を下すか
ということもき 決めていました。

ニコデモは、ただ 正しいひと 人でした。かれは、
バプテスマのヨハネのことを聞き、また
ひとびとがじぶん 自分たちのつみ 罪をこくはく 告白してバプテ
スマを受けたことをきいて、よろこ 喜んでいました。
しかし、かれ自身にはつみ 罪がないと思ってい
たので、バプテスマを受ける必要もない
かんが 考えていました。ニコデモは、じぶん
つねにちゆうい 注意ぶかく、すべてのき 決まりを守
ってきたとおも 思っていたのです。

あの日、しんでん 神殿で起こったひできごと 出来事を見た
ニコデモは、イエスのしたことがただ 正しいの
を知っていました。またひとびと 人々がいやされ

たのを見て、イエスにはかみさま 神様
のれい やど 霊が宿っていることがはっ
きりとわかりました。それで、
さいし 祭司たちややくにん 役人たちが、イエ
スがきせき 奇跡をおこしたりひとびと 人々と話
したりするのを、サンヒドリン
のけんい 権威でむり やりにでもやめ
させてほしいともと 求めたとき、ニ
コデモはかれらに、しんちょうに
こうどう 行動するようちゆうい 注意しました。ユ

ダヤ人たちがバビロンでほしゆう 捕囚になったの
は、かれらがかみさま 神様からのよげんしゃ 預言者をこぼ
ためだということも、かれは知っていました。
あるひと 人は、「もしイエスがよげんしゃ 預言者
だとしたら？」とかんが 考えました。ローマ人の
しはいか 支配下で、これまでよりもさらにわる
ことがおこるかもしれません。

よげん 預言をけんきゆう 研究し、イエスのことを見聞き
しているうちに、ニコデモは、イエスが
ほんもの 本物のメシヤなのかどうかについておも
めぐらすようになりました。けれどもイエ
スは、ひとびと 人々がきたい 期待しているようなメシヤと
は、まるでちがいます。ニコデモは、どう
にかしてイエスと話す方法を見つけなけ
ればならないと感じましたが、そのことを
だれにもし 知られたくありませんでした。

かんが 考えてみよう：あなたがニコデモだった
ら、どうしていたとおも 思いますか？

もくようび 木曜日

あ 晩ニコデモは、イエスがよる 夜をす
ごされるばしょ 場所を見つめました。そ
して、あるけいかく 計画をじっこう 実行したのです。かれは、

じぶん い じゅんび
自分が言うことも準備しました。ヨ
ハネ 3:1,2。

ニコデモの話^{はなし}を聞いたイエスは、なぜ彼^{かれ}が来たのかがわかりました。ニコデモに必要な^{ひつよう}ことが何であるかもわかりました。イエスは、時間^{じかん}をむだにしませんでした。おそらくイエスは、ニコデモのそば^{そば}にすわって彼の腕^{うで}にふれ、やさしいまなざし^{まなざし}でニコデモを見つめながらお話し^{はなし}なさったのでしょ。3節。

ニコデモは、ショック^うを受けました。もしかしてイエスは、ニコデモの何か^{なに}がまちがっていることを伝えようとしていたのでしょうか？2度も生まれる^うなんて、そんなことができるのでしょうか？彼^{かれ}にとってそれは、ばかげたこと^{おも}に思われました。4節。

イエスは、ニコデモ^いと争^{あらそ}うことはしませんでした。神様^{かみさま}の国^{くに}に入る^{はい}ことを選ぶ^{えら}ぶ人たちは皆、イエスにたより、イエスのことを信^{しん}じるからです。イエスに信頼^{しんらい}する人^{ひと}でも、まちがい^{おか}を犯^{おか}すかもしれません。しかし彼らは、イエスの助け^{たす}きによって、真心^{まごころ}から十戒^{じっかい}にしたがおうとして最善^{さいぜん}をつくします。彼らは、神様^{かみさま}がこのすばらしい律法^{りっぽう}をわたしたちにお与^{あた}え下さったのは、わたしたちをとて愛^{あい}しておられるからだ^しと知っているのです。また彼らは、サタンが神様^{かみさま}とイエスについて嘘^{うそ}をついていることも知^しっています。そして彼らは、自分^{じぶん}たちが神様^{かみさま}の国^{くに}に入る^{はい}ことができるのは、イエスの完全^{かんぜん}な服従^{ふくじゆう}につねにたよっているからだ^しということ^{けつ}を、決して忘^{わす}れないの



いっぼう
です。一方ニコデモは、自分自身^{じぶんじしん}の服従^{ふくじゆう}にたよっていました。5節。

この世界^{せかい}の人^{ひと}たちは皆、生まれつき^うサタンにしたがいたい性質^{せいしつ}があることを、イエスはご存知^{ぞんじ}でした。けれども、わたしたちがイエスのものとなることを選ぶ^{えら}ぶとき、わたしたちは彼^{かれ}に似^にた者^{もの}になることができます。そして聖霊^{せいれい}は、わた

したちがその選^{えら}びをするのを助^{たす}けてくださいます。わたしたちは、イエスに似^にた者^{もの}となるために学^{まな}んでいるのです。聖霊^{せいれい}の人間^{にんげん}への働^{はたら}きかけはだれにも見^みえませんが、人々^{ひとびと}は、わたしたちがイエスに似^にた者^{もの}に変わ^かっていくのを見^みることができま

す。
考えてみよう: ぶだん^よ良^{ひと}い人^みに見える人^{ひと}たちでも、イエス様^{さま}の完全^{かんぜん}な服従^{ふくじゆう}があつたからこそ、またそれがわたしたちに与^{あた}えられたからこそ、神様^{かみさま}のすばらしい国^{くに}に入^{はい}ることができるという事実^{じじつ}を知^しる必要^{ひつよう}がありますか？

きんようび 金曜日

— コデモは、自分^{じぶん}が神様^{かみさま}の国^{くに}に入^{はい}るにはまだ充分^{じゅうぶん}でないことが、信^{しん}じられませんでした。彼はなぜ、イエスにたよる必要^{ひつよう}があつたのですか？ヨハネ 3:9。

それからイエスは、荒野^{こうや}で恐^{おそ}ろしい毒^{どく}へビが人々^{ひとびと}をかんで死^しなせた出来事^{できごと}を、ニコデモに思^{おも}い起^{おこ}させました。モーセが真^{しん}ちゅうで作^{つく}ったへビをさおにかけると、それを見^みた人^{ひと}はみな助^{たす}かりました。けれ

ども、見ようとしなかった人たちは、みな死んでしまいました。

もちろん、へびに人を救う力があつたわけではありません。イエスの力が、人々を救つたのです。真ちゆうのへびは、イエスがどのようにして私たちのすべての罪を負い、十字架の上で死なれるのかを示していました。わたしたちが死ななくてもいいように、イエスは死のうとしておられたのです。わたしたちがイエスを信じてたよれば、サタンから救われることができます。サタンは死んで永遠に滅ぼされ、わたしたちは永遠に生きるのです。14-18節。

イエスの語る美しい言葉を聞いたニコデモでしたが、最初は受け入れることができませんでした。メシヤが、死のうとしておられるということだろうか？もし彼に信頼することを選ぶなら、これまで犯したすべての罪を、彼は何とかしてくださるのだろうか？昔のイスラエルが、真ちゆうのへびを見るときに、彼に信頼しなければならなかったように？

これまでニコデモは、今までの自分の服従が、自分を神の国に入るのにふさわしくしているのだと、いつでも思っていました。今彼は、心がゆれ始めました。聖霊が彼の心に、やさしく語りかけていました。そして彼は、声に耳をかたむけていました。その夜、家にもどつたニコデモは、自分がみことばを研究して考え、目を覚まして祈らなくてはならないことを知りました。彼は真心から、神様の国に入りたいと願つたのです。

考えてみよう：ヨハネ 3:16 をもういち

ど、声に出して読んでみましょう。それから、次の質問に答えて下さい。あなたは、『御子を信じる者がひとりも滅びないように』という言葉が好きですか？それは本当に、どんな人でも、という意味でしょうか？逆に、わたしがイエス様とイエス様の服従にたよらなければ、これまで極悪人として生きてきた人たちといっしょに『滅びて』しまうということですか？罪深すぎてイエス様が救えない人がいるでしょうか？良い行いをしたのでイエス様が救って下さった、と言えるほど、善良な人がいるでしょうか？どんな人であっても、イエス様の善

まな もっと学ぼう！

★ヨハネ 2:13-22; 3:1-21

★各時代の希望 16, 17章

に完全にたよらなくてはなりませんか？それともわたしたちは、他の人を見て、自分のほうが良い人間だと言えるでしょうか？



しんり ひかり はこ 真理の光を運んだいかだーその2

エイミー・シェラード編



た。「はい、お父さん」と、息をきらせながら言いました。

この時まで、ジェーム

10人のアドベンチスト信者は、他の乗客たちと共に、ミシシッピ川を移動する船でキャンプミーティングに向かっていました。ジェームスとエレン・ホワイト、ウィリーの3人も、そこにいました。材木のいかだは、ちょうど彼らの前を通り過ぎたところでした。そしてジェームス・ホワイトは、乗客たちが読み物をいかだの男たちにほうり投げているのを見て、ある考えが浮かびました。



ウィリーは呼ばれると、急いで父親のところへ行きました。ジェームスは、「ウィリー、いい考えがあるんだよ」と息子に言いました。「たぶん、これからも他のいかだがいくつもそばを通るはずだ。船室に読み物がおいてあるから、それを持てるだけもってきてくれないか。」ウィリーは、すぐに走って行きました。とりに行って間、ジェームスは、どうやって読み物をいかだに投げたらいいか、頭をしぼりました。

まもなくして、ウィリーがもどってきまし

スの作戦はできあがっていました。「ウィリー、調理場〔キッチン〕へ行って、コックさんに、ひもをもらえないかたのんでみてくれ。それから機関室へ行って、炭をいくつかもらってきてほしいんだ。」

ウィリーは、大急ぎでひもと炭をもらいに行き、すぐにもどってきました。いったいお父さんは何をするつもりだろう？ウィリーは知りたくて、一心に見守っていました。ジェームスは、1個の炭を伝道用の読み物で包み、読み物と炭がはずれないように、ひもで固くしばりました。しばらくして、紙の束を投げる用意ができました。すごくいい考えだ、とウィリーはおもいました。

そして、これがうまくいったのです。別のいかだが彼らの船の横を通った時、ジェームスの投げた紙の束すべてが、いかだの上に見事に着地したのを人々は見ていました。いかだの男たちが読み物を読んでいるのが、船からも見えます。



日が沈むころ、アド

ベンチスト信者たちは船の前のほうに集まって、イエス様の再臨の賛美歌を歌いました。すると「アンコール!アンコール!」と、うしろから声が聞こえます。ふり返って見ると、たくさんの乗客が聞いていました。

ひとりのビジネスマンが、ホワイト長老に話しかけました。「あなたの奥様は演説家だと聞いたのですが、よければ今晚、わたしたちのためにお話して下さいませんか?奥様のお話を、ぜひお聞きしたいのです。」

そこでエレンは、乗客たちの集まった船内の大きな部屋で、お話をしました。彼女は、自然がどのように神様の愛をあらわしているかを乗客たちに話して聞かせ、彼らは、彼女に深く感謝しました。

9時になりました。寝る時間です。寝る前に、安息日を守る人たちは、この日多くの人たちにイエス様の愛を伝えられたことを神様に感謝しました。

とつぜん、真夜中に何かがつぶつかる大きな音と、けずられたような音で、みんなは目をさました。それから、あたりはふたたびしーんとなりました。エンジンの「チャツ、チャツ、チャツ」という音と、船を動かす車輪の「プシュ、プシュ、プシュ」という音だけが聞こえます。

朝になると、乗客たちは、何があったのかを知りたがりました。船長の話によれば、川を曲がるところで、とつぜん材木のいかだにぶつかり、それをつないでいた鎖をこわしてしまったとのことでした。材木が何本か、船の車輪の部分にひっか

かっています。乗客たちは、いかだの人たちが無事であるようにと願いました。

その日、10人のアドベンチスト信者は、船をおりてキャンプミーティングの場所へ行きました。船旅の間、イエス様がずっと共におられたことを、決して忘れませんでした。そして、真理の光をいかだの男たちに伝えたことと、同じように船の乗客たちにもその光を輝かせて下さったイエス様に感謝しました。

(おわり)

Adapted from Campfire Stories by
Arthur L. White

だい しょう 第 10 章

し いた 死に至るまで



あんしょうせいく 暗唱聖句

「死に至るまで忠実であれ。
そうすれば、いのちの冠を与えよう。」
黙示録 2:10

にちようび 日曜日

結婚式での奇跡や、両替人や
結 商売人たちを神殿から追い出
した話を聞いて、イエスに会って話を聞
きたいという人はますます増えていきまし
た。そして、イエスの話を聞きに集まった
群衆は、バプテスマのヨハ
ネの群衆よりも多くなっ
ていました。

ヨハネはそのことを喜
んでいましたが、彼の
弟子たちはねたんでい
ました。イエス自身はバ
プテスマをさずけない
で、弟子たちがバプテ
スマをさずけています。ま
もなくヨハネの弟子たち



とイエスの弟子たちとの間で、バプテスマをさずけるときに何を語るべきかをめぐって、言い争いが始まりました。ヨハネ 3:25,26。

ヨハネは弟子たちに、彼らの考えがまちがっていると言いました。自分の働きは、結婚式の手伝いをするようなものだと、ヨハネは言いました。花婿のそばに立つ人のことを「ベストマン」と呼び、ベストマンは友人が結婚することをとても喜びます。ヨハネは、イエスのことをそのように思っていました。彼は、人々がイエスにしたがって行くのを見て、わくわくしていました。29 節。

ヨハネが生まれる前、
天使はヨハネの両親に、
彼がおとなになってから
行かうすばらしい働きに
ついて告げていました。
その働きとは、イエス
のおいでに人々を備え

させる、というものでした。今やヨハネの働きは、イエスご自身が働きを始められる前ほど重要ではなくなっていました。今は、イエスをじかに知る時でした。ヨハネには、ほんの少しのねたみすらありませんでした。30節。

ヨハネは、イエスが神様の子で、わたしたちを救うためにこの世界へ来られたことを知っていました。一人ひとりが自分で選ばなくてはならないことも、彼は知っていました。人々はイエスを信じるでしょうか？それとも、これまでと同じ生き方をつづけるのでしょうか？人々がイエスを選ぶ準備ができるように、ヨハネはできることはすべてやりました。

考えてみよう：ヨハネは弟子たちに、良い模範を与えていましたか？あなたよりも友だちのほうが人からほめられているのを見ると、ついねたんでしまいませんか？

げつようび 月曜日

ヨハネの弟子とイエスの弟子との間に争いを起こさせようと、サタンが働いているのを、イエスは知っていました。そこで、弟子たちといっしょに別のところへ行くのが一番よいと考えました。

また、ヨハネの働きが終わりに近づいていることと、神様の救いの計画をサタンがつぶそうと必死になっていることも知っていました。ヨハネ 4:1-3。

ユダヤの指導者のなかには、ヨハネを嫌っている人たちもいましたが、とくに、ひとりの女が彼をひじょうに憎み、殺した

いとおもっていました。その女とは、ヘロデ王の妻、ヘロデヤでした。もともと彼女は、ヘロデの兄弟ピリポの妻でしたが、夫を裏切ってヘロデと結婚したのでした。ヨハネは、それは正しくないことだとヘロデに言いました。ヘロデ自身も、ヨハネが正しいとわかっていました。聖霊が心に語りかけると、彼は自分のしてしまったことを正そうとさえしました。ところがヘロデヤが、それをゆるしませんでした。今や彼女は、ヨハネをととも憎んで、殺したいと考えていました。そして、憎しみに燃えた妻を喜ばせるためだけに、ヘロデはヨハネを牢屋に入れてしまったのでした。マルコ 6:17-20。

牢屋の中のくらしは、ヨハネにとってたいへんつらいものでした。それまでは、毎日のほとんどの時間を外で過ごし、活発に動きまわることになっていました。ところが今は、くる日も来る日も、暗くさびしい牢屋ですわっているしかありませんでした。弟子たちの訪問がゆるされたときは、さぞかしうれしかったことでしょう。

ヨハネの弟子たちがヨハネをたずねたとき、彼らはイエスの驚くべき数々の働きについて話しました。それを聞いたヨハネは、たいそう喜びました。と同時に、イエスは自分のことを忘れてしまったのだろうか、という思いにおそわれました。なぜイエスは、ヨハネを牢屋から出してくださらないのでしょうか？

考えてみよう：サタンは、イエスがヨハネを愛しておられることをヨハネに疑わせようと、誘惑していましたか？何か悪いこ

とが起きるとついで、イエスがわたしたちのことを気にかけておられるかどうか、わからなくなってしまいますか？

かようび 火曜日

イエスがこの世界に来られた理由は、ヨハネと弟子たちですら、正しく理解していませんでした。彼らは、預言者たちの告げたふたつの異なる「時」をいっしょにしてしまっていました。

最初の「時」というのは、イエスがメシヤとして来られる時です。彼は人間の赤ん坊として生涯を始められました。また人として天の父なる神様にたより、完全な生涯をおくろうとしておられました。それは、わたしたちが彼の助けによって、彼の模範にならうようになるためでした。こうして、神様の律法を守ることができる人間などひとりもないというサタンの主張がまちがっていることを、イエスは証明するつもりでした。

もしわたしたちがイエスを選ぶなら、彼の罪のない完全な生涯が、わたしたちの不完全な生き方の代わりとなります。そして、わたしたちが死ななくてもいいように、彼が身代わりとなって死んでくださるので、イエスに信頼し、したがうとき、わたしたちは彼の国に入る者となることを選んでいるのです。

預言者が告げた2度目の「時」というのは、この世界の終わりにイエスがもどってこられる時のことです。その時、イエス

は大いなる王の王として、わたしたちをむかえ、彼と永遠に一緒にいることができるようにして下さいます。この世界の最後に、サタンと罪は永遠に消し去られます。そしてわたしたちのこの世界は、清く、新しく造られるのです。

これらふたつの「時」をいっしょにして考えてしまったために、すべてが期待はずれに思われたのでした。信仰深いヨハネと弟子たちですら、そのことを悩んでいました。イエスが神様の子であることを、ヨハネは知っていました。しかしそれなら、どうしてローマ人たちを追い出さないのでしょうか？また、なぜ人々がメシヤに期待していることをして下さらないのでしょうか？ヨハネは自分の考えていることを弟子たちには話さず、代わりに弟子のふたりをイエスのもとに行かせて、イエス自身のことについてたずねさせました。ルカ 7:19-23。

ふたりの弟子はすぐに、イエスがメシヤであることを知りました。そのことをヨハネに告げると、かれも理解しました。それ以来ヨハネは、どんなことがあってもイエスに信頼することにしたのです。

考えてみよう：イエスがふたたび来られることについて、今の時代の人々が持っているまちがった考えは何ですか？

すいようび 水曜日

ロデの妻、ヘロデヤが待ちわびていた機会がめぐってくるまで、どれだけの期間ヨハネが牢屋に入れられていたかは、だれにもわかりません。その

きかい 機会は、へろでのたんじょうび
パーティーで、娘のサロメ
がおどったあとにやってき
ました。酒のちからも味方し
ました。マルコ 6:21-23。

そうぞう 想像してみてください
い!へろでは彼女に、国
の半分までならあげると
言ったのです。サロメは
ははおや 母親のもとへ急いで行き、
なにをねが お願いしたらいい
かしら?とたずねました。
ははおや 母親はすぐに、願うべき
ものを思いつきました。「バプテスマのヨ
ハネのくびがほしいと言いなさい!」サロメ
はびっくりしました。恐ろしいものをお願い
することになってしまいました。しかし、
へろでのけついは 決意は変わりませんでした。そ
こでサロメはえんかい 宴会へもどり、ぞっとするよ
うなねが お願いをしたのでした。24,25 節。

へろでのおう きやく 王と客たちも、大いにおどろ
きました。サロメのねが 願いは、ははおや 母親の入れ知恵に
よるものだということが、へろではわかり
ました。そんなことをしてはいけない、
とだれかがいってくれないだろうか、へ
ろではどんなにねが 願ったことでしょう。しか
し、だれもこえ 声をあげません。へろではそ
れでもまちました。でも、だれもくち
きません。へろではこま 困ってしまいました。
きやく まえ 客の前で自分のやくそく 約束を
かえるほどのゆうき 勇気
もありませんでした。その上、へろでも客
たちもさけ よ 酒に酔っていました。とうとう彼は、
めいれい 命令を下し、ヨハネのくび 首をもつて来させま
した。26-28 節。



さけ 酒のために、かみさま 神様の
いだい 偉大でちゆうじつ 忠実なよげんしゃ 預言者が、
いのち うしな 命を失いました。しかし、
ほんとう 本当の意味でうしな 失われた
のは、へろでのほうでした。
ヨハネは、イエスが
メシヤであるとこころ 心から信
じ、しょうがい 生涯を終えるその時
までイエスにちゆうじつ 忠実だった
のです。のちにへろでは、
イエスのことを聞いてこわ
くなってしまいました。そ
れは、イエスが死からよ

みがえったヨハネにちがいないと思
いこんだからでした。また、ヨハネを打ち首に
してしまったことについて、かみさま 神様から罰を
うけることもおそ 恐れていました。14-16 節。

かんが 考えてみよう: サタンはヨハネをころ 殺す
ほうほう 方法を見つけました。しかしいつの日か、
ヨハネはよみがえってえいえん 永遠に生きることが
できます。いまでもサタンは、さけ 酒を使って、
ひとびと 人々を傷つけたり、ころ 殺したりしていますか?
さけ 酒によって、どんなもんたい 問題が引き起こされま
すか?

もくようび 木曜日

ガリラヤにもどったイエスは、ふるさと
のまち 町ナザレのちか 近くをとおりすぎま
した。ところが、そこにたちよ 立ち寄ることはあ
りませんでした。ナザレのひとびと 人々が、いまでも
イエスのことをただのたいく 大工の息子だと思っ
ていたからでした。ヨハネ 4:44。

イエスはカナの町へ向かいました。結婚式で水をぶどうジュースに変えた、あの町です。そこには過越しの祭りからもどった人たちがいて、イエスが神殿の庭から商売人たちを追出したあとで、残った貧しい人や病気の人に行った、おどろくべき奇跡の数々を人々に話して聞かせました。45節。

カナから30キロほど離れたカペナウムに、王様に仕えるユダヤ人の貴族が住んでいました。その人の息子が、重い病気にかかっていた。医者はできるかぎり手をつくしましたが、もう命が長くないことは明らかでした。イエスがカナにおられることを知ったこの貴族は、すぐに彼をたずねようと思い立ちました。もしかしたら、イエスは自分の息子をいやしてくださるかもしれない、と考えたのでした。

カナに着いたこの貴族は、イエスのまわりをとり囲んでいる群衆を見つけました。彼はすぐに、人ごみをかきわけて進みました。ところがイエスを見たとき、人違いかと思っしまいました。ふつうの人のかっこうをしたこの男が、まさか自分を助けることはできないだろう、と思ったのでした。それでも彼は、とにかくお願いしてみることにしました。もし息子をいやしてくれたら、イエスを信じるつもりでした。

どうか自分の家に来て、息子をいやしてほしいという貴族の話を、イエスはだまって聞いていました。



46,47 節。

この貴族は、イエスがすでに自分の息子のことをすべてご存知なのを知りませんでした。また、彼の心にある大きな疑問についてもイエスがご存知であることを、気づいていませんでした。さて、イエスはどんなさるでしょうか？

考えてみよう：あなたがこの貴族だったとしたら、イエスを初めて見たとき、同じように感じたと思いますか？見かけで人のことを判断するのは、正しいと思いますか？

きんようび 金曜日

この貴族は、息子のために奇跡を必要としていました。けれども、本当は彼自身のほうが、もっと大きな奇跡を必要としていたのです。彼は、息子がいやされてもいやさなくてもイエスを信じ、その王国に入る選びをする必要がありました。イエスは、彼になんと仰いましたか？ヨハネ 4:8。

貴族はすぐに、イエスが彼の心を見ぬいておられることに気づきました。



この方こそ、本当のメシヤにちがいありません。イエスにいやす力があることを自分が信じなかったために、息子がいやされなかったとしたら？そこで彼は、必死になってイエスに助けを求めました。今になって、イエスにいやす力があることが分かったのです。49節。

次にイエスが語った言葉を聞いて、彼はどうか感じたとお思いますか？50節。

今やこの貴族は、イエスを真心から信じていることをあらわしました。彼は、息子がいやされることがわかりました。イエスがそうおっしゃったのですから。この時のかれは、次の朝まで家に帰るのを待とうとさえ思っていました。

そのころカペナウムでは、この貴族の家族が、今にも息が絶えそうな男の子を見守っていました。とつぜん、男の子のようすが変わりました。目をぱっちり開けています。ひじょうに高かった熱が下がって、はだにはうるおいがでてきています。すべてが完全に元どおりになっています。家族の人たちは、信じられない気持ちでした。あんなに悪かったのに、これほどよくなるとは！すぐさま貴族につかいを送って、息子がいやされたことを伝えさせました。つかいの人がこの貴族に会ったのは、翌朝のことでした。51節。

家族の人たちの笑顔を想像できるでしょうか？男の子がいやされたときイエスが語った時間と、彼が実際にいやされたのを家族が見ていた時間とを比べると、どうでしたか？みんながびっくりして、神様をほめたたえたことでしょう。

もっとまな学ぼう！

★マルコ 6:14-29； ヨハネ

4:46-54

★各時代の希望 20章, 22章

考えてみよう：今週学んだそれぞれの物語では、だれが信仰をあらわしましたか？あなたも、イエスに信頼することを日々学んでいますか？



おも だ
思い出せなかったエレンーその1

エイミー・シェラード編

エレン・ホワイ
トは、ニュー
ヨーク州のある町で
開かれています。いくつ
かの集會に出席して
いました。ある日、
集會の後で部屋にもどった彼女は、ひど
く疲れて気分が悪くなっていました。その
晩、自分の家のベッドで休むことができた
らどんなにいいだろう、とエレンは思いま
した。しかしその週末、彼女は話をする
人のひとりで、彼女の話聞くために、は
るばる遠くからやってきた人たちをがっかり
させたくはありませんでした。どうにかし
て、もちこたえなくてははいけないと思いま
した。

エレンはいすのそばにひざまずいて、
そのことをイエス様に打ち明けようとし
ました。ところが、最初の言葉を言う前
に、やわらかな、銀色の光が彼女を包み
ました。彼女の疲れと気分の悪さはすっ
かりなくなり、イエス様がいやして下さっ
たことがわかりました。それからイエス様



Little Folk Visuals

は、彼女にひとつの幻をお与えになりまし
た。幻の中では、教会のえらい人たちが
ある部屋に集まり、教会のいろいろな読
み物について話をしていました。彼らは、
読み物にのせたい
記事と、のせたくない
記事を決めようと
していました。意見
が一致しなかったの
で、彼らは何時間も
話し合い、時には言
い争っていました。

つぎ ひ むすこ
次の日、エレンは息子ウィリーの、こ
の幻のことを話そうとしたのですが、一
番大事どころが思い出せません。もうい
ちど話そうしてみましたが、やはり思い
出すことができませんでした。

ニューヨークでの集會のあと、エレンは、
ミシガン州のバトルクリークにある自宅へ
帰りました。数か月後に開かれる予定の
世界總會を前に、すべきことが山のよ
うにありました。そこで話す3つの説教の
中で、その幻について語り始めましたが、
毎回、一番大事どころになると、それが
何だったのかが思い出せません。「このこ
とについては、あとでくわしくお話ししま
す」と集まった人たちに言ってから、説教
をつづけました。

せかいそうかい きかんちゆう あんそくにち ご ご
世界総会の期間中、安息日の午後に、
アドベンチスト教会の読み物を印刷する
ひと かいぎ よ もの いんさつ
人たちの会議がありました。集まった人の
ひとりが、「ドアにかぎをかけて、読み物
なにをのせるべきか意見が一致するまで
は、会議をつづけましょう」と言いました。

かいぎ お つぎ ひ
この会議はなかなか終わらず、次の日
あ かた じ
の明け方3時ごろまでつづきました。しか
し、それでも彼らの意見は一致しませんでした。

にちようび あさはや
エレン・ホワイトは、日曜日の朝早くの
しゅうかい い
集会には行かないつもりでした。ところが、
むすこ と いえ
息子のウィリーがエレンの泊まっている家
とお かのじよ へ や あ
を通ると、彼女の部屋に明かりがついて
いるのが見えました。「お母さんは、朝早
く かい い
くの集会には行かないって言ってたはず
だけど」と思ったウィリーは、いっしょに
ある ゆうじん なに
歩いていた友人に「何かあったのか、ちよっ
と行ってみてる」と言いました。

いは おや がいしゆつよう
ウィリーが行ってみると、母親が外出用
ふく き ぼうし
の服を着て、帽子をかぶっています。
かのじよ しゅうかい しゆつせき
彼女は、集会に出席するしたくをすっかり
ととのえたところでした。「どうして行くこ
とにしたんですか？」と、ウィリーはたず
ねました。

(つづく)

だいしょう 第11章

こばぬし 拒まれたいやし主



あんしょうせいく 暗唱聖句

「安息日に良いことをするのは、正しいことである。」
マタイ 12:12

にちようび 日曜日

イエスはエルサレムにもどって、特別な祭りに参加していました。その日は安息日で、イエスはひとりで歩いていました。神様の聖なる日を正しく守る方法を、どうやって人々に教えようかと考えていたのかもしれませんが、安息日を守ることに、あまりにもたくさんの厳しくて愚かなきまりがつくられていたのです。それらのすべてに従うことが、ひじょうにむずかしくなっていました。ほとんどの人が、安息日のほんとうの意味を見失ってしま



した。

それからイエスは、「ベテスダの池」と呼ばれるところで立ち止まりました。池のまわりには屋根でおおわれた場所があって、待っている人々が、かげで暑さをしのぐことができました。そこではもちろん、雨やどりをすることもできました。

この池に群がった人たちは、なんのためにやってきたのでしょうか？また、何を待っていたのでしょうか？ヨハネ 5:2-4。

そこに集まっていた人はみな、自分が一番先に池に入りたいと思っていたはずです。水面が波たつと、みんながわれ先に池の中へ入ろうとしました。とうぜんのことながら、一番強い人が最初に池にたどりつきます。そのほかの人たちは、お押されたり踏まれたりしてけがをし、死人が出ることもありました。

この群衆を見たイエス

は、みんなを治してあげたいと願いました。しかし、それには問題がありました。ユダヤ教のえらい人たちは、安息日に病人をいやすことは罪だと考えていたのです。イエスご自身は、その考えが完全にまちがっていることを知っていました。

これらのあわれな病人たちを見まわしたイエスは、ほかのだれよりも病気が重くて動けないひとりの男に気づきました。この人はとても弱っていたため、自分で水に入ることはできませんでした。イエスが彼のところへ行くと、男がイエスを見上げました。「なおりたいのですか?」と、イエスはたずねました。5,6節。

かんが **考えてみよう:** この男は、何年のあいだ動けない状態でしたか? あなたがもしその男だったら、知らない人にそんな質問をされて、どんな気持ちになったと思いますか?

げつようび 月曜日

テスタの池で、イエスがこの病気の男に話しかけたとき、ほんの一瞬でしたが、彼はかすかな望みを感じました。しかし、すぐに顔をそむけました。彼はイエスに何と言いましたか? ヨハネ 5:7。

この男は、次にイエスが言った言葉におどろいたはずです。8節。

ここで少しだけ、イエスがこの動けない男に話し



かけたとき、どういうことが起こり得たかを考えてみましょう。男は「でも、そんなこと無理です」と言うこともできたはずで。そして、それはもっともなことでした。自分の力では、イエスの言葉にしたがうのは無理でした。イエスにその力があることを信じる決心を、しなくてはなりません。

また、信じる決心をしたときも、ただそこに寝たままイエスが起こしてくれるのを待つことだってできたはずで。しかし、自分の体が動かないことを知っていたのにもかかわらず、彼はただちに体を動かそうと努力しました。そして、努力をしたときにはじめて、イエスが与えた力によって体が動いたのでした。なんとすばらしいことでしょう!

今や、この男はすっかりよくなりました。どれほどうれしかったことでしょう! 彼は、イエスからいやしてもらうのに、自分がふさわしい者ではないことを知っていました。自分自身のまちがった生きかたが原因で病気になったのですが、それでもイエスはいやしてくださいました。彼は、

すばやく敷物と毛布をたたんで持ちあげ、感謝を言おうとふり返りましたが、イエスはすでに群衆にまぎれて、見えなくなっていました。

かんが **考えてみよう:** この男をいやして下さったように、イエスはわたしたちを罪からもいやして下さるこ

とを知っていましたか？わたしたちは、自分の力では罪を犯すのをやめることも、自分自身を変えることもできません。しかし、わたしたちが変わることを選べ、助けて下さるイエスの力に信頼して最善をつくすならば、変わることができ、イエスにますます似る者になっていくのです。そして、罪を犯さなくてもよくなるのです。もしまちがいをしてしまったとしても、イエスは喜んでゆるして下さい、わたしたちが新しくスタートできるように助けてくださいます。



パリサイ人たちは、だれがこの男を治したのかは、もう分かっていました。このような力を持っているのは、あの人物しかいません。それがイエスだと、わかっているのです。そしてこのことが、彼らをさらに怒らせたのでした。イエスは、彼らの安息日のきまりのうち、2つを破っていま

す。まずイエスは、安息日にこの男をいやしました。つぎにイエスは、男に寝床を運ぶように言いつけました。彼らはどうにかして、イエスのしていることをやめさせる方法を見つけなくてはいけないと思いました。

かようび 火曜日

ベテスダの池でイエスにいやされた幸福な男は、自分の敷物と毛布をもち、自分の足でそこを去っていきました。男は、大声で神様をほめたたえずにはいられませんでした。パリサイ人たちに会った彼は、自分の身に起こったことを話したくてたまりませんでした。

ところがパリサイ人たちは、この男がいやされたことを喜ぶどころか、眉をひそめました。彼らは男に、その奇跡について最後まで話すことさえゆるしませんでした。

ヨハネ 5:9,10。

この男はあまりにもうれしくて、その日が安息日だということを忘れていました。そこで彼は、なぜ自分の寝床を運んでいるのかを説明しようと思いました。11-13節。

感謝をあらわそうと、いやされた男はさげものを持って神殿をおとずれました。そこでイエスを見つけたとき、どれだけ喜んだかが想像できるでしょう。イエスはこの男に、やさしく、もうこれ以上罪を犯さないようにと警告しました。14節。

この男は、パリサイ人たちがイエスを嫌っていることを知らなかったので、このようなすばらしい奇跡を起こしたのがだれなのか、彼らも知りたがっているものとおもってしまったのでした。15節。

イエスはすでに、安息日にだれかをいやしたことで、教会の指導者たちが怒っていることを知っていました。しかしイエスは、神が聖なる日をどのように守ってほしいかを人々に示さなくてはならないことも知っていました。本当に正しい安息日

の守りかたは、教会で人々が教えられて
いるような守りかたではありません。ユダ
ヤ教の指導者たちがイエスをどう思ってい
るか、イエスは分かっていたか？ 16
節。

考えてみよう：サタンは今でも、安息日
がどんなに素晴らしい日であるかというこ
とや、また、イエスがわたしたちに望んで
おられる安息日の守り方を、わたしたちに
理解させたくないと思っ
ていますか？あなた
は、安息日のどんなところが好きですか？
またどうい
うところが、あまり好きではあり
ませんか？

すいようび 水曜日

イエスは人間がつくり出した安息日
のきまりを破りましたが、それら
は、神様が人に与えたものではありません
でした。ユダヤ教の指導者たちは、イエ
スを逮捕してサンヒドリンにつれて行くた
めの理由ができたと思
いました。サンヒド
リンにつれていかれるということは、今の
時代で言うと、裁判にかけられるというこ
とです。そこで罰金を支払うように命じら
れるか、刑務所に入れられるか、または
死刑の判決が言いわたされることになるの
です。イエスは、安息日を破ったという罪
で訴えられていて、それはとても重大なこ
とでした。ヨハネ 5:16。

神がわたしたちのために働くことをやめ
ることはなく、たとえ安息日であっても働
きつづけておられることを、イエスがパリ
サイ人たちに思い出させたとき、彼は神

を父と呼びました。17,18 節。

それは、イエスが自分自身を神の子と
呼んでいるのと同じことでした。それが
真実であることを、パリサイ人たちは認め
ようとしませんでした。けれどもイエスは、
天の神のことを「父」と呼びつづけました。
彼は、人として自分は完全に父なる神に
たよりつづけていることを、パリサイ人た
ちにわからせようとしたのでした。30 節。

神の言葉を讀んでいたにもかかわらず、
パリサイ人たちは、みことばを心に受け入
れようとしないと、イエスは言いました。
彼らの讀んでいたみことばに、イエスがメ
シヤであることが示されていたからです。
彼らが長いあいだ待ち望んでいたお方が、
このイエスであるということ、彼らは信
じたくありませんでした。イエスだけが、
彼らをサタンから解放して、永遠の命をお
与えになるお方であるにもかかわらず、彼
らはローマ人から解放されることだけを望
んでいたのです。38-40 節。

ユダヤ教の指導者たちは、イエスの
言っていることが真実だったので、彼と
論争することはできませんでしたが、彼ら
はもう、心を決めてしまっていました。な
にがなんでも、イエスをメシヤとして受け
入れないことを。彼らは今でもまだ、だ
れかが自分たちをローマ人から解放してく
れることを期待していました。

イエスを拒むことは、すなわちサタンの
奴隷になることだということを、彼らは知
りませんでした。イエスは彼らを愛してい
ましたし、また愛することを決してやめま
せませんでした。しかしそのお返しとして、彼

らがイエスのことを愛するようには、強制なさいませんでした。イエスを愛するかどうかは、一人ひとりが自分で選ばなくてはいけないのです。

かんが **考えてみよう**：イエスと言争ったパリサイ人のような人たちは、今の時代にもたくさんいますか？彼らは聖書を信じると言いますが、自分たちのしているまちがったことを変えたくはないのです。

もくようび 木曜日

あい の神や十戒について教えるイエスの話に、多くの人が熱心にかたむけるのを見て、イエスは感激しました。彼らの多くが、最後には、イエスを救い主として信じるようになるのを、彼は知っていたのです。ところが、彼にとって特別なある場所では、多くの人がイエスを信じるのを拒みました。イエスがメシヤであるはずはないと、彼らは考えたのでした。そしてその場所とは、イエスの故郷であるナザレでした。

ナザレの人々は、イエスが特別であることは分かっていました。イエスが行った



数々の奇跡の話も聞いていました。しかしだからといって、イエスはどうして自分を神の子だと考えるのだろうか？それは愚かなこと

だ、と彼らは思いました。ナザレの人々は、イエスのことを何年も見て知っています。イエスが教師であることは知っていましたが、メシヤではあるわけがない。かれは、ヨセフとマリヤの子なのだから、とっていました。

イエスがナザレの家をおとずれたとき、町の人々は皆、うきうきしました。もしかしたら、何か奇跡を起こしてくれるかもしれません。安息日に、イエスが家族とユダヤの会堂へ行くと、人々はしきりに、彼を見えています。そしてイエスもまた彼らを見ました。みんな知っている人たちです。イエスは彼らと一っしょに育ちました。そして彼らのことを愛しておられました。

イエスが教師で、訪問客でもあったため、長老は彼に聖書を読むようお願いしました。**ルカ 4:16-19**。

かんが **考えてみよう**：なんと美しいみことばでしょう。この聖句が、メシヤのことを指しているのを人々は知っていましたか？このみことばは、イエスがすでになさっていることについて語っていました。

きんようび 金曜日

ナザレの会堂で、安息日にイエスが美しいイザヤ書のみことばを読み終えると、人々は「アーメン」と言わずにはいられませんでした。**ルカ 4:20,22**。ところが、次にイエスが語ったことが、すべてを変えてしまいました。**21 節**。

しばらくのあいだ、彼らはイエスの朗読した預言のことを考えていました。すると

とつぜん、イザヤが貧しい人々、囚人、盲人、について語っていることに気づきました。つまりイエスは、自分たちを貧乏人、囚人、盲人よばわりしているのではないかと、そして彼が、自分たちを助けるために神からつかわされた者だと言っている。いったいあの男は、自分を何様だと思っているのだ？

イエスは、彼らの心の動きを正確に知っていました。そして、神の民は昔から、預言者の言葉に耳をかたむけなかったことを思い起こさせました。たしかに、神の民が神に信頼してしたがうことを選ぶときだけに与えられるはずの祝福が、異教の民に与えられたことがありました。さらにイエスは、エリヤを助けたやもめや、ライ〔ハンセン〕病をいやされたナアマンのことを思い起こさせました。23-27 節。

すると、彼らはとつぜん怒りだしました。神はご自分の民よりも、異教の民を祝福なさったと、イエスが言ったのです。それは、彼らのことを異教の民よりも悪いと言っているようなものです。28 節。

ほんの短いあいだに、彼らはサタンに心を支配させることをゆるしました。ある者は飛び上がって、イエスを怒鳴りつけ



ています。ほかの私たちは、イエスをつかんでドアから押し出しました。「こいつを

崖から突き落としてしまえ！」とだれかが叫ぶと、みんながイエスをつれて、崖のほうに向かっていきました。ところがとつぜん、イエスの姿は見えなくなりました。29,30 節。

考えてみよう：神が天使をおくって、イエスを守られたのでした。まだ死ぬ時ではなかったのです。イエスは、これらの人々を愛するのをやめたでしょうか？いいえ。しかし彼らは、イエスをメシヤとして信じようとしませんでした。なんて悲しいことで

まな
もっと学ぼう！

★ヨハネ 5 章； ルカ 4:16-30
★各時代の希望 21, 24 章

しょう！



おも だ 思い出せなかったエレンーその2

エイミー・シェラード編

イエス様はエレンに、とても重要な幻をお与えになりましたが、それを他の人に言おうとすると、大事な部分が思い出せなくなりました。何か月かたって、彼女は教会の指導者たちと会っていました。

「お母さん、昨日の夜は、つかれたから朝早くの集会には行かないって言ったのに、どうして行くことにしたんですか？」エレンが準備をととのえ、泊まっている家を出ようとしているのを見て、息子のウィリーがたずねました。

エレンは、「イエス様が明け方の3時少し前に、わたしのところに天使を送って下さったの」と答えました。「それで起きて、その幻を書きとめたの。このことを今朝、働き人たちに伝えるように言われたから。」

ウィリーは前に、エレンがこの幻を話し始めるのを何度も聞いたことがありました。けれどもそのたびに、最後まで話すことができませんでした。こんどこそ、最後まで話せるのでしょうか？

ウィリーと母親が集会の部屋に入ったと

き、働き人たちは、ちょうど祈り終えて立ちあがるころでした。世界総会の総理が、彼女にあいさつをしました。「ホワイト姉妹、よく来てくれました。わたしたちへ、何かメッセージがあるのですか？」



Little Folk Visuals

エレンは、「ええ、ありますとも」と答えて、部屋の前のほうに歩きながら言いました。「今朝3時前に、ひとりの天使がわたしを起こして、ニューヨークで見せ

られた幻のことを皆さんに話さなくてははいけない、と告げました。」そして、幻の話をしました。この幻の中で、彼女が天使のあとをついていくと、男性ばかりがいる部屋にきました。彼らは教会から出版されるある読み物について、何の記事をのせるべきかを決めようとしていました。

話し合いはまとまらず、その中の何人かはイライラしていました。「この安息日と再臨についての記事ははずさないかぎり、この読み物は使えませんよ。」ひとりの男が立ち上がり、1枚の紙を頭上に高くかかげて言いました。

エレンは他にも、この会議で見たり聞いたりしたことや、イエス様がその記事

を雑誌にのせることをのぞんでおられると
天使が告げたことも話しました。それから
彼女はすわりました。

世界総会の総理は、天使がどの会議を
エレンに示したのかわかりませんでした。
しかしそのとき、部屋の後ろの方
ひとりの男性が立ち上がり、話し始めまし
た。

「わたしは昨晚、その会議に出ていまし
た。」

ホワイト夫人は、とてもおどろいたよう
すをしていました。「昨晚ですって？わた
しはてっきり、何か月も前の会議を見せら
れたと思っていました」と、彼女は大きな
声で言いました。

「いいえ、それは昨日の夜の事です。
そして、記事を手に掲げて、あのような
発言をしたのは私なのです。」男性は告白
しました。「私はまちがっていました。こ
れからは、正しいほうを支持したいと思
います。」彼がすわると、別の男性が立ち
上がりました。「私もその会議にいました。
ホワイト姉妹のおっしゃることは、まさに、
昨日の会議で起こったことそのものです。」

これでようやく、なぜイエス様が、エレ
ンに幻のことを思い出させないようにした
のか、理由がわかりました。だれかが前
もって、エレンにこの会議で起こったこと
を教えたのだろう、と言える人はいません。
まただれも、これは彼女の作り話だろうと
言うことはできません。彼女のメッセージ
がイエス様から来ていることが、みんなに
わかりました。イエス様は、これまでに起
こった事と同じように、これから起こる事

もご存じであることもわかりました。わた
したちは、イエス様が聖書の中に書かれ
たメッセージと、彼の特別な助け手をと
おして語られたメッセージを、いつでも信
頼することができるのです。

(おわり)

だいしょう 第12章

おし 教えといやし



あんしょうせいく 暗唱聖句

「わたしはあなたの名を呼んだ。あなたはわたしのものだ。」

イザヤ 43:1

にちようび 日曜日

ガリラヤ湖のほとりで、ある朝、空に光がさし始めるころ、イエスは天の父とのしずかな時間を楽しんでいました。もうすぐ、イエスの話を聞きたい人々が大勢やってくるはずです。

近くでは、漁からもどった弟子たちが、魚をとる網を洗っています。昨夜は一匹も魚がとれなかったのに、彼らはがっかりしていません。漁をしていた間、ユダヤ教の指導者たちがイエスを嫌っていることについて話していました。そのことも、さらに彼らの心を重くしていました。

そろそろ、群衆がやってくるころです。人々が

どんどん押しかけてくるので、イエスはペテロの船に乗り、岸から少しこぎ出して、船の上から話をすることにしました。こうすれば、だれからもイエスがよく見えて、話もよく聞こえることでしょう。ルカ 5:1-3。

岸のほうでは、人々がひしめきあっています。そこには漁師、老人、若者、お金持ち、貧乏な人、高い教育を受けた人、無学の人、病気の人、そしてユダヤの律法学者まで、ありとあらゆる種類の人たちがいました。一人ひとりが、湖に浮かぶ船の上にすわって、真理のみことばを語るイエスの話に聞き入っていました。

人々が帰ったあとで、イエスはペテロに、沖まで船をこいでいき、そこで網をおろすようにと言いました。4節。

漁師であったペテロは、イエスは漁のことをあまり知らないのだろう



おも
と思ったはずです。たしかに、イエスは
だいく
大工でした。おそらく先生は、夜のほうか
せんせい よる
漁をするのにいい時間であることを知ら
じかん し
ないのだろう、とペテロは思いました。そ
おも
れでも、イエスのことが大好きだったペテ
だいす
ロは、彼を喜ばせたいと思ったのでした。
かれ よろこ おも
ペテロは何をしましたか？ 5 節。

かんが
考えてみよう:ほかに、おかしなことの
かんが
ように思われることをするようにと、神様
おも
が言われたときがありましたか？ナアマ
かみさま
ン将軍はどうでしたか？エリヤとやもめの
い
物語は？ベテスダの池のそばにいた、動
しやうぐん
ものがたり いけ
けなかつた男はどうでしたか？
おとこ うご

げつようび 月曜日

シモン・ペテロと兄弟のアンデレは、
きやうだい
イエスの言葉にしたがいました。
ことば
ふね おき つ
船が沖に着いたところで、彼らはふたび、
あみ みず なか
網を水の中へおろしました。

きやうだい
兄弟であるふたりは網を引き上げようと
あみ ひ あ
しましたが、引き上げることができません。
ひ あ
網には魚がつかまっていて、彼らの船だけ
あみ さかな
では運べそうにありません。
ふね かわ
かれ

かれ べつ ふね
彼らは、別の船にのっ
ていたヤコブとヨハネ
て あいず
に、手で合図をしながら、
てつだ
「手伝ってくれ!」と叫び
べつ ふね
ました。別の船にいたヤ
いそ
コブとヨハネが、急いで
てつだ
手伝いにきました。やが
ふね さかな
て、どちらの船も、魚でいっ
ぱいになりました。ルカ
5:6,7。



きせき ま あ
この奇跡を目の当たりにしたペテロは、
なに
何をしましたか？ 8 節。ペテロはイエスに、
せつ
「わたしから離れてください」と言いなが
はな
ら、イエスの足をつかんで放しませんでし
あし はな
た。本当は、イエスから離れたくなかつ
ほんとう
たのです。彼はただ、イエスの弟子のひ
かれ
とりとして、自分はふさわしくないと感じ
で し
たのでした。ほかの弟子たちも、同じ思
じぶん かん
いでした。やさしいまなざしでペテロを見
み
つめながら、イエスは何と言いましたか？
せつ
9,10 節。

りやうし
漁師であったこれらの弟子たちは、こ
で し
の時まで、時間があれば自分の仕事をし
じかん じぶん しごと
ていました。それはもちろん、彼ら自身
かれ じしん
と家族をやしなうためでした。けれども、
かぞく
みずうみ きせき み かわ
湖でのこの奇跡を見た彼らは、すべての
ひつよう
必要をイエスが満たして下さることを知り
み くだ し
ました。その同じ日に、彼らは何をしまし
おな ひ かわ なに
たか？ 11 節。

かんが
考えてみよう:イエスの言われた「人間
い にんげん
をとる」とは、どういう意味ですか？聖霊
い み せいれい
が弟子たちをとおして人々の心に働きか
で し ひとびと ところ はたら
かけ、人々がイエスを信じることを選ぶよう
ひとびと えら
に助けてあげるという意味ですか？イエス
たす い み
は今でも、そのように人々をお用いになり
いま ひとびと もち

ますか？イエスは、子供で
こども
もお用いになりますか？も
もち
ちろんです。あなたなら、
ほうほう もち
どのような方法で用いられ
おも
ると思いますか？

かようび 火曜日

カペナウムは、美しいガリラヤ湖に面したところにありました。外国へ旅をする人々は、カペナウムにある街道を通り、しばしばそこで足を止めて休むことがありました。イエスも時々、そこで旅の疲れをいやしました。

カペナウムで、イエスは遠い所からやってきた人々と会って、話をすることができました。イエスの話を多くの人が覚えていて、行く先々で他の人たちにそれを伝えました。サンヒドリンは、イエスが教えるのをやめさせようとしたのですが、人々はますます熱心に彼にしたがっていきました。ほかの教師たちの教えとイエスの教えは、なんとちがっていたことでしょうか！イエスは病気をいやし、なぐさめの言葉を語りました。彼は、天の神とその律法を、はっきりと分かりやすく説明しました。

ある安息日のこと、イエスはカペナウムにあるユダヤ教の会堂で、大勢の人々に話をしていました。人々はいつものように、しずかに聞き入っています。聖霊が、人々の心に感動を与えていました。イエスは、一人ひとりの心の思いを知っていました。神の国についての話を聞いて、ますますイエスを信じる人たちもいれば、同じ話を聞いてがっかりする人たちもいるのが見てとれました。するととつぜん、大きな叫び声が聞こえてきました。ル

カ 4:31-33。

叫び声をあげたのは、だれだったのでしょう？彼はなぜ、急に席から立ち上がったのでしょうか？かれは、何と叫んでいましたか？

かんがえてみよう：わたしたちが集まってイエスのことを学ぶとき、サタンもそこに入りますか？サタンにじゃまをさせないように、天使たちがそば近くにいることを、どうやって確信することができますか？

すいようび 水曜日

カペナウムの会堂で、イエスに向かって突進してきた男は、サタンに心を支配されていました。はじめのうちは、大したことではないと思われるような小さなまちがいをつづけていました。ところがじきに、もっと悪いことをするようになり、しまいにはサタンのとりことなってしまうのでした。

今となっては、自分の力でサタンから逃れることができなくなっていました。けれども、イエスの話を聞いているうちに、心の奥深くの何かが、イエスなら自分を助けることができることささやいたのです。この男の選ぶ力をサタンがとりあげるのを、神はゆるしていませんでした。

男は、サタンから自由になりたかったのですが、サタンは彼を放そうとしませんでし



た。サタンは怒っていました。それは、彼が人々をイエスの王国から引きはなそうと、あらゆる手をつくしている一方で、多くの人々が神の国を選ぶようにと、イエスが働きかけていたからです。

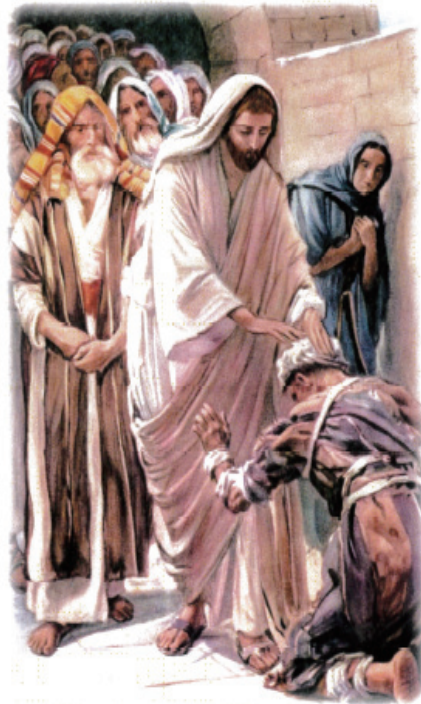
イエスに突進してきた男は、なんと叫びましたか？ルカ 4:34。

イエスには、この男が本当に言いたい言葉をサタンが言わせないようにしているのがわかりました。サタンも、もしイエスがサタンとの戦いに勝てば、彼と悪天使たちとは永遠に滅ぼされてしまうことを知っていました。

イエスは、ほんの少ししか語りませんが、サタンもそこにいた人々も、すぐにどちらが強いかを知りました。35-37節。

またも、イエスが勝利しました。その日の出来事がきっかけで、さらに多くの人々がイエスのことを耳にしました。

考えてみよう：イエスの者となることを選ぶとき、わたしたちはサタンから安全に守られますか？サタンは、なんども何度もわたしたちを誘惑しようとしますか？私たちはそのたびに、どちらに従うかを選ばなくてはいいませんか？あなたは、心から喜んでイエスを選んでいますか？彼も、そのことを喜んでおられます。あなたのことをとても愛しておられる彼は、サタンがあなたを



滅ぼそうとねらっていることをご存じだからです。

もくようび 木曜日

だれか親しい人がとても重い病気、たとえばガンのような病気になったと聞いたら、わたしたちは「まさか、そんな！」と、とても悲しい気持ちになります。聖書の書かれた時代、もっとも恐ろしい

病気は、ライ〔ハンセン〕病でした。治療する方法がなく、おまけにほかの人うつる、本当に恐ろしい病気でした。

ライ病にかかった人は、ひどい姿になりました。ライ病患者は、病気をうつさないように、家族や友人たちから引き離され、遠いところに住まなくてはなりません。もしだれかが近づいてきたら、「汚れた者！けがれた者！」と叫ばなくてはなりません。ライ病にかかっていない人が、まちがって彼らに近づくことのないためでした。わかっていて、彼らにふれる人はだれもいません。彼らがさわったものも、すべて汚れたものとなりました。

ライ〔ハンセン〕病にかかって一番つらかったのは、この病気は神からの天罰だと、みんなから思われたことでした。祭司たちは、ライ病患者のことを、絶望的な〔まったく希望のない〕人たちと教えていました。祭司たちは彼らをあ

われむことなく、助けもしませんでした。
ライ病が治った人はナアマンが最後で、
それはイエスが生まれる何百年も前の
出来事でした。

しかし、ライ病にかかったある男が、あ
ちこちで困った人々を助け、素晴らしい
活動をしているイエスのことを耳にしまし
た。イエスは、助けを求めて来た人がだ
れであっても、決して追い返さないと聞き
ました。イエスは、彼を助けてくれるでしょ
うか?男は、それを確かめようと思いま
した。

イエスが湖のほとりて群衆に説教をして
いると聞いたライ病の男は、そこへ行くこ
とにしました。遠くはなれたところに立っ
ていても、イエスの話はかすかに聞こえ
ました。そして遠くから、イエスが盲人や
足の不自由な人、耳の聞こえない人など、
いろいろな病気をいやしているのが見え
ました。

考えてみよう: このライ病の男は、
勇気を出してイエスの近くにやってくるでしょ
うか?また、イエスは彼を助けるでしょうか?

きんようび 金曜日

じょじょに、ライ〔ハンセン〕病の
男が近づいてきます。するととつ
ぜん、だれかが彼に気づきました。「うわ、
ライ病人だ!あっちへ行け!」人々は恐怖
であわてふためき、いっせいに後ろへ下が
り、そこから離れました。それでも男は、
まっすぐイエスに向かって進んでいきます。
男は、イエスにその気持ちがあれば、か

ならず自分をいやすことができるのを知っ
ていました。イエスの近くにやってきた彼
は、何をしましたか?マルコ 1:40。

イエスは、このあわれな男を見て、そ
れから前かがみになりました。人々は離
れたところから、かたずをのんで見ていた
ことでしょう。41,42 節。

そして、イエスは彼をいやしてあげまし
た!完全にいやされたのです!見ていた人
たちは、信じられない気持ちでした。そ
れから彼らは、いやされた男が次にする
べきことをイエスが語るのを聞きました。
それは何でしたか? 43,44 節。

イエスは、この男をいやしたのが自分
であると祭司たちに知られる前に、彼が
治ったことを正式に認めてもらいたかった
のです。しかし男は、このことをどうして
黙っていられるでしょう?急いでその場を
去り、神殿でささげるべき供え物を手に
入れましたが、自分の身に起こったことを、
みんなに話さずにはいられませんでした。

神殿で、この男を注意深く検査した
祭司たちは、ずっと以前、彼がライ病人
であることを宣告したのと同じ祭司たちで
した。こんどは、男が治ったことを認めな
くはいけません。これで、ふたたび家
に帰って家族に会うことができます。そし
てふたたび、安息日にみんなといっしょに
教会へ行くことができるのです。

ライ〔ハンセン〕病をいやされた男は、
なぜイエスがこのことを誰にも言わない
ようにと言ったのか、理由がわかりませ
んでした。おそらく、イエスがへりくだっ
て、ひかえめにしているだけだと思っ

でしょう。けれどもイエスは、もし大勢の
ライ病患者がいやされるために彼のところ
に来てしまったら、ほかの人々は恐くて近
づけなくなってしまうことを知っていまし
た。それに、ライ患者の多くは、自分
たちの生きかたを変えることはないでしょ
う。いやされた男がたくさんの人たちに
話してしまったので、イエスについてくる
群衆の数はさらにふくれ上がり、イエスは
少しの間、人助けをやめなくてはなりません
でした。

かんが
考えてみよう：ライ病と罪は、とても似て
います。ライ病は、人間を死にいたらせま
す。罪もおなじです。そうではありませんか？
しかし、ライ病をいやすことのできるお方
は、わたしたちの罪をゆるし、とりのぞき、
わたしたちの心をきれいにしてくだ
さることもおできになります。

まな もっと学ぼう！

★ルカ 4:31-37;5:1-16

★各時代の希望 25-27章



エレンのヘアネットーその1

エイミー・シェラード

このお話にでてくる少女の名前は
わかっていせんが、とりあえず、
エヴァと呼ぶことにしましょう。彼女は
学生で、カリフォルニア州のいなかにある
大学の近くの、大きく
てりっぱな家に住んで
いました。その家は、
花が咲いているお庭
や、果物のなる木々
で囲まれていました。
ここは、エレン・ホワ
イトが歳をとってから
住んだ家です。



Little Folk Visuals

エレンは、学生の援助〔困っている人
に力を貸すこと〕をしてあげるのが好きで
したし、エレンの家に住んでいる学生た
ちも、イエス様の特別な使者である彼女
と同じ家でくらすことを喜びました。

ある日のこと、エヴァがエレンの寝室に
何かをとりにきました。鏡台のところを通
りすぎようと歩き始めたとき、彼女は立ち
止まって、鏡台に置かれているある物を
じっと見つめました。それは絹のヘアネッ
トでした。その当時の女性は、ヘアネット
をかぶっていました。そして、エヴァはヘ
アネットが欲しいと思っていたのです!す
ると、小さな声がこう言ったような気がし
ました。「もらっちゃいなさいよ。ホワイト

夫人は、それがなくても絶対に困らない
わ。」こんどは、別の小さな声がこう言っ
たような気がしました。「それは、盗むこ
とです。」

エヴァは、それで
もヘアネットをじっ
と見ていました。そ
して、あたりを見回
しました。見てい
る人はいません。
彼女は、すばやくヘ
アネットを手にとり、
それを持ったまま自分の部屋へかけこみ
ました。部屋にもどったエヴァは、自分の
旅行かばんを開け、かばんのすみっこに
ヘアネットを押しこんで、そっと旅行かば
んを閉めました。

2階に上がってきたときのエヴァの
心は、晴れ晴れとしてご機嫌でしたが、
階段をおりるときには、いつものようにに
こにこしてはいても、すっかり気持ちはふ
さいでいました。

同じ日、しばらくたってから、ホワイト
夫人が出かける支度をするために自分の
部屋へもどりました。髪をとかして、ヘア
ネットのほうへ手をのばしましたが、置い
たはずのところにありません。「きっと床
に落ちてしまったのね」と思ったのですが、

床にも落ちていません。注意深く探してみましたが、どこにもないのです。「他にありそうなところは、どこかしら?」と、自分の記憶をたどってみました。しかし、どうどうあきらめて、ヘアネットをつけずに出かけました。

その日の夕方、礼拝の時間になったので、いつものように全員が暖炉のまわりに集まりました。学生たちは皆、礼拝の時間が大好きでした。エレンはたびたび、教会が始まったばかりの頃の話をしました。ところが、その日はまず「だれか、わたしのヘアネットを見かけませんでしたか?」とたずねました。「鏡台の上に置いてあったのですが、午後とりに行ったら、なくなっていました。ヘアネットが、自分でどこかへ歩いて行くはずはないし、しかも、それは必要なものなのです。」

女生徒たちのだれも、なくなったヘアネットのことを知っているような様子はありません。ただエヴァだけは、自分が盗んだことをわかっています。しかも今、何も知らないようなそぶりをしたことで、自分が嘘をついたことにも気づきました。

ホワイト夫人は、それ以上、ヘアネットのことにふれませんでした。彼女はそれを祈り、待つことにしたのです。

それから、1日か2日がたちました。エレンが何かの用事でエヴァの部屋に入ると、どこからか声が聞こえてきました。彼女は立ち止まり、頭をふりました。その声が「やりなさい」と言っていることを、やるべきではないと思ったのです。けれども、声が二度も同じことを語りかけてきた

ので、その声にしたがうことにしました。

(つづく)

だいしょう 第13章

つみびととも 罪人の友、イエス



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

かみ
「神ひとりのほかに、
だれがつみ
罪をゆるすことができるか。」 マルコ 2:7

にちようび 日曜日

ガリラヤ湖のそばにあるにぎやかな町、カペナウムのことを覚えていますか？そこにイエスが滞在していたときに、素晴らしいことが起こりました。

イエスはペテロの家におり、家は、イエスの話を聞きにきた人でいっぱいでした。マルコ 2:1,2。

そこにはイエスの弟子たちも、パリサイ人たちもいました。人々の心に感動を与えようとする聖霊もいましたが、パリサイ人たちはそのことを知りませんでした。ルカ 5:17。

そこに來ていたパリサイ人や律法学者たちが、実はスパイであることを、イエスは知っ

ていました。彼らは、イエスが説教をしたり、教えたり、人々をいやしたりするのをやめさせる理由を見つけたかったのです。

イエスが話していると、とつぜん、真上で大きな音がしました。そこにいたみんなが、いっせいに上のほうを見たことでしょう。いったい、何が起こったのでしょうか？平らな屋根の上で、だれかが何かをしている音が聞こえます。なぜか4人の男が、屋根に穴をあけています。穴は、みるみ

るうちに大きくなっていきました。

もしかすると、中のだれかが、屋根のようすを見に行つたかもしれませんが、あるいは上の男たちが、下の人たちに大声で説明しようとしたかもしれません。いずれにしても、イエスは何が起こっているのかも、その理由もよ



くわかっていました。

屋根の穴がどんどん大きくなり、ついに4人の男たちの姿が見えました。彼らは、ゆっくりとベッドのようなものをつりおろしていました。イエスの足もとにおろされたベッドには、病気が寝かされているではありませんか。屋根の上からイエスを見おろしている4人の顔を、想像することができますか？ 19節。

考えてみよう：この男はだれでしたか？これからどうなるのか、屋根の穴から心配そうに見ていた4人の男たちは、だれでしたか？

げつようび 月曜日

屋根の穴からつりおろされて、イエスの足元に横たわっているこの男は、どんな病気をわずらっていましたか？

マルコ 2:3,4。

安息日に、ベテスダの池でいやされた男のように、このあわれな男も、動くことができませんでした。また彼も、ベテスダの池でいやされた男と同じように、正しい生きかたをしてこなかったために、病気になっていました。本人も、それをよくわかっていました。医者たちは、もう治る見込みはないと言いました。パリサイ人たちも、彼がこうなったのは自分のせいで、神が罰を与えているのだと言っていました。そして、彼にまったく同情しませんでした。



男は死にかけていましたが、もし神が罪をゆるしてくださるなら、死んでもかまわないと思っていました。しかし、神のゆるしをうける望みはまったくないと、言われていたのです。

そんな中、男はイエスのことを耳にしました。彼の友人たちは、イエスがどん

な病人でもいやし、たとえ神から恐ろしい罰をうけていると思われる人でもいやされたという話をしてくれました。しかも、あのもっとも恐ろしいライ〔ハンセン〕病でさえも、いやされたと言うのです。友人たちも、彼をイエスに会わせてやりたいと思いました。

彼は、イエスに会いたいと、どれほど願ったことでしょうか。イエスから、「あなたの罪はゆるされた」と言われるだけでも、彼は幸福にみたされて、いつ死んでもいいと思えるはずですが、でも、どうやってイエスに会いに行けばいいのでしょうか？

考えてみよう：このあわれな動けない男は、何を心から求めていましたか？病気を治してもらったことでしたか、それとも、神が今でも自分を愛しておられるという確かな証拠でしたか？

かようび 火曜日

罪のゆるしを心から願っていたこの男は、イエスに会いに行く方法はひとつしかないと思いました。友人たち

にたのんで、自分をイエスのところへ運んでもらうのです。

友人たちは、喜んでイエスのところへ連れて行ってあげると言いました。そして、それを実行してくれたのです。4人の男たちは、彼をベッドごと運んでくれました。

イエスのおられるところへやってきた彼らは、なんとか群衆をかきわけて家に入ろうとしました。ところが、人が多すぎて、どうしても中に入ることができませんでした。ここまで来て、あきらめなくてはいいのでしょうか？

このあわれな男は、自分を助けることのできる唯一のお方のすぐ近くまで来ているのに、そのお顔も見ることができなくて、今にも失望しそうでした。しかしあきらめずに、「ぼくを屋根の上につれていき、それから屋根に穴をあけて、穴からぼくをつり下ろしてくれないか？」とたのんだのでした。友人たちは、お願いされたとおりにやってくれました。ルカ 5:18,19。

寝たきりの男の友人たちは、外の階段を注意ぶかくのぼって、平たい屋根の上まで彼を運びました。それから、彼をベッドごとつり下げられるていどの穴をあけるために、屋根の材料をはがし始めたのでした。穴をあけてから、ベッドのはしをロー



プでしっかりと縛り、ゆっくりとイエスの足もとにおろしました。

イエスはどうするだろうか？みんなが、どうなるかを

見守っています。特に、律法学者とパリサイ人たちは、熱心に見ていました。かれにはもう希望はないと、宣告した人々です。もしイエスが彼をいやしたなら、人々はこれまで以上にイエスを信じるでしょう。そして、人々はパリサイ人や律法学者たちをこれまで以上に、信じなくなるはずで

す。イエスは、やさしく男を見つめました。病気をいやされることよりも強く求めていることが何であるかも、すでに知っていました。男に対して語られた、イエスの最初の言葉は何でしたか？マルコ 2:5。

イエスを見上げたときに、彼はゆるされました。ああ、なんて素晴らしいことでしょう！

かんがえてみよう：イエスは、スパイたちが考えていることをすべてご存じでした。彼が神の子であることを、彼らが信じないこともご存知でした。男に「あなたの罪はゆるされた」と言えば、スパイたちが、イエスは自分が神だと言い張っている、と責められることもご存知でした。そして、彼を死刑にするための口実として、彼自身の言葉が使われることも知っておられました。イエスは、どうなさるのでしょうか？

すいようび 水曜日

パリサイ人と律法学者たちは、顔を見合わせました。彼らはみな、同じことを考えていました。「イエスの働きをやめさせなくては。そのためには、今彼が言ったことを使って、彼を攻撃しよう。」

イエスの言ったことを聞いたほかの人たちも、罪をゆるすことができるのは神だけであることを知っているはずだ」と考えたのでした。マルコ 2:6,7。

イエスがふり返ってパリサイ人と律法学者たちのほうを見ると、彼らは急に恐ろしくなり、後ずさりしようとしてしました。イエスが彼らの考えていることを見ぬいているような気がしたのです。そして、イエスの次の言葉を聞いて、本当に見ぬかれていることが分かったのです。8,9 節。

それからイエスは、寝たきりの男を見ました。そして、何と言いましたか？ 10,11 節。

男はすぐに床から飛び上がり、自分の足で立ち、神をほめたたえました。そして、自分のベッドを軽々ともちあげたのです。みんなが、彼のために道をあけました。いやされた男がそこを出ていくとき、人々は互いに何と言っていましたか？ 12 節。

わたしたちの偉大なるいやし主は、罪のために死にかけていた男をいやされました。しかも一番すばらしいのは、この男の罪がゆるされたことでした。

考えてみよう: 家にもどったこの男を見て、家族はどう思ったでしょう？このことを喜ばなかったのは、だれでしたか？なぜ喜ばなかったのでしょうか？イエスは、怒りにみたまされたこれらのスパイたちを愛しておられま

したか？彼らは、自分たちのした選びが悪かったと反省しましたか？イエスは、わたしたちがまちがった選びをするとき、悲しまれますか？

もくようび 木曜日

イエスは、弟子にする人を注意ぶかく選びました。彼らは皆、自分からすすんで、これまでの仕事を捨ててイエスといっしょにくらし、できるだけくさんの学びをしたいと思いました。中には、家族を食べさせなくてはいけない人もいましたが、それでも彼らは、イエスにすべてをお任せすることにしたのでした。はたしてイエスは、その期待を決して裏切りませんでした。何も心配はいらなかったのです。

弟子たちは一人ひとり、みんなちがいました。彼らは働き盛りの男たちで、ほとんどの人は、生きていくためにいっしょけんめい働かなくていけなかったはずでした。また中には、給料の高いことで知られる仕事を捨てた人もいました。「マタイ」と呼ばれていた人です。彼は、ローマ政府のために税金をとりたてる仕事をしていました。人々からは「取税人」と呼ばれ、嫌われていました。それは、取税人たちが日ごろから、集めるべきお金よりも多く支払うよう求め



て、そのよぶんなお金を自分のふとこ
ろに入れていたからです。

自分の話を聞いているマタイのことを、
イエスは知っていました。聖霊がマタイ
の心に語りかけ、彼が取税人の仕事をや
めて、正直で正しいことをしたいと願うよ
うになっていたことを、イエスは知ってい
ました。しかしマタイは、取税人がユダ
ヤの指導者たちからどう思われているか、
よく知っていました。それで彼は、このイ
エスというりっぱな先生も、自分のことな
ど気づきもしないだろうと思っていたので
す。ところがある日、マタイの目の前にあ
らわれたイエスは、彼に何と言いました
か？**マタイ 9:9**。

マタイは、これまでかせいだお金のこ
とすら考えませんでした。直接イエスから
弟子にならないかと誘われて、彼は自分
の仕事を捨てて、イエスにしたがいました。
あまりにうれしくて、イエスのために宴会
をひらいたほどでした。そこに多くの友だ
ちを招いて、イエスに会わせようとしまし
た。**ルカ 5:29**。

その宴会にでたイエスを、ユダヤの
指導者たちはどう思いましたか？ **30 節**。

彼らが弟子たちに言ったことを聞いたイ
エスは、自らお答えになりました。イエス
は指導者たちに、彼らは自分たちがとて
も賢くて正しいので何の助けもいらないと
思っている、と言いました。 **31 節**。

考えてみよう： 本当^{ほんとう}に助けが必要^{たす}だった
のは、だれでしたか？ 自分が完全^{かんぜん}だと思っ
ている指導者^{しどうしや}たちですか？ それとも、自分
が罪人^{つみびと}だと知っている取税人^{しゆぜいにん}たちですか？

わたしたちが他の人たちを見て、自分の
ほうが良い人間^{よ にんげん}だと思^{おも}うなら、それはサタ
ンを喜^{よろこ}ばせていることになります。誇^{ほこ}り高^{たか}
ぶっているからです。高慢^{こうまん}な人間^{にんげん}は、決^{けつ}
て天国^{てんごく}に入^{はい}ることができません。

きんようび 金曜日

イエスは弟子^{でし}たちに、正式^{せいしき}に神^{かみ}の
働き人^{はたら びと}に任命^{にんめい}される準備^{じゆんび}をさせ
ていました。それはつまり、イエスが彼
らを教^{おし}えるときに、聖霊^{せいれい}が特別^{とくべつ}な方法^{ほうほう}
で助^{たす}けてくださるよう、願^{ねが}いすることです。
そこへ、イエスから選^{えら}ばれていないほかの
人^{ひと}がやってきて、自分^{じぶん}も弟子^{でし}になりたいと
言^いいました。彼^{かれ}の名前^{なまえ}は、ユダ^{ユダ}と言^いいました。

マタイ 8:19。

ユダは背^せが高^{たか}く、ハンサムで頭^{あたま}のいい
人物^{じんぶつ}でした。彼^{かれ}がイエスの弟子^{でし}になりた
いというのを聞^きいて、弟子^{でし}たちはよろこび
ました。ところが、イエスは悲^{かな}しい気持^{きもち}
でした。ほかの弟子^{でし}たちが知^しらないことを、
イエスは知^しっていたからです。ユダ^{ユダ}が彼^{かれ}
らの仲間^{なかま}に加わりたい本当^{ほんとう}の理由^{りゆう}を、イエ
スは知^しっておられたのです。

ユダは、お金^{かね}を愛^{あい}する人^{ひと}でした。もしも
人々^{ひとびと}が望^{のぞ}んでいるような国^{くに}をイエスがたて
たら、自分^{じぶん}がその国^{くに}で高^{たか}い地位^{ちい}につきた
いと思^{おも}っていました。そうすれば、大金^{おおがね}持
ちになれるから。

イエスはユダ^{ユダ}を愛^{あい}しておられました。も
しユダ^{ユダ}が、本当^{ほんとう}に自分^{じぶん}の心^{こころ}をイエスにさ
げたら、彼^{かれ}はすばらしい働き人^{はたら びと}となっ
たことでしょう。しかしイエスは、ユダ^{ユダ}が

そうしないことを知っていました。また、ほかの弟子たちがユダをすっかり信用していることも知っていました。イエスはユダを弟子として受け入れ、彼がお金よりもイエスを選ぶ機会を与えようと決心しました。ただし最初に、自分たちと一しょにすることが決して簡単なことではないことを、ユダに対してどのように警告しましたか？ 20 節。

かんが
考えてみよう：今週の勉強に出て来た人物に似たような人々は、今の時代にもいますか？ある男は、罪を犯したため寝たきりになりましたが、罪人を愛しておられるイエスは、よろこんで彼をゆるし、いやして下さいました。マタイはお金持ちでしたが、彼はお金よりもイエスを愛しました。ユダは、イエスを愛していると言いましたが、イエスよりもお金を愛しました。

まな
もっと学ぼう！

★マルコ 2:1-17

★ 各時代の希望 28、30 章



エレンのヘアネッターその2

エイミー・シェラード

エレンのヘアネッターが、なくなってしまいました。それがどこにあるのかは、エヴァだけが知っていますが、彼女はこわくて言い出せません。ある日、エレンがエヴァの部屋に行くと、声が聞こえてきました。



Little Folk Visuals

その声が、「旅行かばんを開けなさい」と言うのです。しかしエレンは、他人のかばんをあけて見るのはよくないと思いました。するとふたたび、「旅行かばんを開けなさい」という声が聞こえてきたのです。ようやくエレンは、天使が自分に話しかけていることに気づきました。エレンは、声にしたがいました。はたしてかばんの中には、なくなっていたヘアネッターがありました。彼女はヘアネッターをかばんの中に残し、かばんを閉めてから仕事にもどりましたが、もうヘアネッターのことは考えていませんでした。エレンはエヴァのことを考え、悲しくなりました。エヴァは盗みをしたのです。しかも、ヘアネッターのことは何も知らないかのようにふるまうことで、うそをつくという罪も犯していたのです。なんということでしょう!

その日の夕方の礼拝で、エレンはもう

いちど、女生徒たちにヘアネッターのことをたずねました。ところがエヴァは、ほかの子たちと同じように、まるで何も知らないというような態度をしています。そしてこの時にも、エレンはこれ以上何も言いませんでした。今ではもう、エヴァはひどくおびえているにちがいません!二度も嘘をついてしまったのですから。

それから数日後、エレンは暖炉のそばで、書く仕事をしていました。何時間もたつと、つかれてきました。彼女は手を休めて、暖炉をのぞきこみました。とつぜん、イエス様から短い幻を見せられました。ヘアネッターを持つ手が見えます。手は、テーブルの上で火をともしているランプのほうへと動いて行き、ヘアネッターを火の上にかざしました。その瞬間、火はヘアネッターを燃やし、ヘアネッターは消えてしまいました。そこで幻は終わりました。この幻は、これまで見せられた幻の中で、最も短いものでした。こうしてエレンは、エヴァがヘアネッターをあのように処分したことを知ったのでした。

その日の夕方の礼拝で、エレンはまとも、ヘアネットのことをたずねました。エヴァが告白してくれたらと、エレンがどんなに願ったことでしょう!ところが、こんどもまた、だれも何も言いませんでした。

次の日、エレンはエヴァと話をしました。語りかけてきた声にしたがって、旅行かばんを開けたことを話しました。また、エヴァがどのようにしてヘアネットを燃やしたかを示した、短い幻のことも話しました。

エヴァは、自分がしてしまったことと、自分がサタンの誘惑に負けてしまった時から、ひどく恥ずかしい思いをしていたことを告白しながら、しくしく泣きつづけました。エヴァはホワイト夫人に、どうか自分をゆるしてほしいと言い、もちろんエレンは、心からよろこんでエヴァをゆるしました。エレンはエヴァを愛していましたから、やっとエヴァが告白してくれたことをとてもうれしく思いました。エヴァが罪を告白し、誤りを正すことは、ヘアネットよりも大事なのですから。

エヴァもうれしかったと思いますか?エヴァは、イエス様や天使たちが、いつもわたしたちのすることや言うことを見て聞いていることを忘れてしまっていたと思いますか?エレンは、天使の声とイエス様からの幻によって、エヴァを助けることができたことをよろこびました。

(おわり)